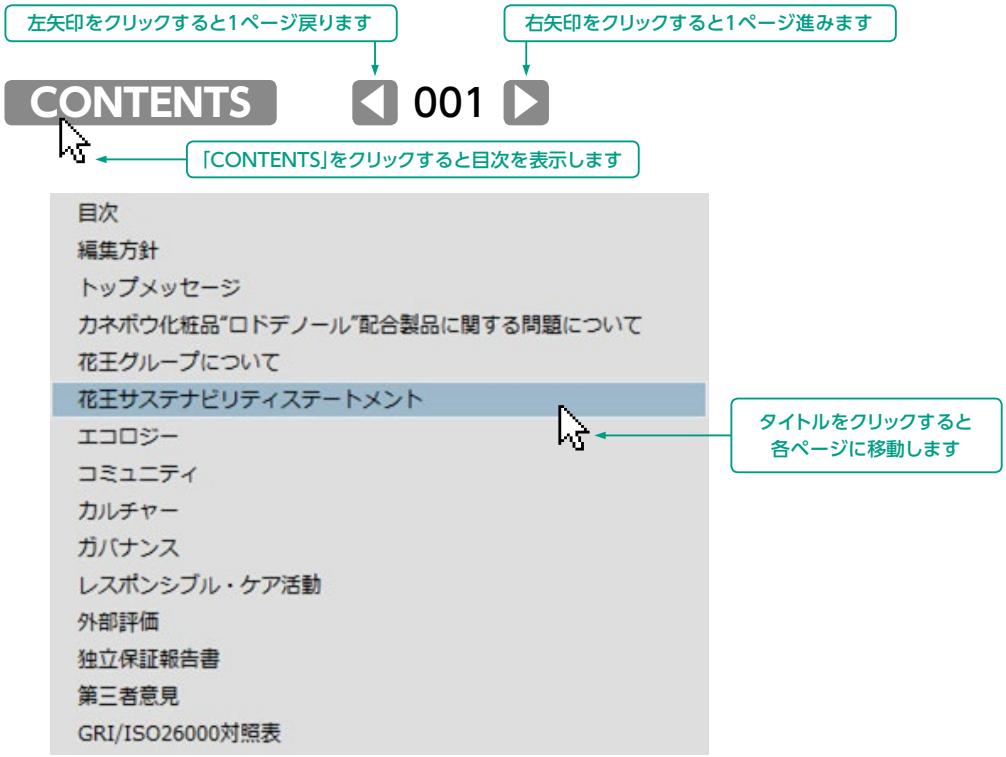
花王サステナビリティレポート 2015

自然と調和する
こころ豊かな毎日をめざして

Kao

このPDFの使い方

●各ページの右上に、「目次ボタン CONTENTS 」と「ナビゲーションボタン ◀ ▶ 」を設定しています。



●本文中に➡マーク／ Web マークでリンクを設定しています。
クリックすると該当ページ・該当ウェブページへ移動します。

目次

このPDFの使い方 …… 0
編集方針 …… 2
トップメッセージ …… 3
グループ会社のカネボウ化粧品による「医薬部外品有効成分“ロドデノール”配合製品」に関する問題についてのおわびと対応 …… 6
花王グループについて …… 8
財務・非財務ハイライト …… 8
事業紹介 …… 10
主な拠点と事業展開 …… 12
花王サステナビリティステートメント …… 13

エコロジー

●事業活動による環境負荷の低減

ハイライト
ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減 …… 20
水資源への対応 …… 22
実績と目標 …… 23
化学物質の適正管理 …… 24
生物多様性への対応 …… 28
その他の環境負荷 …… 32
環境に配慮した容器包装 …… 34
製品ライフサイクルと環境負荷 …… 36
環境会計 …… 38

●ステークホルダーと連携した環境活動

ハイライト
行政と連携した環境活動 …… 40
環境コミュニケーション …… 41

コミュニティ

●事業を通じたコミュニティへの積極的な関わり

ハイライト
各国で小中学校等と連携した初経教育活動を実施 …… 46
ケミカルサプライチェーン全体での情報共有サポート …… 47
品質保証の取り組み …… 48
ユニバーサルデザインの取り組み …… 51
お客さま(消費者)とのコミュニケーション …… 57
お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション …… 62

●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ

ハイライト
社員が参加する社会貢献活動 …… 66
社会貢献活動 …… 68

カルチャー

●健全な事業活動

ハイライト
「正道を歩む」の推進 …… 76
持続可能性に配慮した原材料調達 …… 77
人権への取り組み …… 78
サプライヤーとの連携 …… 79

●ダイバーシティ＆インクルージョン

ハイライト
多様な人財が能力を発揮できる企業になる …… 82
人財開発 …… 83
ダイバーシティの推進と人権の尊重 …… 86
社員との対話の推進 …… 89
ワーク・ライフ・バランス …… 90
社員の健康と生活への配慮 …… 93
労働安全衛生・保安防災 …… 96

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス …… 101
情報開示 …… 104
コンプライアンス …… 106
情報セキュリティ …… 110
リスクマネジメント …… 111
レスポンシブル・ケア活動 …… 113
外部評価 …… 118
独立保証報告書 …… 120
第三者意見 …… 121
GRI／ISO26000対照表 …… 122

編集方針

編集方針

●花王グループでは2013年7月にサステナビリティに関するグローバルな方針「花王サステナビリティステートメント」を策定しました。グローバルな社会的課題の解決に花王グループが事業活動を通じて貢献するという方向性を明確にし、注力する分野を選定しています。

●本レポート(HTML版・PDF版)では、花王グループにとっての重要課題(マテリアリティ)である3つの重点領域「エコロジー」「コミュニティ」「カルチャー」における花王グループのさまざまな取り組みを、詳細なパフォーマンスデータとともに活動報告として記載しています。

●環境、労働安全衛生のデータに関する信頼性向上のための第三者による保証に加え、報告内容全体についての客観的な評価として、社外有識者からの第三者意見を掲載しています。

●本レポートから代表的な取り組みをまとめたハイライト版冊子「花王サステナビリティレポート2015ハイライト」も発行しています。

対象範囲

花王グループ(花王株式会社および子会社、関連会社)を基本としていますが、環境・社会関連のデータについては花王株式会社および子会社を集計範囲としています。労働安全衛生など一部社員関連データは花王株式会社、子会社およびニベア花王株式会社を集計範囲としています。

掲載するデータについて、集計範囲が異なる場合は、文中に明記しました。

本レポート中の「花王」は、花王グループを示しています。範囲を特定する必要がある場合は、個別に対象組織名で記載します。

対象組織

➡花王グループ会社一覧
http://www.kao.com/group/ja/group/gateway.html

対象期間

2014年度(2014年1月1日〜2014年12月31日)。

なお、2012年度に決算期を変更したため、環境・社会関連のデータを2011年度までは4-3月、2012年度以降は1-12月で集計しており、2012年1-3月が重複しています。集計期間が上記と異なるデータにはその旨を記載しています。

定性情報については、一部2015年度の活動内容を含みます。

第三者保証

2003年から継続して第三者保証を受けています。2014年はKPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。なお、保証対象指標には★マークを表示しています。

発行時期

前回発行 2014年6月

次回発行予定 2016年6月

参考にしたガイドラインなど

●GRI「G4サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン」

●環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」/「環境会計ガイドライン2005年版」

●一般社団法人日本化学工業協会「化学企業のための環境会計ガイドライン(2003年11月)」

●ISO26000(社会的責任に関する手引)

トップメッセージ

花王株式会社
代表取締役 社長執行役員
澤田 道隆

社会的課題の解決を通じ、「利益ある成長」と「社会のサステナビリティへの貢献」の両立を図ります。

花王グループの事業活動と“よきモノづくり”

花王は創業以来、消費者起点に立ち、人々の豊かな生活文化の実現に貢献することをめざして事業活動を行なってきました。清潔・美・健康の分野で生活密着型の価値提案を行なう家庭用製品や化粧品、および広く産業界の発展に貢献する工業用製品の開発・提供など、幅広い分野で日本はもとより、アジアや欧米の数多くの消費者・顧客の皆さまの信頼をいただいています。

世界のより多くの人々への貢献をめざして、花王グループのビジネスは拡大していますが、時代の変化に合わせて、多様な人々の生活を見つめ、ニーズにきめ細かく対応した商品やサービスをお届けする“よきモノづくり”が我々の事業活動の基本であることに変わりはありません。この“よきモノづくり”をグローバルな視点で実践していくことで、花王ウェイに掲げた使命「豊かな生活文化の実現と社会のサステナビリティへの貢献」を果たすことができると考えています。

“よきモノづくり”を通じた社会的課題の解決への貢献

近年、世界のさまざまな分野で大きな変化が起きています。社会・経済環境が大きく変わり、また環境問題をはじめとする地球規模の社会的課題もさらに多様化、複雑化しています。企業が存続していくためには、その土台である社会が持続可能であることが大前提です。グローバル社会の一員である我々も、社会のサステナビリティに向け、責任を果たしていかなければなりません。花王グループでは、事業分野に関連する環境、健康、高齢化、衛生などの社会的課題に対して価値提案を行ない、“よきモノづくり”を通じて、こうした社会的課題の解決に貢献していきます。

2013年7月に発表した「花王サステナビリティステートメント」は、花王グループとして社会的責任をどう果たしていくのか、社会のサステナビリティにどのような貢献ができるのかを明らかにしたものです。花王グループは注力すべき3つの重点領域「エコロジー」「コミュニティ」「カルチャー」を定めています。

トップメッセージ

社会のサステナビリティに向けた取り組み

「花王サステナビリティステートメント」の3つの重点領域における主要な取り組みをご紹介します。

「コミュニティ」においては、事業活動や社会的活動を通じた世界のコミュニティの課題解決への貢献をめざしています。

社会的課題を解決する活動として、商品だけでなく、啓発活動も積極的に行なっています。たとえば、健康の分野では、脂肪を消費しやすくする機能性飲料「ヘルシア」を販売するとともに、健康づくりのための生活習慣の提案を行なっています。高齢化については、大人用紙おむつ「リリーフ」だけでなく、より快適に介護できるように、尿臭を消す衣料用洗剤「アタック消臭ストロング」、消臭剤「リセッシュ除菌EX 消臭ストロング」を発売するとともに、お客さまがより買いやすいように、介護関連商品と一体化した売場提案を行なっています。

また、衛生に関しては、女の子たちが初経を正しい知識を持って迎え、快適に過ごせるように、教材と生理用品「ロリエ」を提供し、日本やアジアで小中学校と連携した初経教育を実施しています。

さらに、ケミカル事業においても、環境負荷低減をはじめとする高付加価値製品を提供することで、顧客である取引先企業とともに、社会のサステナビリティに貢献しています。

一方、社会的活動に関しては、海外も含めたグループ各社が、事業場の立地する地域社会において、地域の課題の解決に寄与するためにさまざまな取り組みを行ない、地域社会との関わりを深めています。こうした活動への社員のボランティア参加は、社会への貢献となるとともに、社員自身の成長にもつながり、花王グループにとっても意義のあることと考えています。

また、社員による活動だけでなく、たとえば、「花王社会起業塾」では社会の課題をビジネスの手法で解決しようとする社外の若手社会起業家の育成を支援しています。社会的課題の解決の加速を応援するとともに、支援している起業家と社員との交流会などの接点をつくっています。

「エコロジー」においては、事業活動全体を通じて環境負荷低減を図るとともに、多様なステークホルダーと連携した環境活動を展開しています。

製品ライフサイクル全体のCO_2排出量や製品使用時の水使用量の削減をめざし、節水型の衣料用濃縮液体洗剤「ウルトラアタックNeo」をはじめとするNeoシリーズを強化、また「泡持ちの良さ」と「すすぎの早さ」を両立させ、すすぎ時に節水できる食器用洗剤「キュキュット」を改良新発売しました。

研究開発の分野では、藻類研究において洗剤やシャンプー等に使用されている界面活性剤の原料である天然油脂の主成分、中鎖脂肪酸を多く生成する酵素を見いだすことに成功しました。これにより地球資源への依存が小さく、かつ食料と競合しない油脂原料ソースを獲得できるという、世界の先駆けとなる大きな可能性が出てきました。今後、藻類からの油脂生産技術開発を進め、工業化をめざしていく計画です。

花王グループ 中期3カ年計画 K15

目標(1) 過去最高の売上高、利益の突破

目標(2) 2015年度経営数値目標の達成

2015年度経営数値目標

売上高	1.4兆円
営業利益	1,500億円
海外売上高比率※	30%以上

※連結売上高に占める海外に所在する顧客への売上高の割合

K15達成のための中期成長戦略

1. コンシューマープロダクツ事業のグローバル拡大
   - 成長市場：伸びゆく中間所得層をターゲットにした衣料用洗剤、ベビー用紙おむつ、生理用品などの「清潔商品」の提案により大幅な事業拡大
   - 成熟市場：高付加価値商品投入により成長加速
2. ファブリック&ホームケア事業の磐石化と、ビューティケア事業およびヒューマンヘルスケア事業の利益ある成長の加速

   ファブリック&ホームケア事業
   - 各カテゴリーでのシェアNo. 1の維持・獲得

   ビューティケア事業、ヒューマンヘルスケア事業
   - 化粧品ビジネスを利益ある成長のステージへ
   - 「健康」「高齢化」をテーマに新しい切り口で、商品やサービスを提案
3. ケミカル事業の強化
   - 高付加価値化の推進
   - コンシューマープロダクツとのシナジー強化

トップメッセージ

「カルチャー」の領域では、「コミュニティ」「エコロジー」の活動を支えるのは社員であるとの認識のもと、創業以来受け継いできた企業文化「正道を歩む」を基盤として健全な事業活動を推進するための研修や啓発活動を、花王グループ全体で実施しています。

また、人財の活性化、多様性を推進するため、「女性」と「シニア」をテーマに現場の社員と直接意見交換し、やりがいを持っていきいきと働ける環境やしくみについて議論しました。多様なキャリアステージやライフスタイルに対する選択肢を増やすことをめざし、今後の人事施策・キャリア開発につなげていきます。

なお、2013年7月4日に自主回収を公表しました、カネボウ化粧品ロドデノール配合美白製品につきましては、白斑様症状を発症された方々の回復支援および補償への対応を真摯に行なっており、当社グループをあげて再発防止に努めています。

花王グループ中期3カ年計画 K15の順調な進捗

2013年に発表した中期3カ年計画K15は順調に進捗しています。K15の目標は(1)過去最高の売上高、利益の突破、(2)2015年度経営数値目標の達成(売上高:1兆4,000億円、営業利益:1,500億円、海外売上高比率30%以上)です。2014年度は5期連続増収増益を達成し、K15の計画を上回っています。

2014年度の売上高および当期純利益は過去最高となり、営業利益・経常利益ともに2013年度に続き過去最高を更新しました。海外売上高比率も、アジアのコンシューマープロダクツやケミカル事業の伸長などにより、33.1%と計画を上回っている状況です。

K15の中間年である2014年度を計画達成に向けた重要な年と位置づけ、花王グループの資産の最大活用をベースとした、脱デフレ型成長モデル(積極投資による利益ある成長)の構築を進めるとともに、以下のK15の3つの戦略を推進してきました。

1. コンシューマープロダクツ事業のグローバル拡大
2. ファブリック&ホームケア事業の磐石化と、ビューティケア事業およびヒューマンヘルスケア事業の利益ある成長の加速
3. ケミカル事業の強化

グローバルでは、従来どおり高付加価値商品の提案を行なっています。同時に、アジアの成長市場では伸びゆく中間所得層向けの「清潔商品」の提案により、コンシューマープロダクツ事業のグローバル展開の拡大を進めています。日本では、環境、健康、高齢化、衛生など、社会的課題解決に貢献する高付加価値商品の投入により、成長を加速しています。またケミカル事業においても、環境負荷の低減に対応した高付加価値化の推進などにより強化を図っています。

グローバル社会で信頼される企業に

K15の達成と、さらにその先の将来に向け、花王グループは、清潔・健康・美の事業領域において社会的課題解決に貢献する未来提案を積極的に行ない、「利益ある成長」と「社会のサステナビリティへの貢献」の両立を図っていきたいと考えています。

花王は2005年に人権、労働、環境、腐敗防止の4分野に関する10原則を定めた国連グローバル・コンパクトへの支持を表明しました。グローバルでの事業拡大にあたり、グローバルな社会で共有されている原則や基準に従って、公正な事業活動を行なってまいります。

また、独立した客観的な視点を取り入れるため、2014年3月の定時株主総会後から、取締役会における社内取締役と社外取締役を同数とし、取締役会の議長を独立社外取締役が担当しております。コーポレート・ガバナンスのさらなる向上に向けた努力を今後も継続していきます。

花王グループは今後もグローバル社会の一員として、多様なステークホルダーと緊密なコミュニケーションをとり、要請や期待に応えていきます。社会から信頼される企業となるよう、グローバルスタンダードに沿うことは当然ながら、同時に花王らしさを発揮して、積極的に事業活動を推進してまいります。

花王株式会社
代表取締役 社長執行役員

澤田道隆

グループ会社のカネボウ化粧品による「医薬部外品有効成分“ロドデノール”配合製品」に関する問題についてのおわびと対応

グループ会社のカネボウ化粧品による「医薬部外品有効成分“ロドデノール”配合製品」に関する問題につきまして、関係の皆さまに多大なご迷惑とご心配をおかけし、心よりおわび申し上げます。
カネボウ化粧品では、自主回収を継続し、発症されたお客さまの回復・治療を最優先に対応を進めるとともに、花王グループとして原因究明および再発防止に関し、グループ一丸となって取り組んでおります。

Web 株式会社カネボウ化粧品「医薬部外品有効成分“ロドデノール”配合製品に関する問題について」
http://www.kanebo-cosmetics.jp/information/

概要

株式会社カネボウ化粧品の製造販売する美白製品のうち、「医薬部外品有効成分“ロドデノール”4-(4-ヒドロキシフェニル)-2-ブタノール」の配合された製品をご使用された方に、「肌がまだらに白くなった(白斑様症状)」ケースが確認されました。ロドデノール※は、さまざまな安全性試験を実施して2008年に厚生労働省より薬事法に基づく承認を得た医薬部外品有効成分ですが、“ロドデノール”と上記症状との関連性が懸念されるため、自主回収が適切であると判断をいたしました。

2013年7月4日に自主回収を開始し、2015年4月30日時点で、700,888個の製品を回収いたしました。

また、白斑様症状を発症されたお客さまをカネボウ化粧品社員が訪問し、おわびと治療等のご相談をさせていただいております。1回目訪問時に、白斑様症状が確認された方の合計人数は19,482人、その内、完治(医師の診断、あるいはご本人の申告に基づく)またはほぼ回復された方は10,957人、和解合意された方は9,802人です(2015年4月30日時点)。

海外においても、各国・地域の薬事行政に従って回収を行ない、白斑様症状を発症されたお客さまに対しては日本と同様に、回復されるまで責任を持って対応いたします。

※ ロドデノール
化学名称は「4-(4-ヒドロキシフェニル)-2-ブタノール」。“ロドデノール”はカネボウ化粧品での名称です。メラニン生成反応にかかわる酵素「チロシナーゼ」と結合し反応を阻害する、厚生労働省の承認を得た医薬部外品有効成分です。

発症されたお客さまへの対応

基本方針

ロドデノール配合製品を使用し、
白斑様症状を発症されたお客さまには、
完治まで責任を持って対応する

活動方針

1. 原因究明、治療方法の確立に向けた取り組み
2. 発症されたお客さまの日常生活のサポート
3. 公平な補償対応

1. 原因究明、治療方法の確立に向けた取り組み

花王グループ研究員によるプロジェクトチームを編成し、原因究明、治療方法の確立に向けた研究を推進しており、日本皮膚科学会、厚生労働省等へ情報を提供しております。またカネボウ化粧品では、「化学物質(ロドデノール)による白斑研究基金」に、運営期間の2014年1月23日から2016年3月末までの約2年間で総額6,000万円の助成を予定しております。

2. 発症されたお客さまの日常生活のサポート

発症されたお客さま、治療を続けられているお客さまに対し、継続的に対応させていただくために、「お客さま対応室」を本社・全国の支社に設置し、約400名の各地域の専任者がお客さまを訪問して、治療についてのご相談、お肌の状態の確認を行なっております。ご希望があったお客さまへの「カバーメイクアップ専用品」の提供や、メイクアドバイスなども行なっております。

カバーメイクアップ専用品

本来の素肌の色に近づけるための「カバーメイクアップ専用品」を開発いたしました。使う部位や範囲にあわせ、リクイドタイプ、コンシーラータイプ等の専用ファンデーションやパウダー類をご用意しております。
ご要望に対応して、2015年3月にパウダーファンデーション、BBクリームの2アイテムと、カラーパウダーのコーラル系カラーを追加しました。

3. 公平な補償対応

❶ 基本的な考え方

カネボウ化粧品が製造販売したロドデノール配合製品のご使用により白斑様症状を発症されたお客さまに対し、適正な内容の補償を行ないます。

❷ 補償内容

- **医療費・交通費**

白斑様症状の治療のために必要な医療費および交通費の実費をお支払いいたします。医療費は、健康保険適用の治療に係る医療費、交通費は、公共交通機関のご利用代金とさせていただきます。

- **精神的慰謝料**

白斑様症状により受けられた精神的苦痛に対する補償として、過去の裁判例等を参考に法律専門家と相談の上設定しました基準をもとに、お客さま毎に、発症からの期間やお客さまの症状の状況等を考慮の上、個別に金額を算定しお支払いいたします。

- **休業補償**

白斑様症状により休業しなければならなかったことにより生じた収入の減少に対する補償をいたします。通院のための休業の場合には、ご提出いただいた通院されたこと及び通院日に休業されたことを証する書面をもとにカネボウ化粧品の基準に従いお支払いいたします。通院以外の理由による休業の場合には、お客さまの症状やお仕事の内容から休業の必要性を確認させていただき、ご提出いただいた休業日及び収入減少額を証する書面をもとに実際の収入の減少額をお支払いいたします。

- **後遺症慰謝料相当の補償**

一定の時点においても※症状が回復していないことに対する補償として、後遺症慰謝料相当の補償をいたします。ご希望されるお客さまには、労災基準・裁判基準に基づき、発症部位や症状の大きさ、濃淡、回復傾向の有無等を考慮して補償の内容を決定させていただきます。症状が回復していないこと等の判断は、原則として医師の診断を基準とします。なお、後遺症慰謝料相当の補償をお受け取りになったお客さまにつきましては、カネボウ化粧品の補償に関する対応は終了とさせていただきますが、新たに有効な治療方法が確立された場合の情報提供等は継続いたします。

※ 一定の時点とは、後記③のうち、「後遺症慰謝料相当の補償」に記載されております カネボウ化粧品からのご案内の時点とさせていただきます。

❸ 支払時期

- **医療費・交通費**

医療費・交通費は随時お支払いいたします。

- **精神的慰謝料・休業補償**

精神的慰謝料・休業補償は、和解時にお支払いいたします。

- **後遺症慰謝料相当の補償**

後遺症慰謝料相当の補償は、2014年12月時点で、お顔に大きく白斑様症状を発症されているお客さまからご案内をさせていただき、2015年7月からは症状が残っておられるすべてのお客さまを対象として順次ご案内させていただきます。お客さまが希望され、かつ後遺症慰謝料相当の補償の対象となった場合には、精神的慰謝料・休業補償とあわせて和解時にお支払いいたします。

再発防止に向けた取り組み

1. 花王グループの「安全基準」による製品づくり

2014年4月、花王グループではより厳しく、かつ広範囲に安全性を確認する化粧品の安全基準を導入いたしました。カネボウ化粧品でもこの新しい基準に基づき、製品づくりを行なっております。

2. 「お客さまの声聴き活動」の推進

お客さまの声により真摯に耳を傾け改善につなげるため、ご意見・ご要望をお聴きするハガキを2014年5月下旬に店頭に設置しました。また、気軽に化粧品に関する相談をしていただける「カネボウ化粧品 お肌の相談室」を、2014年7月に開設いたしました。

3. 社内の意識改革（全社員による品質保証体制を続けていくために）

製品に関する社員の声をリアルタイムで収集する仕組みを構築しました。また、お客さま、医療機関、社員等から寄せられたすべての情報は、カネボウ化粧品の経営陣が参加する「品質向上検討会」で確認し、対策を検討しております。

カネボウ化粧品「安全基準」

❶ 安全な原料を厳選

幅広い分野の安全性情報、これまでよりも厳しい条件と試験方法により、原料の安全性を徹底的に見極めます。また、人にも環境にもやさしい原料を選定いたします。

❷ 処方の安全性確認

開発したすべての製品は、パッチテストなどで肌への刺激がないことを確認いたします。

❸ さまざまな使用テストによる確認

製品の発売前に、これまでよりも大規模×長期間でのモニター実使用テストを行ない、肌にトラブルが起きないことを確認いたします。

❹ お客さまへのカウンセリング

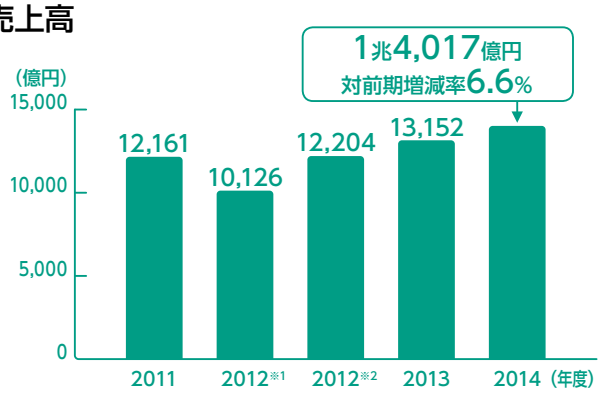
お客さまお一人おひとりの肌悩みや、お肌の状態を確認しながら、おすすめの化粧品やその使用方法、お手入れ方法などをアドバイスいたします。化粧品の使用に不安をお持ちのお客さまには、ご自身でできる「肌と化粧品の相性チェック」もご紹介しております。

❺ 販売後も常に安全性を点検

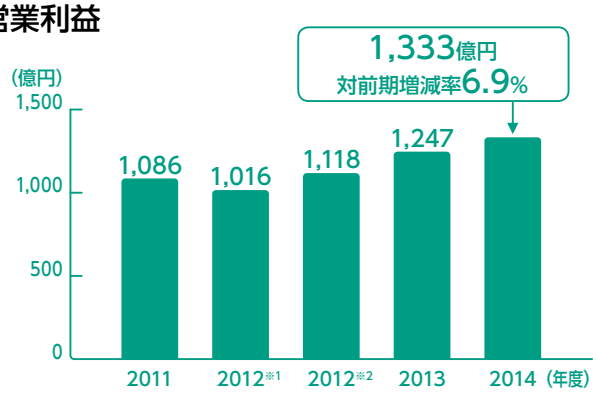
お客さま、医療機関からいただいた情報は一件一件詳細を確認し、安全性点検に活かします。店頭では「お客さまの声聴き活動」を行なっております。お客さまからのご意見、ご要望を改善活動につなげます。

財務ハイライト（連結）

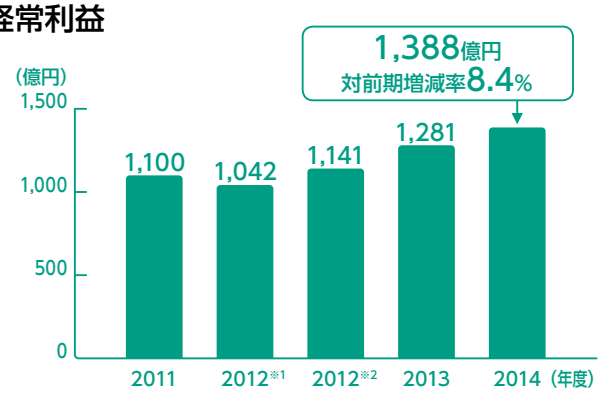
売上高



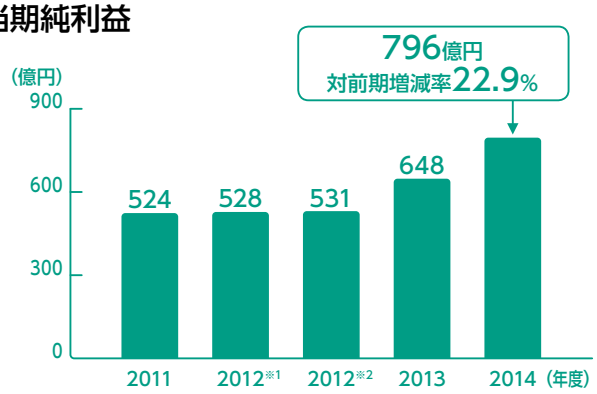
営業利益



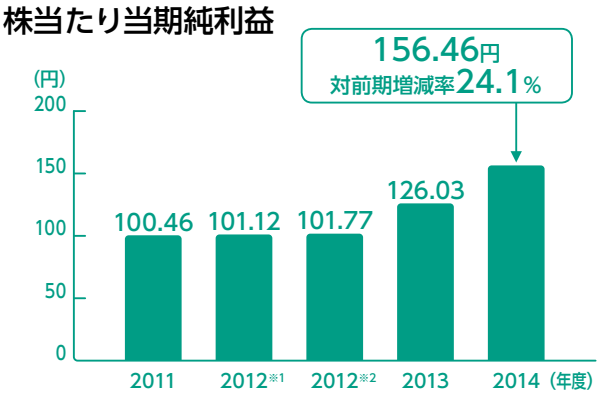
経常利益



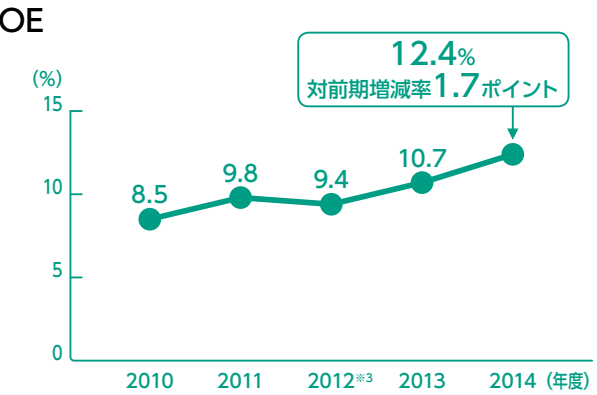
当期純利益



1株当たり当期純利益

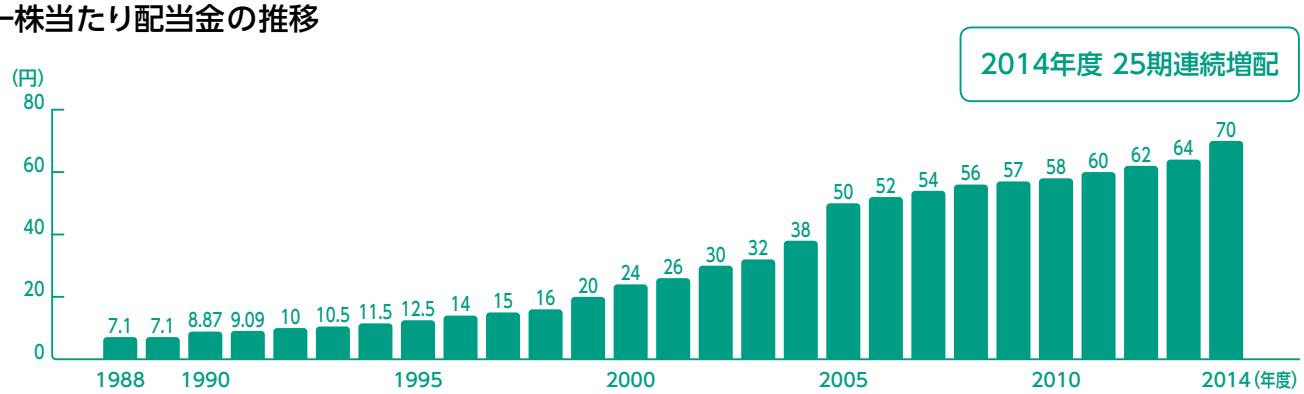


ROE



（注）1. 記載金額は、億円未満を四捨五入して表示しています。
2. 当社は、2012年12月期より事業年度の末日を3月31日から12月31日に変更いたしました。
※1 3月決算であった当社およびグループ会社は2012年4月1日から12月31日まで、12月決算であったグループ会社は2012年1月1日から12月31日までを連結対象期間としています。
※2 ご参考として、2012年1月1日から12月31日までを表しています。
※3 決算期変更に伴う経過期間の数値です。

一株当たり配当金の推移



※ 株式分割の影響を補正しています。

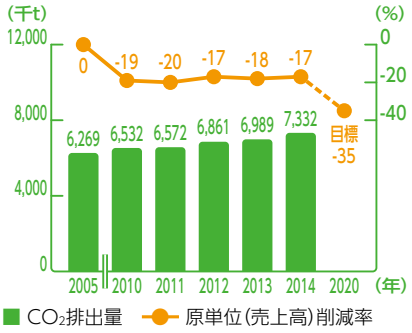
非財務ハイライト

花王サステナビリティステートメントに基づいて、3つの重点領域でさまざまな取り組みを進めています。
以下は代表的な取り組みの実績です。
取り組みの詳細は、ウェブサイト「花王サステナビリティレポート2015」(http://www.kao.com/jp/corp_csr/reports.html)をご参照ください。

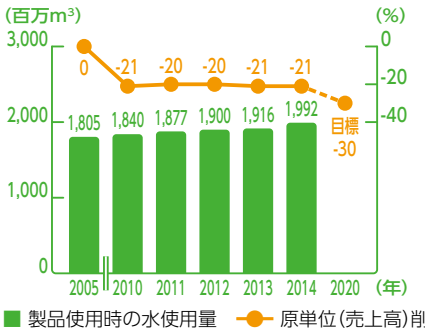
エコロジー

製品のライフサイクル全体を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。

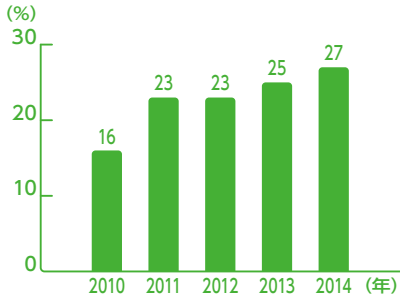
製品ライフサイクル全体のCO_2排出量の推移★(国内花王グループ)※1



製品使用時の水使用量の推移★(国内花王グループ)※2



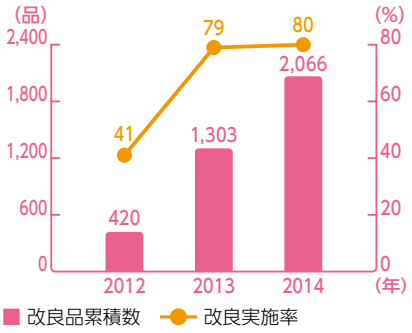
"いっしょにeco"マーク表示製品売上比率(国内消費者向け製品)※3



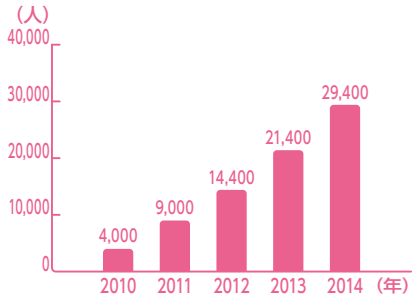
コミュニティ

多様な消費者に配慮し、社会的課題の解決に貢献する製品の提供や啓発活動を行なっています。

UD視点での改良品累積数および改良実施率(国内消費者向け製品)※4



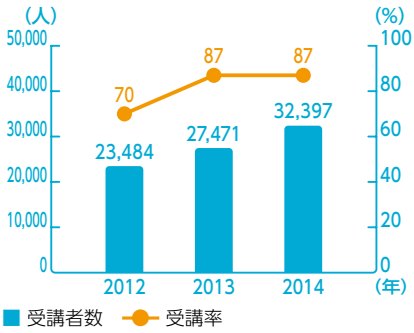
手洗い講座を受講した児童累積数(国内花王グループ)



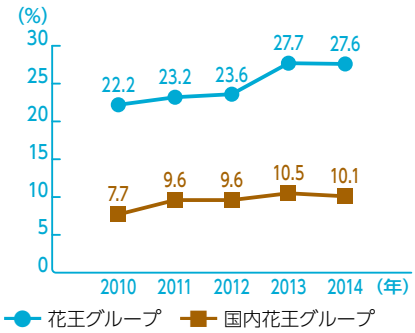
カルチャー

グループ全社員への企業行動指針の啓発やダイバーシティ&インクルージョンの推進など、健全な事業活動を促進しています。

花王ビジネスコンダクトガイドライン年次テスト受講者数および受講率(花王グループ)



女性管理職比率(花王グループ)



※1 製品ライフサイクルを通じたCO_2排出量は、主に日本国内の消費者向け製品1個当たりの製品ライフサイクル(ただし、生産工程、物流工程を除く)を通じたCO_2排出量に当該製品の年間の売上個数を乗じて算定した値に、自社の生産工程、物流工程を通じたCO_2排出量の実績値を集計したものです。ただし、産業界向け製品の使用および廃棄に関するCO_2排出量は含んでいません。一部データを見直し、2005年までさかのぼって修正しています。
※2 製品使用時の水使用量は、主に日本国内の消費者向け製品1個当たりの製品使用時の水使用量に、当該製品の年間の売上個数を乗じて算定した値を集計したものです。一部データを見直し、2005年までさかのぼって修正しています。
※3 独自の厳しい認定基準をクリアした"環境負荷の少ない製品"に"いっしょにeco"マークを表示しています。
"いっしょにeco"マーク表示基準の詳細 http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_01_01.html
※4 UD視点での改良品とは、接しやすさ(Accessibility)、安全(Safety)、使いやすさ(Usability)などの視点から改良した製品を表します。改良実施率は、新製品・改良品アイテム全数(品)に占めるUD視点での改良品数(品)の比率です。

事業紹介

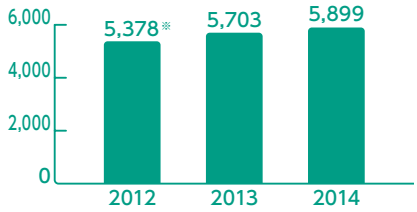
コンシューマープロダクツ事業

ビューティケア事業

ビューティケア事業では、お客さま一人ひとりが求める“美しさ”に高い技術でお応えする化粧品をはじめ、洗顔料や全身洗浄料などのスキンケア製品、シャンプー・リンスなどのヘアケア製品をお届けしています。

主なブランドには、化粧品の「カネボウ」「ソフィーナ」「モルトン ブラウン」、スキンケア製品の「ビオレ」「キュレル」「ジャーゲンズ」、そして、ヘアケア製品の「ジョン フリーダ」「エッセンシャル」「リーゼ」、美容サロン向けの「ゴールドウェル」などがあります。それぞれに個性を持ち、使って価値を実感していただけるような製品を、日本、アジア、欧米の各国・各地域の消費者の皆さまに向けてお届けしています。

事業別売上高の推移
(億円)



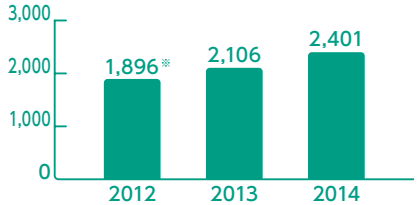
コンシューマープロダクツ事業

ヒューマンヘルスケア事業

ヒューマンヘルスケア事業では、花王独自の技術から生まれたサニタリー製品や、新たな価値を提案する健康機能飲料、さらに歯みがきや入浴剤など、より快適ですこやかな毎日をサポートするための製品をお届けしています。

主なブランドには、生理用品の「ロリエ」やベビー用紙おむつの「メリーズ」、健康機能飲料の「ヘルシア」、さらに、歯みがきの「クリアクリーン」、入浴剤の「バブ」などがあります。なかでも、日本とアジアを主な市場とするサニタリー製品分野では、吸収力が高く、肌にもやさしいといった、高機能な高付加価値型の生理用品やベビー用紙おむつが、消費者の皆さまの支持を得ています。

事業別売上高の推移
(億円)



※ 2012年12月期は、比較を容易にするため、1月から12月の年間に換算した売上高を示しています。

事業紹介

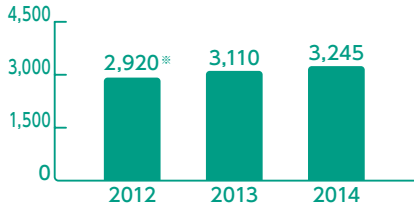
コンシューマープロダクツ事業

ファブリック&ホームケア事業

ファブリック&ホームケア事業では、清潔でこころ豊かな暮らしを実現するために、衣料用洗剤や洗濯仕上げ剤といったファブリックケア製品や、台所用洗剤、住居用洗剤などのホームケア製品の分野で、品質と機能、使いやすさを追求した製品をお届けしています。

主なブランドには、衣料用洗剤「アタック」や衣料用漂白剤「ハイター」、住居用洗剤「マジックリン」があり、日本をはじめ、広くアジア各国の消費者の皆さまにご支持をいただいています。さらに近年、環境意識の高まりや働く女性の増加など社会の変化を受けて、“すすぎ1回”や、高い洗浄力を持つ衣料用液体洗剤を発売するなど、新たな洗濯習慣の提案を続けています。

事業別売上高の推移
(億円)



ケミカル事業

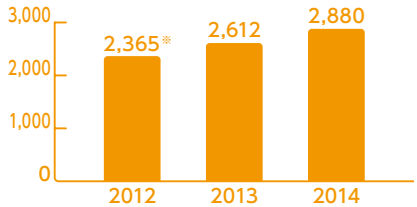
ケミカル事業

ケミカル事業では、天然油脂原料からつくる油脂製品や、界面活性剤、トナー・トナーバインダー、香料など、多岐にわたるケミカル製品をグローバルに展開しています。

高級アルコール「カルコール」や界面活性剤「エマール」、コンクリート用高性能減水剤「マイテイ」といった製品をはじめとしたさまざまな製品が、情報材料、エレクトロニクス、紙・パルプ、食品、医薬品、土木・建築など、世界の幅広い産業分野を通じて、人々の豊かな暮らしに役立っています。

また、こうした製品は、グローバルな外部顧客だけでなく、花王のコンシューマープロダクツ事業にも供給しており、新たな価値の創出に寄与しています。

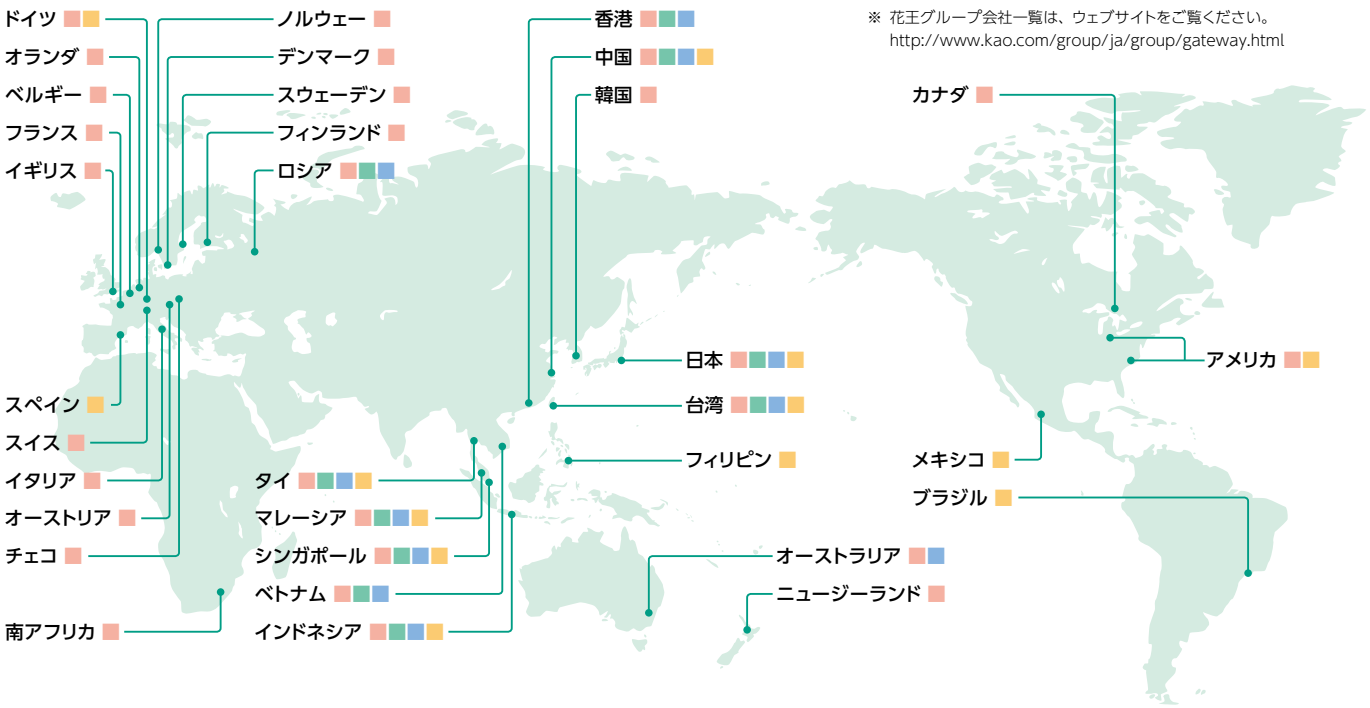
事業別売上高の推移
(億円)
(注)事業間の内部売上を含んでいます。

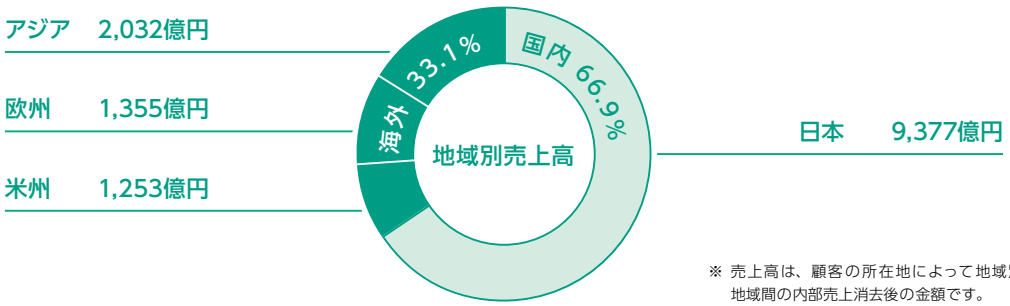


主な拠点と事業展開

■ ビューティケア事業 ■ ヒューマンヘルスケア事業 ■ ファブリック&ホームケア事業 ■ ケミカル事業

※ 花王グループ会社一覧は、ウェブサイトをご覧ください。
http://www.kao.com/group/ja/group/gateway.html





※ 売上高は、顧客の所在地によって地域別に分類されており、地域間の内部売上消去後の金額です。

社会への宣言

国連グローバル・コンパクト

世界各国の企業が人権・労働・環境・腐敗防止の分野における10原則を支持し、地球市民として実践に取り組んでいくもので、1999年のダボス会議で提唱された考え方です。花王は、2005年から参加しています。

RSPO
(持続可能なパーム油のための円卓会議)

熱帯雨林の伐採による生態系の破壊や農園での厳しい労働環境など、パーム油生産に関する課題解決をめざす国際的な非営利組織です。花王は、2007年から参加しています。

社会からの評価

Dow Jones Sustainability World Index

企業の経済、環境、社会面での持続可能性評価をもとに、米国のS&Pダウ・ジョーンズ社とスイスのロベコSAM社によって選定される、世界の代表的な社会的責任投資(SRI)指標です。花王は、2014年度の構成銘柄に選定されました。

FTSE4Good Global Index

イギリスのFTSE社が開発した世界の代表的なSRI指標の一つで、環境、社会、企業統治の側面で高い基準を満たす企業を構成銘柄とするものです。花王は7年連続で組み入れられています。

花王サステナビリティステートメント

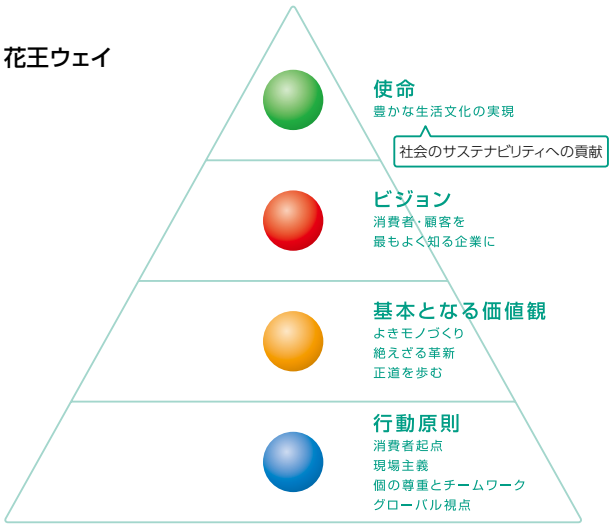
花王は2013年7月にサステナビリティに関する新しい方針「花王サステナビリティステートメント」を策定し社内外に発表しました。事業活動を通じた社会のサステナビリティへの貢献という方向性を明確にし、活動を注力する領域として「エコロジー」「コミュニティ」「カルチャー」の3つを重点領域として選定しています。

花王ウェイと花王サステナビリティステートメント

企業理念である花王ウェイの“よきモノづくり”が花王のサステナビリティ活動の原点です。花王ウェイでは「心をこめた“よきモノづくり”を行ない、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティ(持続可能性)に貢献すること」を花王の使命としています。この使命のもと、私たちは全員の熱意と力を合わせ、清潔で美しくすこやかな暮らしに役立つ商品と、産業界の発展に寄与する工業用製品の分野において、消費者・顧客と共に感動を分かち合う価値ある商品とブランドを提供していくことを宣言しています。

これらに基づき、社会のサステナビリティへの貢献に向けた花王としての考え方、取り組むべき重要課題を明確にしたのが花王サステナビリティステートメントです。

花王ウェイ



花王にとっての重要課題(マテリアリティ)

事業を通じた社会のサステナビリティへの貢献を進めるためには、花王にとっての重要課題(マテリアリティ)を特定する必要があります。下記の「重要課題特定プロセス」を通じて、取り組むべき3つの重点領域「エコロジー」「コミュニティ」「カルチャー」を選定しました。

5つの視点

1. 花王ウェイとの適合
2. 中長期の経営計画との連動
3. 社会にとっての課題解決の必要性
4. 花王グループ内における、課題解決に向けた有効なリソースの有無
5. 花王グループの持続可能性への影響度

新たな取り組み

社会からの要請の高まりと、花王グループにおける重要性を検討し、2014年は新たに人権への取り組みを開始しました。「人権方針策定プロジェクト」を立ち上げ、「花王人権方針」の策定や、人権デュー・ディリジェンスの実施に向けた準備などを行なっています。また、主要な原材料であるパーム油と紙・パルプについて、森林破壊ゼロへの支持を表明し、原材料調達ガイドラインを改訂しました。

重要課題特定プロセス

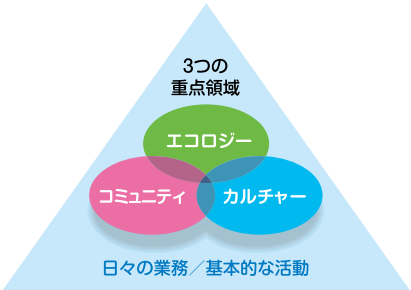
1. 現状の把握
花王グループが認識している社会的課題と、それらに対する取り組み状況を把握しました。

2. ステークホルダーの意見、社会の要請の把握
有識者や、消費者、従業員などのステークホルダーからの意見に加え、企業の社会的責任に関する国際的規格や評価機関の調査などから、社会の要請を把握しました。

3. 事業戦略の視点からの重要性検討
左記の5つの視点から花王グループの事業における優先順位を議論しました。

4. 重要課題の決定
3つの重点領域からそれぞれ2項目ずつを選定し、重要課題を決定しました。

花王サステナビリティステートメント



花王サステナビリティステートメント

花王サステナビリティステートメント

花王グループは、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、
社会のサステナビリティ(持続可能性)に貢献することを使命としています。
現在および未来において、革新的な製品やサービスを開発することで環境の保全や社会的課題の解決に努め、
積極的にコミュニティに関わり、人々の健やかな暮らしに貢献します。

これらを実現するために、私たちは、この活動を支える社員一人ひとりに、
能力を最大限に発揮できる場を提供し、ステークホルダーとともに健全な企業文化を構築します。

私たちは、社会に対する責任を果たし、持続可能な形で事業活動を発展させるために、
「エコロジー」「コミュニティ」「カルチャー」に注力してまいります。

3つの重点領域と取り組むべき分野

エコロジー

私たちは、環境宣言のもと、事業活動による環境負荷の低減を図るとともに、生物多様性に配慮し、社会全体と連携した環境活動を展開し、地球環境保全に努めます。

●事業活動による環境負荷の低減

私たちは、原材料調達や生産、物流、販売、使用、廃棄など、製品がかかわるライフサイクル全般にわたって、事業活動における環境負荷を把握し、その低減を図ります。

●ステークホルダーと連携した環境活動

私たちは、お客さま、ビジネスパートナー、社会と“いっしょにeco”をテーマにした環境活動を広く行なっていきます。

コミュニティ

私たちは、事業活動や社会的活動を通じて、世界のコミュニティの課題の解決に貢献していきます。

●事業を通じたコミュニティへの積極的な関わり

私たちは高齢化・健康、衛生等の社会の課題の解決にむけ、人々に健やかな暮らしを提案する製品を提供することで消費者とのきずなを築いていきます。

●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ

私たちは、地域の人々により良い暮らしをもたらすことに社会といっしょに取り組みます。また社員のボランティア精神の醸成を促進し、それぞれの社員がコミュニティと関わることを支援していきます。

カルチャー

花王のサステナビリティ活動を実行していくために最も大切な資源は人です。私たちは、ビジネスパートナーと共に誠実な事業活動を行ない、社員の多様性を尊重し、常に製品と仕事の改善・改革を推進し、社会に新たな価値をもたらします。

●健全な事業活動

私たちは、創業者から受け継がれた「正道を歩む」の精神を大切にしながら日々の業務に取り組むことで、グローバル社会で信頼を獲得することを目指します。そのために、経営者から全従業員および社外のビジネスパートナーにいたるまで、健全な事業活動を促進していきます。

●ダイバーシティ&インクルージョン

多様な社員一人ひとりを尊重し、全員の能力と熱意を最大限に発揮できる風土をつくります。

花王サステナビリティステートメント

社員への浸透に向けて

花王サステナビリティステートメントに基づいた活動を進めるためには、グループ社員全員がその考え方を十分に理解する必要があります。2013年7月の花王サステナビリティステートメント発表以来、社員へのさまざまな啓発活動を行なっています。

各部門やグループ会社に向けて説明会を実施

花王(株)各部門や国内外のグループ会社のマネジャー層に向け、説明会を実施しています。花王サステナビリティステートメント策定の背景、各重点領域の具体的な活動事例などを紹介し、質疑応答を行なっています。2014年中に花王(株)の各部門、会議などで36回、海外グループ会社での説明会も3社実施しました。この説明会は2015年も継続して実施していきます。

イントラネット上で啓発

2013年7月の発表以降、国内花王グループ社員に対してはイントラネットを利用して、花王サステナビリティステートメントの理解を助ける資料を掲載しています。

花王サステナビリティステートメントの重点領域の活動に関連する部門の担当者による「サステナビリティリレーエッセイ」や、サステナビリティに関連するテーマをQ&A形式でわかりやすく紹介する「サステナ3分ウオッチング」を毎月掲載しています。

一部の資料は、海外花王グループのイントラネットでも共有しており、今後拡大していきます。

社内報で紹介

花王グループの全社員向けに日本語・英語併記で年4回発行している社内報「KAO FAMILY」でも、社員が花王サステナビリティステートメントを理解するのに役立つ記事を掲載しています。

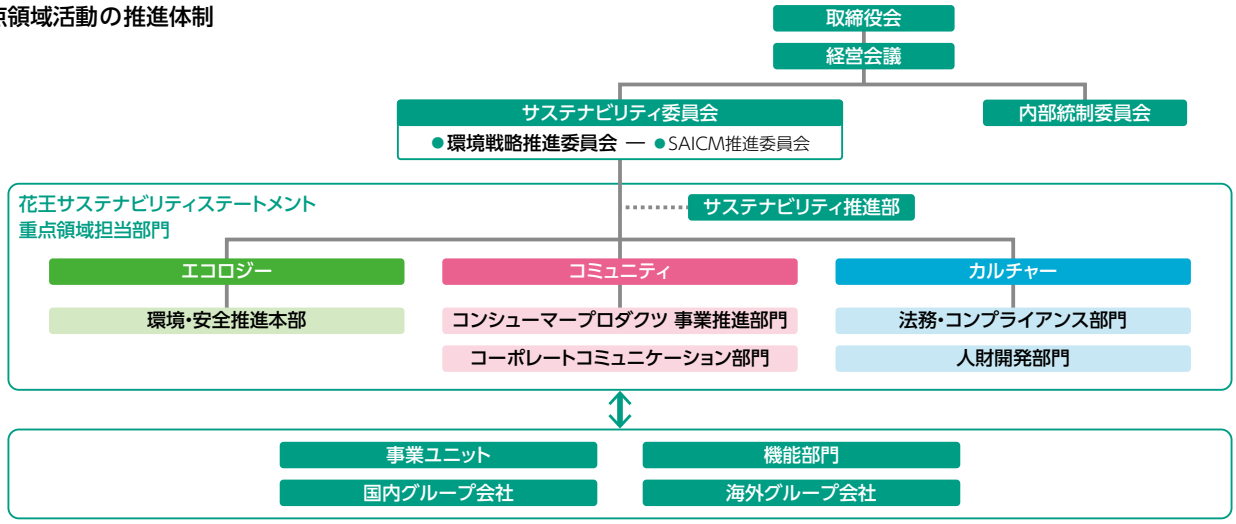
2013年10月発行号では策定の背景や内容を特集し、2014年は3つの重点領域での具体的な活動事例を紹介しました。2015年も継続していきます。

社内報
「KAO FAMILY」での紹介

推進体制

社長執行役員を委員長とするサステナビリティ委員会のもと、3つの重点領域それぞれの担当部門が責任を持ち、目標を設定し、PDCAサイクルの運用により、グループ全体の活動をマネジメントしています。

重点領域活動の推進体制



花王サステナビリティステートメント

2014年実績と2015年目標

エコロジー

重要課題：●事業活動による環境負荷の低減

	取り組み内容	主な活動	2014年目標	2014年実績		2015年目標
環境宣言 中期目標	〈CO_2〉2020年までに消費者向け製品でCO_2 35%削減(国内：全ライフサイクルベース、売上高原単位、2005年基準)	環境負荷に配慮した製品開発の推進 ●節水製品の充実 ●コンパクト化、濃縮化、容器包装の4R※1の推進	●節水製品の拡充 ●つめかえ製品の拡充 ●容器へのバイオプラスチック導入の拡大	17%削減	●キュキュットの改良新発売 ●アタック高浸透リセットパワーつめかえパックの発売 ●食器洗い乾燥機専用キュキュットプレミアムクリアの発売	●節水製品の拡充 ●つめかえ製品の拡充 ●容器へのバイオプラスチック導入の拡大
		生産、物流、オフィスでの省エネ活動の推進	〈生産〉 ●エネルギー高効率利用(コジェネの高効率運用、熱回収率アップ)の推進 〈物流〉 ●他社との共同配送および工場からの直送の推進 〈共通〉 ●工場およびロジスティックセンター照明のLED化推進		●自社排出量18%削減(国内、1990年基準) 〈生産〉 ●ガスコジェネ導入によるエネルギーの高効率利用(鹿島) ●ガスコジェネ排ガス排熱回収によるさらなる効率アップ(和歌山) ●冷却水ポンプの最適化(インバーター化・台数制御)による省エネ(国内全工場) 〈物流〉 ●モーダルシフト新規ルート開設 ●他社との共同輸送、工場直送 〈共通〉 ●蛍光灯照明のLED化	〈生産〉 ●スチームトラップ保全による蒸気ロスの削減(全工場) ●冷凍機等熱源機器の効率改善 〈物流〉 ●省エネ型空調設備の導入 ●モーダルシフト新規ルート開設 ●他社との共同輸送、工場直送 〈共通〉 ●蛍光灯照明のLED化
	〈水〉2020年までに製品使用時の水30%削減(国内：売上高原単位、2005年基準)	節水製品の充実	●節水製品の拡充	21%削減	●キュキュットの改良新発売 ●食器洗い乾燥機専用キュキュットプレミアムクリアの発売	●節水製品の拡充
	〈化学物質〉	SAICM※2に沿ったライフサイクルでの適正管理	●中期計画に沿った優先評価物質※3のリスク評価とリスク評価書の作成 ●化学物質ライフサイクル管理システムの開発着手 ●生産での管理物質決定と取扱現場でのリスク評価 ●SAICM活動成果物の一元的公開法と地域とのコミュニケーション手法の検討	●中期計画に沿った2014年優先評価物質※3のリスク評価の実施とリスク評価書の作成 ●化学物質ライフサイクル管理システムの開発WG発足 ●生産管理物質決定とPRTR物質、VOC物質、毒劇物を中心とした取扱現場でのリスク評価実施と対策検討 ●SAICM成果物(リスク評価書等)の公開方法・公開内容の決定 ●GPS安全性要約書※4(REACH登録物質)のウェブサイトでの公開(花王グループで、2014年　35件(累計77件※5)公開)		●中期計画に沿った優先評価物質※3のリスク評価とリスク評価書の作成 ●化学物質ライフサイクル管理システムの基盤構築 ●化学物質リスク評価に基づいた取扱現場でのリスク低減対策の立案と実施 ●生産現場での危険有害性(GHS)表示の検討 ●SAICM活動成果物の一般公開 ●双方向コミュニケーション手法の検討
	〈生物多様性〉	認証原料の使用拡大	●Book and Claim方式※6からMass Balance方式※7認証油への切り替え推進 ●RSPOのSCCS認証を海外工場へ拡大	●購入認証油中のMass Balance方式比率 2013年　32% 2014年　88% ●認証油購入量 2013年　パーム油5,952t パーム核油14,455t 2014年　パーム油5,180t パーム核油17,875t ●認証工場数 2013年　2工場 2014年　9社12工場(うち海外9工場)		●認証油購入量 パーム油、パーム核油および誘導体合計 40,000t ●認証工場数 2015年　15社18工場
		事業場での生物多様性の保全活動の推進	●和歌山、すみだ等での活動を推進 ●国内他事業場での保全評価を開始	●防潮林(松林)内の遊歩道の完成、社員への開放(和歌山) ●野鳥の生息調査を社員で実施(すみだ) ●現状評価の実施、生物多様性調査(年4回、毎年)を開始(鹿島) ●海外各事業場に対する啓発を実施		●和歌山ほか国内各事業場での活動を推進 ●海外各事業場の現状調査

※1　4R：リデュース(削減)、リニューアブル(再生可能)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)
※2　SAICM：国際的な化学物質管理に関する戦略的なアプローチ(Strategic Approach to International Chemicals Management)
※3　優先評価物質：生産量・用途等から花王で優先的にリスク評価すべき化学物質として、2013年に花王で定めた物質。なお、物質リストは毎年グローバルな化学物質管理の動きや社内外の状況に応じて、定期的に見直しを行なっている
※4　GPS安全性要約書：ICCA (国際化学工業協会協議会) が提唱するGlobal Product Strategy (国際的な化学品管理戦略) に沿って、一般社会向けに化学物質のリスクを中心とした安全性情報の概要を提供する書類
※5　2020年での公開目標150件に対し、進捗率51%
※6　Book and Claim方式：RSPO認証パーム油の環境価値をクレジットとして取引するシステム
※7　Mass Balance方式：RSPO認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム

花王サステナビリティステートメント

エコロジー

重要課題：●ステークホルダーと連携した環境活動

取り組み内容	主な活動	2014年目標	2014年実績	2015年目標
環境啓発と保全活動	多様な接点での啓発活動の推進、および行政、NGO等との連携	学校、工場見学、店頭などの多様な接点での啓発活動の推進、および行政、NGO等との連携	●「いっしょにエコ日記」配布校数：500校 ●環境出張講座実施校数：53校 ●エコラボミュージアム来校数：71校 ●花王・みんなの森づくり活動助成団体数：55団体 ●花王・教員フェローシップ（アースウォッチジャパンと協働）：10校 ●取引先や自治体での啓発活動数：197件 ●花王国際こども環境絵画コンテスト応募数：8,753件 ●中国清潔・節水全国運動来場者数（中国政府機関と協働）：約15万人	学校、工場見学、店頭などの多様な接点での啓発活動の推進、および行政、NGO等との連携

コミュニティ

重要課題：●事業を通じたコミュニティへの積極的な関わり

取り組み内容	主な活動	2014年目標	2014年実績	2015年目標
健康/高齢化/衛生等の社会的課題を解決	多様性に配慮した商品や情報開発の推進（ユニバーサルデザイン（UD）配慮や字幕CM等）	●UD視点での改良実施率の向上 ●啓発活動の継続（講演会など） ●字幕CMの本格放送に向けた活動（他企業との共同トライアル放送の実現をめざす）	●新製品改良品におけるUD視点での改良実施率80% ●社員を対象にした啓発活動（講演会1・高齢者体験ワークショップ16） ●社外向け花王UD取り組み紹介（講演会5） ●小学生向けUD授業（9校） ●字幕CMの本格放送に向けた継続的な活動（TV局3社で同時トライアル放送を継続実施し、他企業や関係団体とも情報共有）	●UD視点での継続的な改良実施 ●啓発活動の継続（講演会など） ●字幕CMの本格放送に向けた次なるステップへの活動（複数社提供番組でのトライアル放送の実現をめざす）
	肥満・生活習慣病の予防・改善	●ヘルシアクラブへ新規会員の継続誘引 ●ウオーキングイベントへの協賛（日本の参加人数：10万人） ●QUPiOへの参加（参加企業数（日本）：60社）	●ヘルシアクラブへ新規会員の継続誘引 ●ウオーキングイベントへの協賛（日本の参加人数：10万4,000人） ●QUPiOへの参加（参加企業数（日本）：57社）	●ウオーキングイベントへの協賛（日本の参加人数：10万人） ●QUPiOへの参加（参加企業数（日本）：60社）
	現地の生活環境・習慣にあった赤ちゃんの健康推進	●ベビー用紙おむつの現地生産と展開国拡大 ●母親学級・両親学級等による啓発活動と使用見本サンプリング（日本：68万人） ●メリーズ新生児用・Sサイズのサンプル配布（日本：111万個）	●ベビー用紙おむつの現地生産と展開国拡大 ●母親学級・両親学級等による啓発活動と使用見本サンプリング（日本：68万人） ●メリーズ新生児用・Sサイズのサンプル配布（日本：112万個）	●ベビー用紙おむつの現地生産と展開国拡大 ●母親学級・両親学級等による啓発活動と使用見本サンプリング（日本：68万人） ●メリーズ新生児用・Sサイズのサンプル配布（日本：121万個）
	手洗い習慣の普及による衛生向上を推進	●小学校・幼稚園出張講座による啓発活動（日本：幼稚園160園、小学校100校） ●手洗い啓発用のサンプル配布（日本：幼児・小学生ほか49万個、台湾・タイ・インドネシア：小学生9万3,000人）	●小学校・幼稚園出張講座による啓発活動（日本：幼稚園185園、小学校109校） ●手洗い啓発用のサンプル配布（日本：幼児・小学生ほか50万個、台湾・タイ・インドネシア：小学生7万6,000人）	●小学校・幼稚園出張講座による啓発活動（日本：幼稚園160園、小学校100校） ●手洗い啓発用のサンプル配布（日本：幼児・小学生ほか54万個、台湾・タイ・インドネシア：小学生7万8,000人）
	毎日を快適に暮らすために、より充実した初経教育の普及拡大	●初経教育用の教材・啓発者数（日本：6,400校 52万個、台湾・タイ・インドネシア：58万7,000人）	●初経教育用の教材・啓発者数（日本：6,300校 51万個、台湾・タイ・インドネシア・マレーシア・香港：56万4,000人）	●初経教育用の教材・啓発者数（日本：6,000校 48万個、台湾・タイ・インドネシア：48万2,000人）

花王サステナビリティステートメント

コミュニティ

重要課題：●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ

取り組み内容	主な活動	2014年目標	2014年実績	2015年目標
企業市民活動の活性化	グローバル各地域の企業市民活動に社員ボランティア参加促進	●KPIの基準づくり ●情報収集と情報共有のしくみづくり ●社員が興味を持てる活動や講座の企画、提案	●KPI策定のための活動実績調査設計の見直しと新設計での調査の実施 ●ボランティアに関する社員の意識を確認 ●ボランティア情報提供件数：25件 ●社員ボランティア参加人数：1万9,434人 ●社内外情報発信件数：91件	●ボランティア精神の醸成につながる活動の提案

カルチャー

重要課題：●健全な事業活動

取り組み内容	主な活動	2014年目標	2014年実績	2015年目標
「正道を歩む」の推進	花王ビジネスコンダクトガイドライン(BCG)の啓発活動の継続強化 コンプライアンス通報・相談窓口の適切な運営	●贈収賄防止ガイドラインの導入 ●利害の対立の回避に関するガイドライン(グローバル版)の導入検討 ●花王グループ国内外での定例コンプライアンス研修の計画・実施 ①花王グループ全社員対象に毎年実施するBCGテスト ⇒実施率90% ②国内花王グループ管理職対象コンプライアンス研修 ⇒2013年からの実施率95% ③海外グループ会社社員を対象とするインテグリティワークショップ ⇒2009年からの累積実施率75% ●2015年に向けたBCGの改定検討(BCGハンドブックの作成、BCGの見直し)	●贈収賄防止ガイドラインの導入 ●利害の対立の回避に関するガイドライン(グローバル版)の導入 ●花王グループ国内外での定例コンプライアンス研修の計画・実施 ①花王グループ全社員対象に毎年実施するBCGテスト ⇒実施率87% ②国内花王グループ管理職対象コンプライアンス研修 ⇒2013年からの実施率98% ③海外グループ会社社員を対象とするインテグリティワークショップ ⇒2009年からの累積実施率71% ●2015年に向けたBCGの改定検討(BCGハンドブックの作成(花王ウェブサイトへの掲載)、BCGの見直し)	●コンプライアンス関連規程の運用(贈収賄防止ガイドライン、利害の対立の回避に関するガイドライン) ●花王グループ国内外での定例コンプライアンス研修の計画・実施 ①花王グループ全社員対象に毎年実施するBCGテスト ⇒実施率95% ②国内花王グループ管理職対象コンプライアンス研修 ⇒2015年より2巡目研修を開始。実施率70%目標 ③海外グループ会社社員を対象とするインテグリティワークショップ ⇒2009年からの累積実施率85%目標 ●BCG改定の検討継続 ●現在のコンプライアンス推進活動の妥当性・適切性の検証
持続可能な調達の推進	環境・人権等により配慮した調達の強化	●調達先ガイドライン、原材料調達ガイドラインに基づく調達実施 ●購買部門転入者への100%教育実施	●「森林破壊ゼロ」への支持に基づき、原材料調達ガイドラインの改訂を行ない、実施 ●調達先ガイドラインに基づく調達の実施 ●購買部門転入者への100%教育実施	●原材料調達ガイドラインの2015年目標達成(ミル(搾油工場)まで追跡可能) ●調達先ガイドラインに基づく調達の実施 ●購買部門転入者への100%教育実施

カルチャー

重要課題：●ダイバーシティ&インクルージョン

取り組み内容	主な活動	2014年目標	2014年実績	2015年目標
ダイバーシティ&インクルージョンの推進	多様な社員のマネジメント育成強化	●調査を実施し、推進加速のための課題を探索 ●取り組みの拡大	●人財活性化プロジェクトによる国内グループの女性とシニアの活躍推進のための課題把握の実施 ●D&I調査を行ない、推進加速のための課題の把握と施策案の検討(花王) ●女性営業職における課題の把握とアクションプランの立案(花王CMK) ●管理職における女性比率 27.6%⇐27.7%(海外を含むグループ全体) 10.1%⇐10.5%(国内グループのみ)	●取り組み計画の立案と実施

花王サステナビリティステートメント

ステークホルダーコミュニケーション

花王はステークホルダーとの対話を通じて社会の要請を収集し、活動内容と目標の策定に反映しています。

消費者・顧客

消費者や顧客からいただくご相談・ご意見に真摯に耳を傾け、きめ細かなコミュニケーションを図ることを通じて、皆さまの声を製品の改良や新製品の開発、サービスの向上に活かすことをめざしています。

消費者
- 消費者相談
- 環境イベント／啓発イベント
- リリーフふれあいダイヤル
- 消費者モニター家庭訪問

化学品・業務用品の取引先
- 代理店との意見交換
- 代理店新人研修会
- 衛生講習会

家庭品・化粧品の取引先
- 経営方針説明会
- 販売店とのビジネスプラン検討会
- 新製品説明会
- 商品勉強会

社員

ダイバーシティから生まれる活力が事業の発展を支えるとの認識にたち、多様な社員それぞれが能力と個性を最大限に発揮し、個人と企業が共に成長できる環境と風土づくりを実践しています。

- 花王フォーラム
- 厚生委員会
- 社員意識調査(Find)
- 安全衛生委員会
- 育成・登用・評価等のしくみ標準化
- イコール・パートナーシップ推進活動
- 社員の健康づくり支援

サプライヤー

原材料や機器のサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達基本方針」に則った「公正・公平」「遵法・倫理性」「社会的責任性」を基本姿勢とする調達活動を推進しています。

- 品質向上会議
- 調達先ガイドライン
- サプライヤー満足度調査
- 取引先懇談会

株主・投資家

企業価値の向上に努め、積極的な情報開示やコミュニケーション活動を図ることで、国内外の株主や投資家の信頼と期待に応えます。

- 株主総会
- 決算説明会
- 海外ロードショー
- 社長スモールミーティング
- 事業説明会
- 取材
- 「株主のみなさまへ」の発行
- アニュアルレポートの発行
- ウェブサイト・RSS配信によるIR情報提供
- 株主向け見学会

地域社会・NGO／NPO

事業活動や社会的活動を通じて、地域社会と積極的に関わり、地域の人々により良い暮らしをもたらすことに地域社会やNGO／NPOと一緒に取り組みます。

- 社会貢献活動
- 出張授業
- 工場見学
- 地域住民との懇談、協働
- NGO／NPOとのパートナーシップ

行政・業界団体・同業者

健全な事業活動を促進し、行政や業界とともに社会のサステナビリティに貢献します。

- 行政主催の委員会、イベント、生活講座
- 業界団体との情報交換、自主基準策定への参画
- 関連学会・研究機関との共同研究
- 企業との共同研究

3つの重点領域ハイライト

エコロジー　コミュニティ　カルチャー

事業活動による環境負荷の低減

ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減

花王は、温度上昇を工業化以前に比べて2℃未満に抑制するという長期の国際的な目標を達成するために、製品のライフサイクルを通じたCO_2削減や、政策立案者等との協働、森林破壊ゼロをめざした取り組みなどを積極的に推進しています。

ライフサイクル全体でのCO_2削減

国内花王グループ

花王は、製品ライフサイクルCO_2排出量を2020年までに35%削減することをめざして活動を推進しており(国内消費者向け商品、売上高原単位、2005年基準)、2014年は17%の削減となりました。

各工場での省エネ活動や、節水型の衣料用および食器用洗剤の発売、粉末衣料用洗剤のつめかえ製品の発売、生産体制と配荷エリアの最適化による製品輸送距離の短縮など、製品のライフサイクル全体でさまざまな取り組みを行なっています。

また2014年は前年に引き続き、サプライヤーの協力のもと、原料のCO_2データを一部更新しました。これからも、より正確な数値の集計に努めていきます。

➡P9「非財務ハイライト>製品ライフサイクル全体のCO_2排出量の推移(国内花王グループ)」

工場・事務所における取り組み

グローバル

花王は、温室効果ガス(GHG)排出量を削減するために、「エネルギー使用効率の向上」と「低環境負荷エネルギーの使用」に取り組んでいます。エネルギー使用効率の向上では、日々の業務における草の根の省エネ活動とともに、BPT(Best Practicable Technology)の導入を積極的に進めています。

2014年は、花王インドネシア・チカラン工場において、他工場でも積極的に展開している空気圧縮機の台数制御システムを稼動させました。また、花王サニタリープロダクツ愛媛にヒートポンプ※を導入しました。さらに、ファティケミカル(マレーシア)をはじめ多くの工場において蒸気の有効利用を図りました。

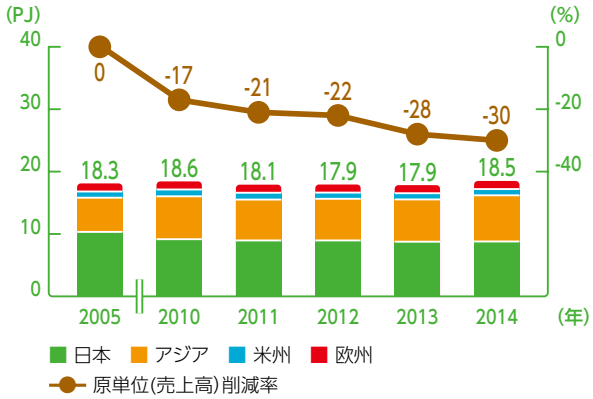
こうしたコスト削減にもつながった省エネ活動事例は2014年全体(国内工場・事務所)で151件あり、CO_2削減量、コスト削減額はそれぞれ年間で約6,300トン、約1.7億円となっています。

また花王製紙富士は、環境省による二酸化炭素削減ポテンシャル診断事業に参加しました。専門家によるエネルギー削減可能性の提案をもとに、各種技術の導入を進めていきます。

低環境負荷エネルギーの使用では、花王マニュファクチュアリングジャーマニーにおいて、すべての購入電力を再生可能エネルギー由来に置き換えました。これにより、CO_2排出量を年間当たり5,590トン削減可能です。

これらの取り組みの結果、工場・事務所における2014年のエネルギー総使用量原単位とGHG排出量原単位は、それぞれ2ポイント改善の30%削減、1ポイント改善の28%削減となり、目標の29%削減、28%削減(花王グループの全事業場対象、売上高原単位、2005年基準)を達成しました。

エネルギー使用量の推移★



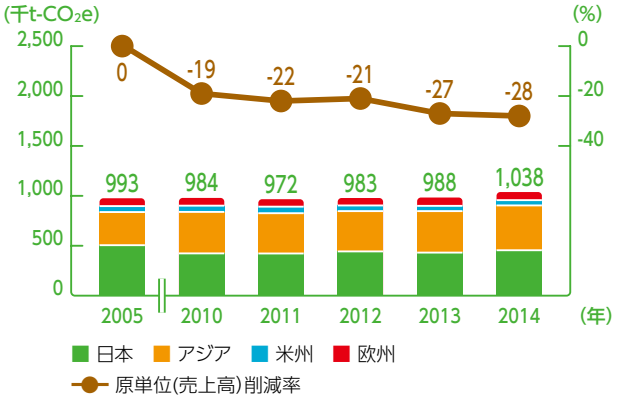
※ 集計対象拠点:花王グループの全生産事業場、日本国内の非生産事業場(営業車含む)
※ 保証対象はエネルギー使用量

※ ヒートポンプ
冷媒の圧縮・膨張により、少ない投入エネルギーで空気中などから熱を集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術

3つの重点領域ハイライト　エコロジー

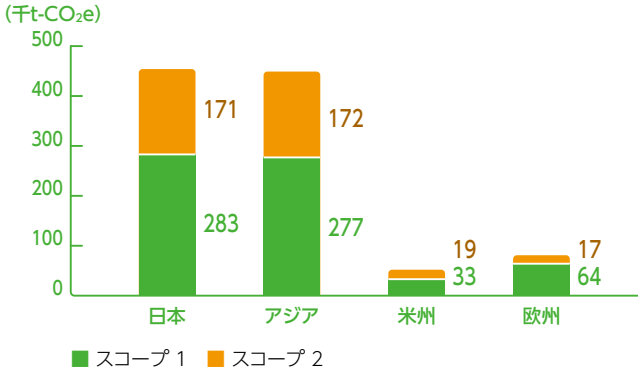
花王グループの温室効果ガス(GHG)排出状況

温室効果ガス排出量の推移★



※ 保証対象は温室効果ガス排出量

スコープ別・地域別温室効果ガス排出量★



※ 集計対象拠点：花王グループの全生産事業場、日本国内の非生産事業場(営業車含む)
※ 対象ガス：京都議定書で定める6ガス(日本以外はCO_2のみ)
※ スコープ別排出量はGHGプロトコルイニシアチブの定義に従う
スコープ1：企業・組織が自ら排出するGHG排出量
スコープ2：購入電力等の間接的なGHG排出量

輸送段階における取り組み

グローバル

輸送段階での環境負荷を低減するために、花王では生産工場の最適化、モーダルシフト、輸送の効率化と燃費の向上などの取り組みを進めています。

日本においては、生産体制と配荷エリアの最適化による輸送距離の短縮やモーダルシフトなどの取り組みにより、輸送によるエネルギー消費の削減、温室効果ガス排出量の削減を進めています。

また、自社での取り組みに加え、他社との連携も進めています。その代表的な例として、イオングローバルSCM(株)との31フィート鉄道コンテナの共同運行や、輸送量が増える繁忙期における専用貨物列車の共同運行を開始しています。

一方、海外でもベトナムにおいてトラック輸送を船舶輸送に切り替えるなど、積極的に温室効果ガス削減に向けた取り組みを進めています。

今後はさらなる環境負荷低減に向けた展開をめざしていきます。

Topics ブリヂストンと高機能タイヤ用ゴム材料を共同開発

花王は2014年、(株)ブリヂストンと共同で高機能タイヤ用ゴム材料を開発しました。花王の「界面制御技術※1」と、ブリヂストンの基盤材料技術「ナノプロ・テック※2」を融合し開発した「高機能タイヤ用ゴム材料」です。

これにより、ゴム中にシリカを多く均一に配合・分散させることができCO_2削減につながる低燃費性能と、濡れた路面でのグリップ性能をより高い次元で両立することができました。

花王の「新シリカ分散性向上剤」は100%植物由来であるため、タイヤ材料のサステナブル化にも貢献します。両社は今後、この技術を乗用車用のみならず、幅広いタイヤ種に応用し、グローバルでの展開も積極的に進めていきます。

※1 界面制御技術：物質の表面・界面で起こる現象をナノレベルで理解し、それを精密に制御する技術。
※2 ナノプロ・テック：分子構造設計等を通して材料の微細構造を制御し、必要特性を引き出す技術の総称で、(株)ブリヂストンの基幹技術の一つ。

3つの重点領域ハイライト　エコロジー

水資源への対応

花王の事業は、水資源と密接につながっています。そこで花王は、水をより有効に利用するための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の取り組み、使用後の水が環境に与える影響を最小限にする取り組み、さらにその影響を評価できるしくみづくり等を進めています。

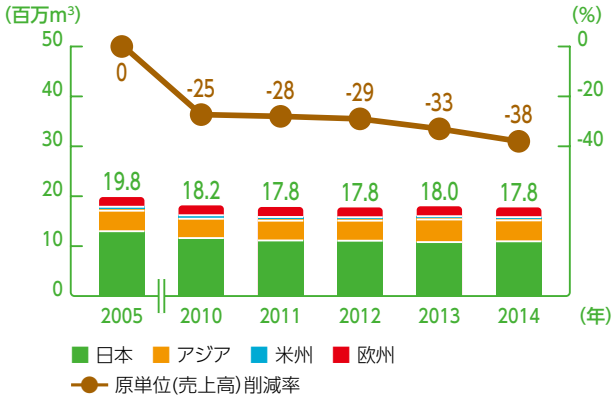
工場・事務所における取り組み

グローバル

花王の各工場では、製品への配合や設備の洗浄、冷却などに水資源を利用しています。Reduceの取り組みとして、ピリピナス花王において水使用量の精査を行ない、使用量削減を図りました。Reuseの取り組みとして、雨水を緑地の散水などに活用する活動を、すみだ事業場やファティケミカル(マレーシア)などで行なっています。さらに、プロセスで利用した水を浄化して再使用する取り組み(Recycle)も進めています。

こうした活動の結果、水使用量原単位は昨年より5ポイント改善の38%削減となり、目標の35%削減(花王グループの全事業場対象、売上高原単位、2005年基準)を達成しました。

水使用量の推移★



※ 集計対象：花王グループの全生産事業場、日本国内の非生産事業場
※ 保証対象は水使用量

使用段階における取り組み

グローバル

花王では、「2020年までに国内の消費者向け製品で製品使用時の水使用量を30%削減(売上高原単位、2005年基準)する」ことを目標としています。2014年は21%の削減となりました。

家庭での水使用量が多い衣料用洗剤では、超濃縮技術によりすすぎが1回ですみ、節水だけでなく節電や時短にもつながる衣料用濃縮液体洗剤「アタックNeo」を2009年に発売しました。その後もシリーズの充実を図っています。さらに、中国やオーストラリアにおいても節水型の洗剤を展開しています。

衣料用洗剤と同様に家庭での水使用量が多い食器用洗剤では、2014年8月に洗浄力をさらに高め、かつすすぎも一段と早くなった「キュキュット」を改良新発売しました。

また、「メリットシャンプー」は2010年から泡切れがよい洗浄成分を採用し、従来品より約20%少ない水ですすげます。さらに、より少ない水でシャンプーできる「エコシャンプー術」の啓発も行なっています。

➡P9「非財務ハイライト>製品使用時の水使用量の推移(国内花王グループ)」

製品使用後の排水が環境に与える影響

グローバル

花王は、微生物によって分解されやすく水生生物に影響の少ない原料の使用や開発に努めています。具体的には汚水処理場の活性汚泥や河川水を用いて、環境に排出される可能性のある製品の原料の生分解性能や、水生生物への影響を調べる試験等を行なっています。

また、製品使用後の実態把握にも目を向け、河川環境モニタリングなど独自のフィールド調査や化学物質の河川濃度を予測するモデルの活用や開発を進めています。これらの活動は海外の事業展開国においても実施しており、現地の大学と共同研究に取り組むなど、各地域の環境に配慮した事業活動をめざしています。

さらに、日本石鹸洗剤工業会においても、代表的な4種の界面活性剤の都市河川における環境モニタリング(4河川7地点、年4回測定)を16年間にわたって実施し、生態系に及ぼす環境リスクを評価しています。その結果、これまでの調査ではこれらの界面活性剤の水生生物に対するリスクは定常的に低いことが示されています。

実績と目標

「CO_2」「水」「化学物質」「生物多様性」と「その他環境負荷」に関する目標を掲げ、活動を推進しています。

方針／体制

花王は、原材料調達から生産、物流、販売、使用、廃棄など製品のライフサイクル全体を通じて、消費者、ビジネスパートナー、社会など多様なステークホルダーの皆さまと協働して取り組みを進める“いっしょにeco”活動を推進しています。

地球温暖化や資源の枯渇という地球規模の課題に人類が直面しているという状況の中、「世界の人々の豊かな生活文化の実現に貢献する」ことを使命とし、中・長期的な経営戦略として「環境への負荷低減をベースとしたモノづくり」を進めています。また、化学物質を取り扱う企業としての責任を果たしながら、自然と調和する環境経営を推進しています。

このような考えのもと、花王は、CO_2、水、化学物質、生物多様性の4項目を環境の重要課題として認識しています。

取り組み内容の詳細はこちらで紹介しています。
➡P16「花王サステナビリティステートメント>2014年実績と2015年目標（エコロジー）」

2014年の実績と今後の目標

グローバル

2014年は、国内花王グループでの温室効果ガス排出量（全事業場+製品輸送）、花王グループの廃棄物等発生量で目標を達成できませんでした。2015年はさらに取り組みを推進し、目標達成をめざします。

1. 生産等事業活動関連

花王グループ

項目	指標※1	対象	2014年目標	2014年実績	2015年目標	2020年目標
エネルギー／温室効果ガス	エネルギー使用量	全事業場	29%削減	30%削減	30%削減	35%削減
	温室効果ガス排出量		28%削減	28%削減	29%削減	35%削減
水	水使用量		35%削減	38%削減	36%削減	40%削減
廃棄物	廃棄物等発生量		30%削減	27%削減	30%削減	33%削減

国内花王グループ

項目	指標	対象	2014年目標	2014年実績	2015年目標	2020年目標
温室効果ガス	排出量※2（1990年比）	全事業場+製品輸送	21%削減	18%削減	22%削減	25%削減
廃棄物	最終埋立処分率※3	全事業場	0.1%以下	0.1%	0.1%以下	0.1%以下
CSR調達	グリーン調達比率※4	全取引先工場	98%	99%	99%	100%※5

2. 製品関連

国内花王グループ

項目	指標※1	対象※6	2014年実績	2020年目標
CO_2	CO_2排出量	製品ライフサイクル全体	17%削減	35%削減
水	水使用量	製品使用時	21%削減	30%削減

※1 売上高原単位（2005年比）
※2 京都議定書で定められた6種類の温室効果ガスの排出量をCO_2に換算した値
※3 廃棄物等発生量に対する最終埋立処分量の割合
※4 対象取引工場のうち、環境マネジメントシステムを運用している工場の比率
※5 グリーン調達の基準に、地球温暖化防止、生物多様性保全、保安防災の視点を追加し、その新たな基準が100%達成されること
※6 主に日本国内消費者向け製品が対象

化学物質の適正管理

花王は、SAICM(国際化学物質管理戦略)に沿って、積極的に化学物質の適正管理を推進しています。

方針／体制

花王は、「SAICM推進の基本方針」に従って、SAICM※に沿った化学物質管理を強化・推進しています。本方針は、花王グループの化学物質に関する全社的な管理方針を規定したものであり、花王の化学物質管理のベースとなっています。

※ SAICM(国際的な化学物質管理に関する戦略的なアプローチ。
Strategic Approach to International Chemicals Management)

➡詳細は「SAICM推進の基本方針」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_03_05.html

「SAICM」とは、地球規模で2020年までに化学物質による人の健康や環境への影響を可能なかぎり小さくするための取り組みです。「SAICM」のゴールは「予防的取り組み方法に留意しつつ、透明性のある科学的根拠に基づくリスク評価手順と科学的根拠に基づくリスク管理手順を用いて、化学物質が人の健康と環境に及ぼす著しい悪影響を最小化する方法で使用、生産されることを2020年までに達成する」ことにあります。

花王は国内主要化学品メーカーと比べても管理すべき化学物質数が多く、SAICMの観点から検討するべき課題があります。そこで、SAICMのゴールに向けた取り組みをより具体的に加速させるため、2012年にケミカル事業ユニットおよび研究開発部門、生産技術部門、品質保証部門を主導部門とする全社的組織である「SAICM推進委員会」を新たに発足させました。

その中で、(1)化学物質のリスク評価&リスクマネジメント、(2)化学物質のライフサイクルでの管理、(3)ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション、の3つを花王におけるSAICM活動の主な課題として掲げ、それぞれに対応するプロジェクトを委員会内に設置し、推進しています。

これらの取り組みを通じて、花王の化学物質管理をより強化し推進するとともに、得られた成果をさまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを通じて発信し、顧客や消費者に花王製品をより一層信頼していただけるよう、取り組んでいます。

SAICM推進委員会活動

2014年のSAICM推進での重点課題として、以下の3点を掲げて活動を推進しました。

❶ 2020年までの中期計画に沿った優先評価物質のリスク評価とリスク評価書の作成／化学物質ライフサイクル管理システムの開発着手
❷ 生産での管理物質決定と取り扱い現場でのリスク評価
❸ SAICM活動成果の一元的公開法と地域とのコミュニケーション手法の検討

活動の結果は以下のとおりです。

❶ 中期計画に沿って2014年優先評価物質のリスク評価を終了し、その結果をリスク評価書にまとめました。また、花王の「化学物質総合管理システム」をベースに、より進化させた化学物質ライフサイクル管理システムを構築すべく、SAICMプロジェクト内に開発ワーキンググループを発足させました。
❷ 化学物質を取り扱う生産現場でのリスク評価に関しては、労働安全衛生法でのコントロールバンディング法※1による作業場での定性的なリスク評価と、欧州REACHでのリスク評価に採用されているECETOC TRA※2といったより詳細なリスク評価手法を組み合わせて、PRTR物質、VOC物質、毒劇物を取り扱う作業場でのリスク評価を実施しました。2015年は、化学物質リスク評価に基づいた作業場リスク低減対策の立案と実施や生産現場での危険有害性(GHS)表示を検討する予定です。
❸ SAICM推進委員会および上位の委員会で、花王のSAICM推進の基本的な考え方・取り組みや安全性要約書等のSAICM成果物を、2015年に花王ウェブサイトにて公開することを決定し、開始しました。また、花王がEUのREACHで登録している物質のGPS安全性要約書に関しては、花王グループのウェブサイトで、2014年に35件(累計77件)公開しました。

➡化学物質をより安全に使用するための取り組み(SAICM推進活動)
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_06.html

第6回 SAICM推進委員会主催講演会の様子

※1 コントロールバンディング法
化学物質の健康有害性についてのリスクアセスメント手法の一つ。国際労働機関(ILO)が、開発途上国の中小企業を対象に、有害性のある化学物質から労働者の健康を保護するために、簡単で実用的なリスクアセスメント手法を取り入れて開発した化学物質の管理手法。化学物質を取り扱う作業ごとに、化学物質の有害性、物理的形態(揮発性／飛散性)、取扱量の3つの要素によって、リスクの程度を4段階にランク区分し、管理のための一般的実施事項を各々の区分ごとに示すほか、一般的に行なわれる作業については、より具体的な実施事項を示すことができるツールとなっている。

※2 ECETOC TRA(European Centre for Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals Targeted Risk Assessment)
EUの化学物質登録制度であるREACHでも用いられている、グローバルで認められたリスク評価ツール。リスク判定とともにリスク管理の方向性も得られる。

化学物質の適正管理

管理システム

2001年、花王は個々の製品や原料およびそこに含まれる化学物質にグループ共通のコード(Master Index)を付与して登録する化学物質データベースを構築しました。そのコードをキーとして製品や原料の組成、安全性、法適合性、安全性データシート(SDS)などの情報を一元的に確認できる自社開発の「化学物質総合管理システム」を運用しています。

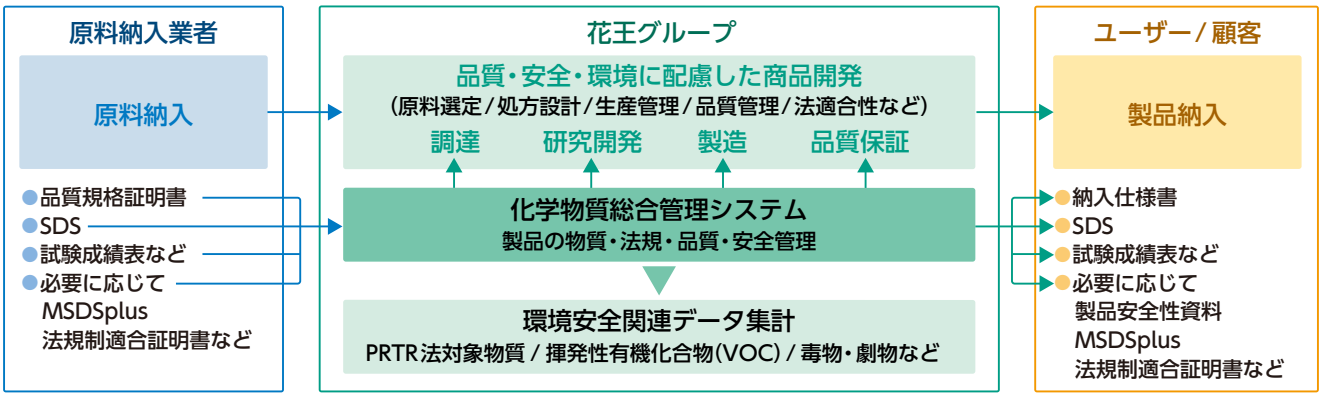
このシステムは、安全性や環境に配慮した商品設計への活用とともに、生産系基幹インフラと密接に連携することで、原料調達から生産、出荷までのトレーサビリティを確保し、花王の“よきモノづくり”を支えるバックボーンとなっています。

2007年施行のEU化学品規制REACHでの物質数量管理や、2011年から義務化された化審法の用途毎数量報告への対応については、花王で製造・使用する化学物質数量を集計・可視化できるシステム環境を整備し、確実な対応を行なっています。

幅広いカテゴリーの製品を製造する花王は取り扱う物質数も多く、その用途も多岐にわたっています。今後、こうしたシステムで集計された数量や用途をベースに、より厳密なリスクアセスメントを実施し、化学物質の適正な管理を継続していきます。

また、SAICMに沿った化学物質管理、研究と生産との連携やコンプライアンス強化等につながるシステム開発を積極的に進めていきます。

花王化学物質総合管理システム



EU化学品規制REACH※1への適合

グローバル

花王グループでは欧州に直接・間接に輸出しているケミカル製品について、その輸出数量や登録期限に応じて、欧州REACH登録を進めています。すでにREACHフェーズ1物質(EU内で年1,000トン以上製造・輸入するものが中心)およびフェーズ2物質(EU内で年100トン以上製造・輸入)については、日本花王およびアジア・米国関係会社の代理人である欧州花王化学(KCE)との緊密な連携のもと、期限どおりにREACH本登録を終了させています。

次のステップであるフェーズ3物質(EU内で年1トン以上製造・輸入)に関しては、それぞれの物質の欧州でのビジネスの状況や将来展開などを考慮して、2014年から毎年計画的に優先的に登録する物質を選定して登録作業を進めており、最終的な登録期限である2018年5月末までに必要な物質の登録をすべて遅滞なく完了させる予定です。

一方、REACH規則の遵守のためには、登録に加え唯一の代理人(OR)とEU輸入者の間で、サプライチェーンを通じてREACH対応に必要な輸入者情報や登録情報などを交換する必要があります。こうした双方向の情報伝達を達成するため、2014年も引き続き、輸入者情報や登録情報を暗号化し、サプライチェーン間での機密情報に配慮したOR²IS※2システムを用いた効率的な情報伝達の実施に取り組みました。

※1 REACH:EUの化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則。Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals

※2 OR²IS(オーリス。OR Related REACH Information Sheet)
欧州にて2007年6月1日に施行されたREACH規則に対し、欧州域外サプライチェーン上の事業者が唯一の代理人(OR:Only Representative)と呼ばれる代理登録者を利用する制度を使って、EU域外サプライチェーンにてREACH情報伝達に取り組むために開発されたしくみ(標準化された情報シート)。

化学物質の適正管理

化学物質の情報管理の強化に向けた活動

グローバル

1. SDS※1およびラベルのGHS※2対応

ケミカル製品では、世界各国で導入された各国のGHSに対応したSDSの発行、製品ラベルの貼付を推進しています。

日本およびアジア関係会社を含むケミカル事業では、GHSに対応したSDSおよび製品ラベルの作成、化学物質総合管理システムによる管理での一体運用を2008年に開始しています。2014年は、GHS実施国・地域（日本、台湾、韓国、中国、EU、シンガポール、タイ、インドネシア（主に単一製品））へ販売する製品のGHSラベル貼付を行ないました。また新たにベトナム、マレーシアのSDSの作成、発行を行なうとともに、ラベル貼付実施に向けたシステム対応等の準備を推進しました。欧米についても、2015年6月に実施されるEU混合物CLP対応や米国OSHA(HCS)GHS対応に向け準備中です。

2. 含有化学物質情報の提供と入手

ケミカル製品中の含有化学物質情報の提供について花王は、JAMP※3の設立メンバーとして、共通書式の「MSDSplus※4」による情報提供や情報入手を積極的に進めています。

2014年も、1月（物質リストVer.4.010）と7月（物質リストVer.4.020）に改訂版のMSDSplusを発行し、販売代理店を通じて顧客へ配布したほか、ウェブサイトで公開しました。また、アジア関係会社の製品についても英語版のMSDSplusを作成し、各関係会社のウェブサイトで公開しました。中国関係会社の製品については、英語版だけでなく中国語版のMSDSplusも作成し公開しました。

さらに、2014年も購入原料について、サプライヤーから継続的に最新版MSDSplusを入手しました。

年々増加するMSDSplus情報の効率的な伝達を促進するため、JAMP-IT※5にケミカル製品のMSDSplus情報を登録し、取引先への情報公開や提供を進めています。2014年は一部の販売代理店もJAMP-ITによる情報提供や入手を開始し、代理店経由で購入している原料のMSDSplus情報の伝達にも活用しました。

3. 化学物質リスクコミュニケーション

化学業界によるSAICMへの貢献活動として、国際化学工業協会協議会（ICCA）が提唱し、日本化学工業協会（日化協）が2009年から進めているプロダクトスチュワードシップに基づく化学物質管理強化のための自主的活動（JIPS※6）に、花王は積極的に参画し、顧客との化学物質に関するコミュニケーションを推進しています。

従来から花王は、化学物質コミュニケーション活動としてSDSやMSDSplusの公開を積極的に進めており、近年では欧州対応のeSDS※7の公開や危険有害性情報、人・環境への暴露に関する情報、リスク管理措置などをわかりやすく記述したGPS安全性要約書※8を花王ケミカルウェブサイトおよびICCAのGPSケミカルポータルサイトに掲載しています。このGPS安全性要約書の公開による「ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション」の活動は、花王におけるSAICM活動の重要な要素の一つとして位置づけています。

2014年は、国内外でGPS安全性要約書の作成・公開を積極的に行ないました。国内では2012年からの累計で日本語版と英語版の58件を公開し、海外ではタイ、インドネシア、フィリピンのアジア関係会社製品について、各国の化学企業で初となるGPS安全性要約書を英語版もしくはローカル言語版で公開し、花王グループとして77件を公開（グローバルでの累計）するとともに、ICCAの提唱するGPS活動へも貢献しました。

2015年もREACH登録を行なった製品を中心にGPS安全性要約書の公開を進め、積極的に顧客・社会とのリスクコミュニケーションをグローバルに推進していきます。

※1 SDS(Safety Data Sheet)
化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類のこと。旧称：製品安全データシート(MSDS)が2012年3月制定のJIS Z 7253で安全データシート(SDS)に名称変更された。
※2 GHS：化学品の分類および表示に関する世界調和システム。Globally Harmonized System of Classification and Labelling Chemicals
※3 JAMP：アーティクルマネジメント協議会。Joint Article Management Promotion-consortium
※4 MSDSplus：特定の化学物質の情報伝達シート。
※5 JAMP-IT：JAMPが開発したMSDSplusの含有化学物質情報を効率よく入手・提供するインターネットシステム。
※6 JIPS：化学物質管理強化のための自主的活動。Japan Initiative of Product Stewardship。SAICMの合意を受けて、国際化学工業協会協議会（ICCA）が推進している「グローバルな化学物質管理を強化する行動指針（GPS）」に基づいた取り組み。
※7 eSDS：拡張安全データシート。従来のSDSにリスク評価やリスク管理にかかわる記載が追加されたもの。
※8 GPS安全性要約書
一般社会へ化学物質の安全性情報の概要を提供する書類。物理化学的特性のほか、リスクが適切に管理される使用・加工の取扱条件、リスク管理措置などが記載された書類で、川下ユーザーへの情報伝達に利用される。

化学物質の適正管理

国内法規制遵守に向けた活動

国内花王グループ

1. 改正化審法対応

2011年4月に施行された改正化審法では、人や環境に与える影響を段階的に評価するために、「優先評価化学物質」が新設され、毎年物質が追加されています。2014年に追加された優先評価化学物質についても、花王は対象となるケミカル製品のSDSを改訂して、顧客や販売代理店へ含有情報を提供しました。

また、改正化審法では用途ごとの数量報告が義務化されたことから、ケミカル製品の用途情報を定期的に調査して、最新情報に更新して管理しています。

2. SDSおよび製品ラベルの改訂

2012年の労働安全衛生法と化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)の改正やJISの改訂に対応するため、ほとんどのケミカル製品についてSDSおよび製品ラベルの改訂が必要になります。2013年1月からSDSの改訂を開始し、該当製品については2014年8月に改訂が完了しました。一方、ラベルについても、前年に引き続き順次改訂を実施しています。

PRTR法対象化学物質の排出を把握・管理

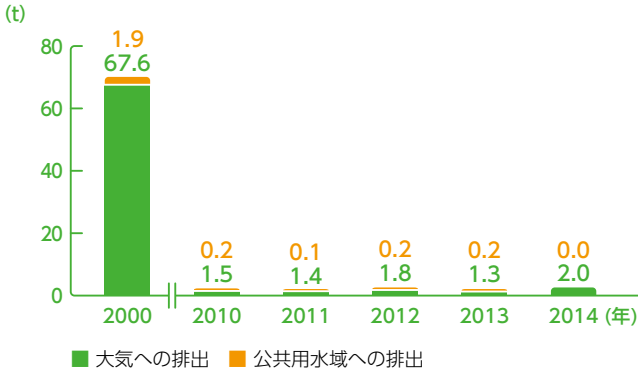
国内花王グループ

花王が2014年に取り扱ったPRTR法対象化学物質は74種であり、大気および公共用水域への総排出量は2.0トンでした。

また、一般社団法人日本化学工業協会(日化協)が自主調査対象として定めた化学物質についてもPRTR法対象化学物質と同様に排出量や移動量等を把握し管理しています。

➡詳細は「PRTR 法対象物質の排出量」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_02_07.html

PRTR法対象化学物質の総排出量の推移



VOCの排出量管理を実施

国内花王グループ

花王には、大気汚染防止法におけるVOC排出規制の対象となる設備はありませんが、自主的にVOC排出量の削減に取り組んでいます。環境省環境管理局長通知100種類のVOC対象物質を調査したところ、花王が2014年に取り扱った化学物質は33種であり、大気中への総排出量は6.6トン★でした。

PCBを適正に保管・処理

国内花王グループ

絶縁油にポリ塩化ビフェニル(PCB)を含んだ廃棄物(変圧器、安定器等)は、花王(株)の和歌山工場および東京工場、川崎工場、鹿島工場、酒田工場、小田原事業場、花王製紙富士(株)で、廃棄物処理法およびPCB特別措置法の基準に従って処分されるまで厳重に保管しています。

高濃度PCB廃棄物は、中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)に登録しています。2014年の処理実績はありません。

低濃度PCB廃棄物は、認定または許可を受けた業者にて処理を積極的に進めており、2014年は9台の機器を処理しました。

生物多様性への対応【EN12】

花王は、事業が生物多様性によるさまざまな恵みによって支えられていることを認識し、事業活動と社会活動の両面で生物多様性の保全を推進します。

方針／体制

2011年に公表した「生物多様性保全の基本方針」に基づき、生物多様性に配慮した事業活動や社会活動に取り組んでいます。

生物多様性への影響を減らすモノづくりをより一層推進するため、主要製品の環境影響評価を進めています。原材料については「原材料調達ガイドライン」を策定し、特に主要原材料であるパーム油・紙についての調達方針や目標を明確にしました。また、地域の生物多様性に配慮した活動を主要事業場で展開していきます。これらの活動を確実に遂行するため、基本方針の各項目に対応した社内目標を掲げています。

生物多様性保全の基本方針

1. 事業と生物多様性との関わりを把握します。
2. 事業が生物多様性へ与える影響を低減します。
3. 生物多様性のもたらす恵みを大切に活用するため、独自の技術開発を進めます。
4. 国際的な取り決めを遵守します。
5. 地域の生態系に配慮した事業活動に努めます。
6. 生物多様性に関して、全ての社員の意識向上や部門間の情報共有を進めます。
7. 生物多様性の保全に関して、社外の関係者と連携を図ります。

「原材料調達ガイドライン」に基づく持続可能な原材料調達に向けての取り組み

グローバル

花王は、生物多様性の劣化のみならず、地球温暖化などの環境問題、資源制約や人権などの課題を踏まえ、「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

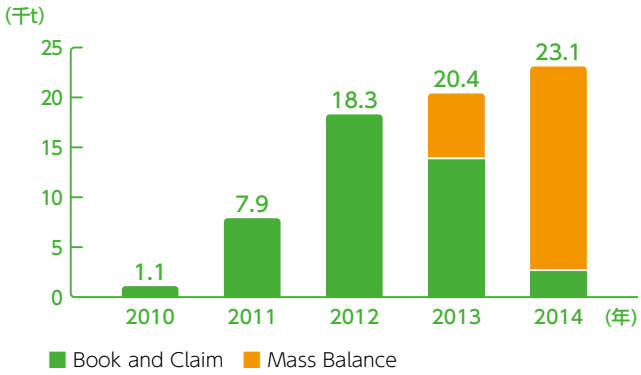
「持続可能なパーム油」の調達ガイドライン

花王が扱う基本原料の一つであるパーム油の調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明し、“2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入する”ことを新たな目標として掲げました。

目標達成のため、花王は2015年末までに花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油・パーム核油を、持続可能性に配慮したミル（搾油工場）まで原産地追跡可能なもののみ購入することをめざす取り組みを進めています。また、2020年までに、農園およびサプライヤー、第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロの十分な確認を進めていきます。さらに花王は、保護価値の高い（HCV※1）森林、炭素貯蔵量の多い（HCS※2）森林および泥炭湿地林の開発に加担しないことを表明しています。

花王は、熱帯雨林の伐採による生態系破壊、原産地や工場での人権侵害等の課題解決のために「持続可能なパーム油の円卓会議：RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil）」に2007年に加盟しました。2010年9月より認証方式の一つであるBook and Claim方式※3での認証パーム油の購入を開始し、現在は主としてMass Balance方式※4による認証パーム油・パーム核油の購入を進めています。RSPO SCCS認証※5の審査は、2012年3月に鹿島工場が合格し、続いて2013年に和歌山工場、2014年に海外9工場が合格しました。2020年までに、花王グループの追跡可能なサプライチェーンの構築に努めます。

花王グループの認証油購入実績



※ パーム油、パーム核油、およびその誘導体の合計
※ RSPOへの報告実績（7月～6月で集計）

※1 HCV：High Conservation Value
※2 HCS：High Carbon Stock
※3 Book and Claim方式
RSPO認証のパーム油のクレジットを取引するシステムです。RSPOにより認証された農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行された「認証クレジット」を購入することで、クレジットに応じた量の認証パーム油を購入したとみなすことができます。本方式では、使用されるパーム油と同量の認証パーム油が生産されていることを厳密に保証し、農園での認証油の生産を促進することができます。
※4 Mass Balance方式
RSPO認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム。
※5 SCCS（Supply Chain Certification System）認証
生物多様性保全のための厳しい条件をクリアしてRSPOから認められた農園で生産されたパーム油を使用して製品をつくる際の、「製造・加工・流通過程」に関する認証制度。

生物多様性への対応 [EN12]

「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドライン

花王は、紙・パルプの調達においても生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明しています。2020年までに、花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したもののみを購入することを目標に掲げ、行動指針を策定しました。

私たちは紙・パルプの無駄遣いをせず、古紙パルプを主原料としていること（再生紙であること）を優先します。また、古紙パルプ以外のパルプ（バージンパルプ）を使用する場合は、2020年までに、原料木材産出地の追跡可能なパルプのみを購入し、サプライヤーおよび第三者機関との協働により、原料木材の産出地の森林破壊ゼロを十分に確認します。

➡P79「カルチャー＞サプライヤーとの連携」

また、品質面でも、以下のようなさまざまな環境配慮がなされていることを確認します。

- 塩素ガスを使わずに漂白されている
- 白色度が過度に高くない
- 塗工されているものについては、塗工量ができるだけ少ない
- リサイクルしにくい加工がされていない

他企業と連携した取り組みを推進

国内花王グループ

花王は、「企業と生物多様性イニシアティブ※(Japan Business Initiative for Biodiversity：JBIB)」に、2008年の発足当初から参加しています。現在、JBIBの複数のワーキンググループに参加し、さまざまな業種の企業と一緒になって、企業が生物多様性保全活動に取り組むうえで有効なツールやガイドライン作成等の研究活動に取り組んでいます。

※ 一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ
生物多様性の保全をめざして積極的に取り組む企業が集まり、2008年に発足した団体。

「花王・みんなの森づくり活動」を実施

国内花王グループ

次世代に緑豊かな環境を引き継ぐために、2000年より「花王・みんなの森づくり活動」を継続しています。この活動は、公益財団法人都市緑化機構と花王が協働で運営しており、暮らしの身近にある緑を守り育てる活動をするNPOや市民団体を支援しています。「森づくり活動分野」と「環境教育活動分野」の2つの柱を設けて助成を行なっており、いずれも長期的な視点で安定した活動が行なえるよう、3年間の継続助成としており、これまでに391の団体を支援しています。

2014年は、8～10月に募集を行ない、128団体（森づくり活動分野80団体、環境教育活動分野48団体）からの応募があり、2015年3月に新たに20団体の支援を決定しました。

「日永梅林・登城山」を復活させる会

NPO法人ひらた里山の会

生物多様性への対応 [EN12]

タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト

グローバル

2012年より、花王は、急速な森林減少や土壌の劣化が社会問題となっているタイで森林の回復と持続可能な保全をめざす「タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト」を行なっています。

3年目となる2014年は、新たに7haの土地に8,000本の植林を行なうとともに、子どもたちへの環境教育も実施し、森を守る人づくりも進めています。8月には、地域の人々や学校の生徒、花王社員も参加して植林を行ない、交流を深めました。活動地は累計で21haに広がり、日々、地域の人々による下草刈りや追肥などの管理作業が継続して行なわれ、これまでに植林した約25,000本の木々がすくすくと生長しています。

8月の植林で記念撮影

子どもたちへの環境教育も実施

東日本グリーン復興モニタリングプロジェクトに社員が参加

国内花王グループ

認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンが実施している「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト」に社員が参加する機会を設けています。このプロジェクトは、東日本大震災で津波の被害を受けた干潟や田んぼで、生物モニタリング調査を行なう研究者の作業のサポートをボランティアが行なうものです。

2014年は、13名の社員が現地におもむき、調査のサポートをしました。この調査で得られたデータは、生物多様性に配慮した復興の計画や、種の保全のために活用されます。

生物モニタリング調査の様子

生物多様性への対応 [EN12]

和歌山工場 生物多様性への取り組み

国内花王グループ

「第2回 みどりの社会貢献賞」を受賞

和歌山工場が「第2回 みどりの社会貢献賞」（主催：公益財団法人都市緑化機構）を受賞しました。和歌山工場内を縦断するクロマツを中心とした防潮林の自然・歴史・文化的な価値を理解し、次世代へ引き継ぐための案内板の設置や、鳥類などの生息に配慮した管理に従業員が努めている点と、地球環境と自社のエコ技術の情報発信を目的としたエコラボミュージアムを併設し、貴重な緑地資源の保全とあわせ環境保全の普及啓発を積極的に行なっている点などが評価されました。受賞を励みに、今後もエコラボミュージアムとの連携を図りながら、「生物多様性モデル工場」を合言葉に、防潮林をはじめ場内緑地の保全を着実に進めていきます。

工場緑地と表彰盾

企業の森活動

花王は、和歌山県が取り組んでいる「企業の森」活動に参画し、2007年から海草郡紀美野町の0.7haの森林において保全活動を実施しています。2014年も、153名の社員とその家族が参加して下草刈りを行ないました。

企業の森活動の様子

その他の環境負荷【EN21,EN22,EN23】

花王は、廃棄物をはじめとするさまざまな環境負荷についても、その影響を少なくするよう努めています。

廃棄物削減の取り組みを推進

グローバル

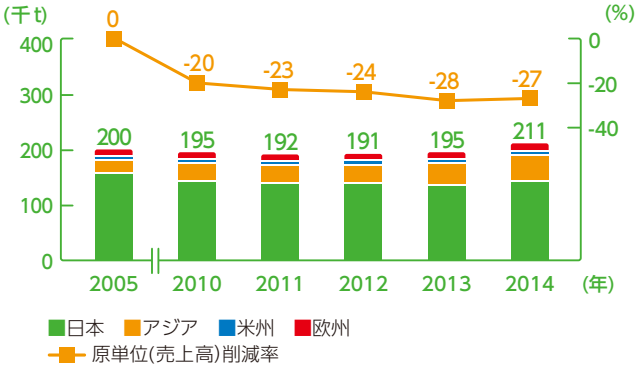
花王は、循環型社会の形成に向けて、3Rの取り組みのうち、特に廃棄物等の発生量の削減(Reduce)、および再利用の推進(Reuse)を強化しています。

廃棄物等発生量の削減活動として、生産事業場においては、生産方法の変更による製品ロスや端材の発生抑制、設備の洗浄工程見直しによる廃水の削減などを継続的に実施しています。物流拠点では物流資材の再利用を、オフィスでは紙の使用枚数管理などを実施しました。

これらの取り組みを実施しましたが、2014年は工場の新設や生産ライン増設の影響等で、廃棄物等発生量は前年より16千トン増加し、売上高原単位削減率は1ポイント悪化の27%削減(2005年比)と、目標の30%(花王グループの全事業場対象、売上高原単位、2005年基準)に到達しませんでした。2015年は、廃棄物等発生量の削減活動を強化していきます。

また日本では、最終処分場の残余年数がひっ迫していることから、発生した廃棄物等を、社内で循環利用に努めたうえで他企業での原材料としての利用に積極的に切り替え、セメント原料としての利用、焼却処理後の燃え殻の道路材料への利用などの方法により、埋立処分となる廃棄物量の削減を積極的に行なっています。これらの活動の結果、2014年の最終埋立処分率は、目標の0.1%以下を維持し、ゼロエミッション目標を設定以来10年連続達成しています(国内花王グループの全事業場対象、廃棄物発生量に対する最終処分量の割合)。

廃棄物等発生量の推移★



※ 集計対象：花王グループの全生産事業場、日本国内の非生産事業場
※ 保証対象は廃棄物等発生量

廃棄物・リサイクルガバナンスの強化

グローバル

花王では、事業活動に伴い発生する廃棄物の処理業務に関し、不法投棄等のリスクを低減するための活動を推進しています。廃棄物等発生量やリサイクル量、最終処分量などの量の情報管理にとどまらず、委託した廃棄物が適切に処理されたことを確認するために、廃棄物の処理を直接委託している処理業者については定期的に処理現場の確認を行なっています。2014年は144社に協力をいただき、159施設の現地確認を行ないました。

日本においては、「廃棄物・リサイクルガバナンスシステム」で、契約情報や産業廃棄物管理票(マニフェスト)の運用、数量データおよび適正処理調査結果などを統合管理しています。また、本システムは「電子マニフェストシステム」に接続しています。国が進める「電子マニフェスト」普及拡大に歩調を合わせ、花王グループとして利用拡大を図っています。

その他の環境負荷 【EN21,EN22,EN23】

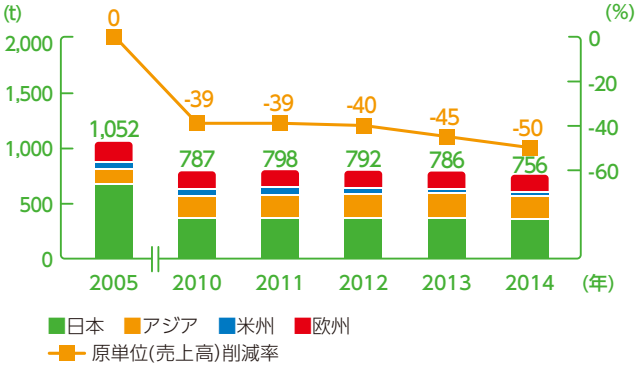
大気汚染防止への取り組み

グローバル

花王では大気汚染を防止するために、設備の維持管理に努めるとともに、低環境負荷化石燃料を積極的に採用しています。酸性雨の原因物質の一つであるNOxの工場からの排出量は、前年より30トン減少し、売上高原単位削減率は5ポイント改善しました。

法令および周辺自治体との協定に基づき、排出ガス中の汚染状況を監視しています。2014年は、規制値超過等の事故は発生しませんでした。

NOx排出量の推移★



※ 集計対象は花王グループの全生産事業所
※ 保証対象はNOx排出量

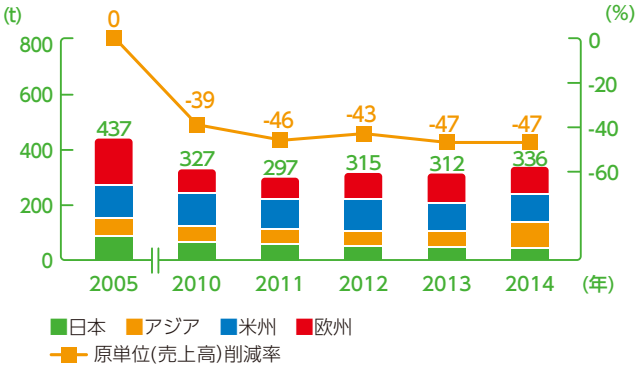
水質汚濁防止への取り組み

グローバル

花王では水質汚染を防止するために、設備の維持管理に努めています。工場からのCOD汚濁負荷量は、新工場の設立や生産能力の増強等の影響により、前年より24トン増加しましたが、売上高原単位削減率は悪化しませんでした。

法令および周辺自治体との協定に基づき、排水中の汚染状況を監視していますが、2014年には、花王スペシャルティーズアメリカズで2回（うち1回は罰金を支払い）、モルトンブラウンで1回基準値をオーバーした事故が発生し、当局に報告しました。これらの事故に対し、設備面からと運用面からの対応を完了しています。

COD汚濁負荷量の推移★



※ 集計対象は花王グループの全生産事業所
※ 下水道への排水に対するCOD汚濁負荷量は下水道除去率を加味しています。
※ 保証対象はCOD汚濁負荷量

地下水・土壌汚染の調査

国内花王グループ

花王は、過去の化学物質の使用履歴を踏まえ、毎年、各工場敷地内の地下水中の環境基準物質を測定しています。2014年は、和歌山工場、酒田工場、栃木工場、小田原事業場で自主調査を行ないました。その結果、いずれの測定項目も定量下限値未満であることを確認しました。

また、和歌山工場と川崎工場では、条例などに応じて事業活動に起因する土壌汚染調査を行ない、いずれの測定項目も定量下限値未満であることを確認しました。

環境に配慮した容器包装【EC2,EN1,EN27】

容器包装は、運搬時における中身の保護や品質の保持、使用時のさまざまな情報提供など、製品の一部としての重要な役割・機能を担っています。花王は“いっしょにeco”活動の一つとして、環境に配慮した容器包装の取り組みを推進しています。

方針／体制

花王では、より環境負荷の少ない容器包装をめざし、リデュース(削減)、リニューアブル(再生可能)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)の4Rの視点から技術開発に取り組んでいます。

リデュースでは、ボトルの薄肉化など徹底した軽量化を基本とし、製品の濃縮によるコンパクト化など、小型化による包装材料の使用量削減を進めています。

リニューアブルでは、ポリ乳酸やバイオポリエチレンなど再生可能な植物を原料とした素材を導入し、石油由来の樹脂からの転換を図っています。

リユースでは、ボトルなどの製品容器を繰り返してお使いいただけるよう、つめかえ・つけかえ用製品の開発を積極的に推進しています。

リサイクルでは、再生紙や再生樹脂等の再生材料の導入・活用を積極的に推進しています。

これらの取り組みは、包装容器開発研究所が中心となり、関連部門、外部サプライヤー等と協力して推進しています。

容器包装材料の削減

国内花王グループ

容器包装の材料削減は環境負荷低減と同時にコスト削減にもつながります。2014年の事例では、「アタック」などのつめかえ容器の段ボール材料削減によって約208トンのCO_2削減を実施しました。こうした環境負荷低減につながった容器包装材料のコスト削減事例は2014年全体で63件あり、CO_2削減量、コスト削減額はそれぞれ年間で約1,800トン、約2億円となっています。

2014年の容器包装材料使用量は、販売数量の増加とともに2013年から増加しています。

容器包装材料使用量の推移

(単位：トン)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
プラスチック	56,500	53,600	53,100	54,300	54,600	56,500
紙	21,300	19,300	17,900	17,400	16,000	14,700
段ボール	70,600	70,500	69,300	69,700	69,600	73,800
その他	2,300	2,000	2,000	1,900	4,300	3,900
合計	**150,700**	**145,400**	**142,300**	**143,300**	**144,500**	**148,900**

※ 集計範囲：花王(株)

Topics

軽量容器の採用
「フレグランスニュービーズジェル」

2014年1月、洗たく用洗剤「フレグランスニュービーズジェル」の本体容器を軽量化しました。1本当たりの樹脂量を約11%、ライフサイクルで生じるCO_2を約8%削減しました。また、人間工学に基づいた「手のひらFitボトル」を採用し、使い勝手の向上を図りました。

環境に配慮した容器包装【EC2,EN1,EN27】

つめかえ・つけかえ製品の推進

国内花王グループ

花王が最初のつめかえ用製品を発売したのは1991年のことですが、その品数は年々増え、2014年12月時点で226品目にのぼっています。さらに花王は、消費者がつめかえやすいように、ボトルの大きさや内容物の粘度などに合わせた、さまざまな改良を加えています。

つめかえ用製品の販売数量比率は1997年から急速に増え、現在ではほぼ80%強で推移しています（本数ベース）。たとえば柔軟仕上げ剤「フレア フレグランス」のつめかえ用の比率は93%です。2014年に販売されたつめかえ・つけかえ用製品が、すべて本体容器（プラスチック容器に入った製品）だった場合と比べると、7万トン強のプラスチック使用量を削減したことになります。

Topics 環境に配慮した「粉末洗剤つめかえ容器の開発」が、日本包装技術協会「第38回木下賞 研究開発部門」を受賞

環境に配慮した「粉末洗剤つめかえ容器の開発」により、公益社団法人日本包装技術協会の「第38回木下賞 研究開発部門」を受賞しました。

本パッケージは、袋ごと箱に入れてからその袋を開封するだけで、粉の飛び散りの心配もなく簡単に粉末衣料用洗剤をつめかえることができるまったく新しい製品です。このつめかえシステムの実現のため、袋に特殊な加工・コンバーティング技術を施したことにより、手で簡単にまっすぐ開封することができるようになり、誰もがストレスなく開封できる簡便性を付与することができました。さらに袋が箱の側面に密着する設計を実現。使い終わるまで、粉のすくいやすさは変わりません。環境への配慮についても、本体の箱と計量スプーンをリユースできるため、つめかえ用を使用すると、容器の廃棄物重量を約90%削減できます。

本システムのユニバーサル視点でのこれまでにないつめかえ方法と、環境への配慮が評価され、今回の受賞につながりました。

袋ごと箱につめかえられる「アタック 高活性バイオEX つめかえパック」（左）と実際につめかえた様子（右）

「九都県市ごみ減量いいね！キャンペーン」に参加

国内花王グループ

花王は2014年10月1日～31日、「九都県市ごみ減量いいね！キャンペーン」に参加しました。本キャンペーンは、9つの自治体（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市）が容器包装の減量化に取り組む企業（43社参加）を応援し、ごみの減量化を推進しようとする取り組みです。

花王は2010年より毎年「容器包装ダイエット宣言」を行ない、本キャンペーンに参加しています。キャンペーンでは、参加企業の一押し商品について、自治体がポスターやリーフレット、また小売店舗でのPR活動を通じ、消費者の皆さまに企業の取り組みや商品を紹介しました。2014年は、花王は前年に引き続き、環境にやさしい「アタック 高活性バイオEX つめかえパック」を紹介しました。

「アタック 高活性バイオEX つめかえパック」

製品ライフサイクルと環境負荷【EN1,EN2,EN3,EN30】

花王では製品のライフサイクル全体を通して資源をムダなく使用するとともに、さらなる省資源・省エネルギーを実現する技術を追求しています。

2014年事業活動と環境負荷

国内花王グループ

原材料購入

INPUT

- 原材料　982千t
- 容器包装材料※1　145千t
- 循環利用量　82千t

OUTPUT

- CO_2排出量★※4　1,949千t

開発・製造※2（総生産量1,665千t）

INPUT

- エネルギー使用量
  （原油換算）　208千kL
  （うち太陽光発電　64MWh）
- 水使用量　10,743千㎥

OUTPUT

- 温室効果ガス排出量★　415千t-CO_2e
- SO_X 排出量　18t
- NO_X 排出量　355t
- 化学物質排出量（PRTR法対象物質）　2t
- 排水量　8,689千㎥
- COD汚濁負荷量　45t
- 廃棄物等排出量　37千t
- 最終埋立処分量　46t

物流・販売※3（施設および営業車）

INPUT

- エネルギー使用量
  （原油換算）　18千kL
  （うち太陽光発電　427MWh）
- 水使用量　222千㎥

OUTPUT

- 温室効果ガス排出量★　40千t-CO_2e
- 排水量　222千㎥
- 廃棄物等排出量　24千t
- 最終埋立処分量　83t

物流（製品輸送）

INPUT

- 燃料（原油換算）　35千kL

OUTPUT

- CO_2排出量★　92千t
- SO_X 排出量　172t
- NO_X 排出量　592t

使用※4

INPUT

- 水使用量★　1,992百万㎥

OUTPUT

- CO_2排出量★　3,767千t
- 排水量　1,992百万㎥

廃棄

OUTPUT

- CO_2排出量★※4　1,071千t
- 容器包装排出量※1　73千t
  - プラスチック　55千t
  - 紙　14千t
  - 金属・ガラス　3千t

集計範囲
※1 花王(株)が対象
※2 全生産事業場が対象
※3 全非生産事業場(研修所、寮等を含む)が対象
※4 主に国内の消費者向け製品が対象

製品ライフサイクルと環境負荷 [EN1,EN2,EN3,EN30]

INPUT

●原材料
製品を製造するために直接使用した原材料の量
(ただし、容器包装材料、燃料などは除きます)

●容器包装材料
販売された製品に使用した容器包装の量(段ボールを含む)

●循環利用量
生産および研究活動により発生した廃棄物等のうち、花王の内部で再資源化している量

●エネルギー使用量[開発・製造]
生産事業場で使用したすべてのエネルギー量

●エネルギー使用量[物流・販売(施設および営業車)]
物流・販売部門における事務所などの施設および自動車(営業用)で使用したエネルギー量

●燃料[物流(製品輸送)]
消費者向け製品と工業用製品および原材料その他の輸送で使用したエネルギー量

●水使用量
工業用水、上水、井戸水、雨水の使用量

OUTPUT

●温室効果ガス排出量
事業活動で排出する温室効果ガス
(京都議定書で定められた6ガス)の量(CO_2換算値)

●SOx排出量
各ばい煙発生施設および輸送からの排出量

●NOx排出量
各ばい煙発生施設および輸送からの排出量

●化学物質排出量
PRTR法対象化学物質の大気および公共水域への排出量

●排水量
各生産事業場および物流・販売の事務所などからの排水量と主に国内の消費者向け製品の使用に伴い排出された量

●COD汚濁負荷量
排水中のCOD汚濁負荷量

●廃棄物等排出量、最終埋立処分量
各生産事業場および物流・販売の事務所などから発生した廃棄物等のうち、廃棄物、再資源化物として外部に処理委託あるいは売却した量および最終埋立処分量

●CO_2排出量
原材料の製造、エネルギーの使用と成分分解等に伴い排出した量

●容器包装排出量
販売された製品に使用した容器包装の量(段ボールは含まない)

環境会計【EN31】

花王は、環境への取り組みを効率的かつ効果的に推進するために、環境保全活動にかかる費用とその効果を数値化しています。

2014年の環境会計報告

国内花王グループ

❶ 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠しています。また、一般社団法人日本化学工業協会「化学企業のための環境会計ガイドライン(2003年11月)」も参考にしています。

❷ 集計範囲は、花王株式会社および国内子会社です。

環境保全コスト(事業活動に応じた分類)

(単位：百万円)

分類		主な取り組み内容	投資額	費用額※1
(1)事業エリア内コスト			1,101	4,005
内訳	①公害防止	大気汚染防止、水質汚濁防止	306	1,601
	②地球環境保全	省エネルギー	548	454
	③資源循環	省資源、廃棄物処理・処分	247	1,950
(2)上・下流コスト		環境対応製品生産設備、容器包装リサイクル	734	2,793
(3)管理活動コスト		ISO取得・維持、環境広報、事業場内緑化	7	1,049
(4)研究開発コスト		環境対応研究開発	1,248	4,517
(5)社会活動コスト		事業場外自然保護・緑化、支援金	0	136
(6)環境損傷コスト			0	0
合計			**3,090**	**12,500**

※1 費用額には減価償却費を含んでいます。

環境保全効果(物量効果)

効果の分類	環境パフォーマンス指標(単位)	2013年	2014年	増減
事業活動に投入する資源	エネルギー投入量(原油換算：千kL)	228	226	-2
	水資源投入量(百万㎥)	10.8	11.0	0.2
事業活動から排出する環境負荷、および廃棄物	温室効果ガス排出量(CO_2換算：千t-CO_2e)※2	434	455	21
	SOx排出量(t)	15	18	3
	NOx排出量(t)	370	355	-15
	排水量(百万㎥)	8.7	8.9	0.2
	COD汚濁負荷量(t)	46	45	-1
	廃棄物等の排出量(千t)	57	61	4
	廃棄物等の最終埋立処分量(千t)	0.2	0.1	-0.1
	PRTR法対象物質の大気への排出量(t)	1	2	1

※2 温室効果ガス排出量(CO_2換算)は、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver.3.5)平成26年6月環境省/経済産業省」に基づいて計算しています。

環境会計 【EN31】

環境保全対策に伴う経済効果※3

（単位：百万円）

効果の内容		金額
収益	有価物、固定資産の売却金額	302
費用節減※4	省エネルギーによる費用節減金額	299
	省資源による費用節減金額	1,436
	経費節減金額（環境対策設備の保守費用等）	144
合計		**2,181**

※3 経済効果は有価物および固定資産の売却金額と費用節減金額を計上し、リスク回避等の仮定に基づく経済効果、いわゆる"みなし効果"は計上していません。
※4 費用節減金額は、当該年度に発生した項目の1年間の節減額を当該年度のみ計上し、複数年度にわたって計上はしていません。

環境保全コスト（環境保全対策分野に応じた分類）

（単位：百万円）

分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
①地球温暖化対策に関するコスト	省エネルギー	548	454
②オゾン層保護対策に関するコスト	代替フロンへの切り替え	0	0
③大気環境保全に関するコスト	大気汚染防止、粉塵防止、悪臭防止	34	442
④騒音・振動対策に関するコスト	騒音防止	2	3
⑤水環境・土壌環境・地盤環境保全に関するコスト	水質汚濁防止	270	1,156
⑥廃棄物・リサイクル対策に関するコスト	省資源、産業廃棄物の減容化、リサイクル	981	4,743
⑦化学物質対策に関するコスト	製品・製造開発研究	1,248	4,517
⑧自然環境保全に関するコスト	事業場外自然保護・緑化、支援金	0	135
⑨その他コスト	ISO取得・維持、環境広報、事業場内緑化	7	1,050
合計		**3,090**	**12,500**

環境会計要約情報の直近3期間の推移表

	2012年	2013年	2014年
①環境保全コスト			
投資額（百万円）	3,627	3,708	3,090
費用額（百万円）	12,458	11,294	12,500
②環境保全効果に関する環境パフォーマンス指標			
エネルギー投入量（原油換算:千kL）	231	228	226
水資源投入量（百万㎥）	11.1	10.8	11.0
温室効果ガス排出量（CO_2換算:千t-CO_2e）	446	434	455
SOx排出量（t）	23	15	18
NOx排出量（t）	371	370	355
排水量（百万㎥）	8.9	8.7	8.9
COD汚濁負荷量（t）	50	46	45
廃棄物等の排出量（千t）	56	57	61
廃棄物等の最終埋立処分量（千t）	0.1	0.2	0.1
PRTR法対象物質の大気への排出量（t）	2	1	2
③環境保全対策に伴う経済効果			
実質的効果（百万円）	1,988	1,943	2,181

3つの重点領域ハイライト

エコロジー　コミュニティ　カルチャー

ステークホルダーと連携した環境活動

行政と連携した環境活動

水資源の不足が深刻な社会問題の一つである中国において、「1世帯1年間1万リットルの節水」を呼びかける「中国清潔・節水全国運動」を中国環境保護部と共同で2012年から実施しています。

中国政府と共同で節水キャンペーンを実施

海外花王グループ

近年、中国では水資源の不足が深刻な社会問題の一つとなっています。花王（中国）は、中国環境保護部宣伝教育センターと共催で「中国清潔・節水全国運動」を実施しました。この活動は、「1世帯1年間1万リットルの節水」をテーマに2012年から実施しているもので、2014年で3年目を迎えました。

2014年は、節水や水の大切さを紹介するイベントを3月に北京、4月に広州・上海の3都市で開催し、計約15万人のお客さまが来場しました。会場では、パネル展示や、水に関する知識を楽しく学ぶことができるゲーム、「花王国際こども環境絵画コンテスト」受賞作品の展示、花王が中国で販売している節水型衣料用洗剤の実演などを行ない、節水に関する知識を楽しく、またわかりやすく学んでいただきました。イベントは、学生ボランティアと社員ボランティアが協力して設営に当たりました。来場した参加者からは「家庭の中でも節水できることがたくさんあることがよくわかった。自分たちも節水のためにぜひ貢献したい」という声が多く聞かれました。

2015年は、新たな取り組みとして、3月中旬から4月下旬にかけて、中国国内の約50の大学でも節水の大切さを呼びかけるイベントを開催しました。また、各大学での活動成果を発表するイベントを5月に上海で実施しました。

Voice　イベントに参加することで、自らのモチベーションも向上

私は、「アタック」デモンストレーション担当として3年連続で参加しています。

このイベントは、単に花王製品を紹介するだけでなく、水の大切さを伝え、家庭でできる節水を紹介するもので、多くの方々に花王の環境の考え方や社会活動を知っていただく大切な機会でもあります。

親子で参加する方も多く、ブースでは親から子にわかりやすく伝える水の大切さや、子どもと一緒にできる節水なども紹介しています。

私自身、参加する前は知らなかったことが多くありましたが、この活動でさまざまなことを学び、日々の生活の中でも節水を心がけるようになりました。また、次の世代に水の大切さを知ってもらう取り組みとしても、非常に意味のある活動だと思います。

花王（中国）
研究開発センター
季 侃

環境コミュニケーション

ステークホルダーの皆さまとさまざまなコミュニケーションの機会を設け、いただいた声を経営に取り入れることで、環境活動のより一層の推進に取り組んでいます。

方針／体制

花王グループは、2013年に発表した「花王サステナビリティステートメント」の3つの重点領域のひとつに、「エコロジー」分野を定め、ステークホルダーと連携した環境活動を推進することで社会のサステナビリティの実現をめざすという企業姿勢を明確にしました。

また、これに先立つ2009年には、気候変動や資源の枯渇といった環境問題は、花王グループにとっても喫緊の課題ととらえ、ライフサイクル全般において環境負荷を低減させるとともに、サステナブルな原材料の探索など、将来に向けた環境方針や目標を明記した「花王 環境宣言」を発表しています。

こうした取り組みを推進していくためには、お客さま、ビジネスパートナー、社会と“いっしょにeco”に取り組むことが重要であると考えます。そのためには、花王製品をお使いいただくお客さまの一人ひとりに、こうした花王の環境に対する考え方や、環境に配慮した製品の特長についてもよく知っていただき、毎日の暮らしの中で無理なく“いっしょにeco”に取り組んでいただけるよう、さまざまな機会を通じて、情報提供に努めるなど、さまざまなステークホルダーの皆さまとのコミュニケーション活動を継続的に推進しています。

グループ会社や各工場が環境・安全サイトレポートを発行

グローバル

花王は、各工場の環境保全活動や安全活動をより多くの方々にご理解いただき、皆さまの声を今後の活動に活かしていくためのコミュニケーションツールとして、2005年からグループ会社や工場ごとに「環境・安全サイトレポート」を発行しています。

2014年は、国内の花王グループ7工場が作成し、近隣地域の皆さまや工場見学の方々に配付しました。

また海外では過去に、欧州花王化学、花王（中国）、花王スペシャルティーズアメリカズが独自にCSRレポートやサステナビリティレポートを発行しています。

国内花王グループ工場の環境・安全サイトレポート

環境コミュニケーション

花王エコラボミュージアム 展示内容を更新

国内花王グループ

花王エコラボミュージアムは「“いっしょにeco”を知り、体験できるエコ技術情報の発信基地」として、和歌山のエコテクノロジーリサーチセンター(ETRC)の1階に2011年7月に開館、2014年末までの累計で5万人を超えるお客さまをお迎えしています。

ここでは、一般および社会科見学を対象とした展示のほか、花王の先進的な環境技術研究の様子をお伝えしており、2014年10月にはETRCで進めているバイオマスの高度利用に関する展示(藻類とセルロース)を始めました。

またケミカルコーナーでは、これまでエコに貢献するケミカル素材を中心に展示してきましたが、より幅広いお客さまに最新の技術を紹介する内容に更新しました。たとえば、コーナー入口では、大画面のスクリーンでエコ技術研究の概要と実験室の様子を紹介しています。実際の実験風景を見ていただくことで、設置されている展示物が人の手で開発されていることをより具体的にお伝えしています。展示品の説明パネルは、研究の本質を伝えることをめざして、研究員が自ら作成したもので、お客さまにわかりやすい説明にしています。

さらに2014年11月4日、第4回「花王“いっしょにeco”」フォーラムを「『変わりつつある地球』への対応」というテーマで開催しました。幅広い分野の専門家の方々をお招きし、サステナブルな未来の実現に向けた情報交換を行なうとともに、ミュージアム・和歌山工場もご見学いただきました。

エコ技術研究の映像をご覧になる来館者

「エコプロダクツ 2014」に出展

国内花王グループ

2014年12月11日～13日の3日間、東京ビッグサイトで開催された環境展示会「エコプロダクツ2014」に出展しました。期間中は多くの来場者でにぎわい、花王のブースには1万6,000人を超えるお客さまにご来場いただきました。

今回の展示会のテーマは「見つけよう!未来を変えるエコの知恵」で、花王のブースではパネル展示とデモステージを交え、花王のエコロジーに対する考え方やエコ製品をわかりやすく紹介しました。

パネルを使った展示コーナーでは、花王が取り組んでいる持続可能な原材料調達の考え方やバイオマス資源の高度利用研究、すすぎ性アップにより約20%の節水を実現した「新キュキュット」の紹介、リデュース(削減)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)といった従来の3Rに、リニューアブル(再生可能)を加えた「4R」による容器包装に関する活動を紹介しました。産業分野向け製品(ケミカル)については、コピー機の消費電力を減らす「低温定着トナー」や、低燃費タイヤの性能を向上させる「高機能タイヤ用ゴム材料」などをご紹介しました。

ブース内に設けた参加型ステージでは、原材料調達に関する花王の考え方をご紹介する「原材料のこだわり〈バイオマス資源の利用〉」、界面活性剤の作用や食器洗い時の工夫をご紹介する「新キュキュットの汚れ落ちeco教室」、つめかえ製品の特長をわかりやすくご紹介する「おうちで簡単!つめかえeco教室」、社会の中で役立っているエコケミカル製品をご紹介する「環境にやさしいコンクリート工事〈マイテイ&ビスコトップのパワー〉」を来場者の皆さんに体験していただきました。

来場者でにぎわう花王のブース

環境コミュニケーション

「ESDユネスコ世界会議 交流フェスタ」に出展

国内花王グループ

花王製品の販売会社である花王カスタマーマーケティング(花王CMK)では、日本全国にある拠点を通じて、お客さまと接点の多い各地の販売店や地域・行政の皆さんと一緒に、店頭や行政環境イベントの中で「節水・節電・ごみ削減」を訴えています。

2014年は、約200件のイベントでおよそ9万人のお客さまに家庭でできるエコを促進するご提案を行なってきました。

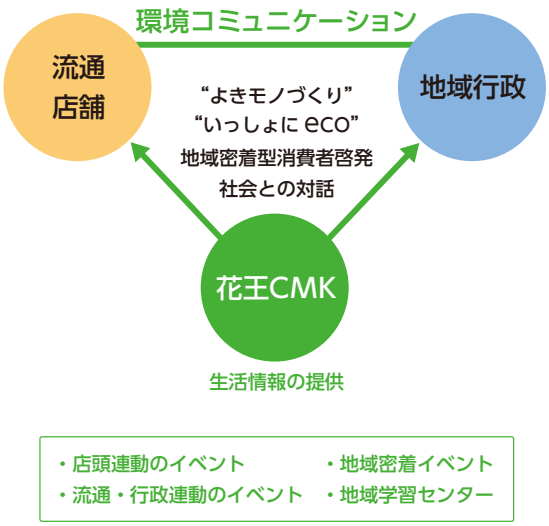
2014年11月に名古屋で開催された「ESD※ユネスコ世界会議」の一環として行なわれた、愛知県主催の「あいち・なごやESD交流フェスタ」では、花王製品を通じて持続可能な社会を皆さんと一緒に考えました。

環境をテーマに、花王製品を使ってできる節水・節電を紹介し、参加者には「ウルトラアタックNeo」のサンプルを、お子さまには「いっしょにeco日記」をお配りし、環境啓発を実施しました。身近にできる節水・節電を具体的にお伝えすると多くの来場客が驚かれ、また熱心に耳を傾けていただけました。

今後も、持続可能な社会に向けて、販売店・行政と連携し“いっしょにeco”活動を推進していきます。

※ ESD (Education for Sustainable Development)
持続可能な開発のための教育。環境・貧困・人権など、現代社会のさまざまな問題を自らの問題ととらえ、課題解決に向けて持続可能な社会を考え、創造していくことをめざす活動

販売店・行政と連携した環境コミュニケーション



家庭でできる“いっしょにeco”についてご紹介

「第5回花王国際こども環境絵画コンテスト」を開催

グローバル

“いっしょにeco”をテーマにした「第5回花王国際こども環境絵画コンテスト」を開催しました。日本およびアジア地域のグループ会社7社が学校や小中学生に広く応募を呼びかけたところ、世界30カ国・地域の小中学生から、昨年を上回る8,753点(国内2,032点、海外6,721点)の作品応募がありました。

「エコプロダクツ2014」会場の花王ブースにて受賞作品の展示および上位7名の表彰式を行ないました。表彰式後のインタビューで、受賞した子どもたちは受賞の感想や作品を通じて伝えたいこと、絵を描くうえで工夫したところ、将来の夢などについて語ってくれました。

また、海外を含む各事業場や環境イベント会場、工場見学ルートなどで作品の展示を行ない、多くの方々に作品をご覧いただいています。

受賞者の皆さん、審査委員長の益田先生(右)、社長の澤田(左)と記念撮影

➡詳細は「第5回花王国際こども環境絵画コンテスト」受賞作品・審査会・表彰式
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_04_07.html

環境コミュニケーション

Topics 【いっしょにeco 地球大賞】森川ふうり さんが作品に込めた思い

ひとつずつでも楽しんでエコできることをみんなでやってほしいなぁと、思って描きました。森の中で動物たちが、電気やガスを使わなくても、楽しくおふろに入っています。ロウソクで明かりをつけたり、おふろの水を、洗たくや、お花の水やりに使ったりしています。シャワーをしているうさぎは、とても気持ちよさそうです。描くのが難しかったのは、鳥が川から水を運んでくるところでした。

「いっしょにエコ」
森川 ふうり さん（6歳　日本）の作品

各国で「花王国際こども環境絵画コンテスト」入賞者を招いて表彰式を開催

海外花王グループ

応募を呼びかけている花王グループ各社では、絵画コンテストを通じた地域の子どもたちとの交流活動を行なっています。

その中で、花王インドネシア、花王タイランドでは第5回絵画コンテスト応募者の中から、自国内の優秀者を招待し、表彰式や展示会を行ないました。

花王インドネシアでは、積極的な募集活動の成果として3,190点と大変多くの作品応募がありました。環境について考え絵で表現してくれた子どもたちに感謝の意を表するとともに、日常生活での実践をお願いするために、2015年2月14日、ジャカルタで表彰セレモニーを開催しました。当日は受賞を喜ぶ子どもたちとその晴れ姿を撮影するご家族で、終始和やかな雰囲気に包まれていました。

花王タイからも611点と、多くの作品応募がありました。2015年3月21日、入賞した子どもたちと家族・関係者をバンコクにあるLumpini公園に招待し式典を行ないました。また、多くの人々にも環境について考え絵で表現してくれた絵画コンテストの優れた作品を楽しんでもらうために、同公園で作品展を行ないました。

緑豊かな公園に展示された作品は、招待者に喜んでもらえただけでなく、公園を訪れた多くの市民にも心豊かなひとときを与えてくれました。

インドネシアの受賞者の皆さん

タイの公園での受賞式と作品展

環境コミュニケーション

「食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会」が、東北大学でダイアログを開催

国内花王グループ

花王（株）は、よりサステナブル（持続可能）なライフスタイルの実現に貢献するために、2011年から味の素（株）、環境CSRコンサルティングの（株）イースクエアと「食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会」を立ち上げ、さまざまな活動に取り組んでいます。

2014年は、東北大学大学院環境科学研究科において「エコで心豊かな“意気”な暮らしを考えよう!」と題した意見交換会を開催し、宮城県を中心とした東北エリアから、14名の皆さまにご参加いただきました。

会場となった東北大学大学院環境科学研究科の石田秀輝教授から、講演と研究施設の見学を通じて未来のライフスタイルを描く手順や技術を学んだあと、環境の制約が厳しくなった2030年を想定し、どんな発想や工夫が毎日をエコで楽しい充実したものにできるか、全員でディスカッションをしました。

参加者の皆さまからは、「今回の気づきや工夫を、毎日の暮らしの中で実践したい」「家に帰って、家族にも話したい」などの声とともに、企業への期待の言葉をいただきました。

石田先生からさまざまなエコアイデアを形にした展示物の説明を聞く参加者の皆さま

第9回エコプロダクツ国際展2014に出展

グローバル

2014年3月13日～16日の4日間、台湾の台北世界貿易センターで開催された国際環境展示会「第9回エコプロダクツ国際展2014」に花王（台湾）が出展しました。台湾の政府関係者をはじめ、多くのビジネス関係者や環境に関心のある一般のお客さまにご来場いただきました。

花王ブースでは、パネルや映像による花王グループと創立50周年を迎えた花王（台湾）のご紹介、また台湾で発売している環境配慮製品をエコ視点からご紹介しました。

コンシューマープロダクツでは、箱に再生紙を90%以上使用した「粉末アタック」、プラスチック量を大きく削減した「液体アタック」「ビオレ」「エッセンシャル」のつめかえ製品、またエコデザインによる最新「メリーズ」をご紹介しました。ケミカルプロダクツでは、「クリーンスルー700シリーズ」をはじめ、高性能な精密電子部品用洗浄剤をご紹介しました。

来場者でにぎわう花王（台湾）のブース

3つの重点領域ハイライト

エコロジー　**コミュニティ**　カルチャー

事業を通じたコミュニティへの積極的な関わり

各国で小中学校等と連携した初経教育活動を実施

花王は生理用品「ロリエ」を発売した1978年より、初経を迎えるお子さまとその保護者、小中学校に対して、初経教育に関わるさまざまなサポートをしています。

日本やアジアでの初経教育の取り組み

グローバル

日本での取り組み

日本では「ロリエ」発売以来、30年以上にわたって初経教育の支援活動を行なっています。活動は主に①初経教育セットの配布、②情報サイトの運営、③初経教育講演会の実施 の3つです。

タイでの取り組み

タイでは、1997年から現地の女子校を中心に初経教育を実施しています。現在までに参加者は100万人に達しています。冊子やビデオ、ゲーム等を通じて、月経のメカニズムや月経期の過ごし方についての情報を提供しています。参加者からは「よい活動だと思います」「情報が役に立ちました」等の声が寄せられています。

インドネシアでの取り組み

インドネシアでは、地方自治体による初経教育は一部の私立学校でしか行なわれていません。そこで、花王インドネシアではNPOなどと協力し、2000年から現地の中学2年生を対象に初経教育を行なっています。紙芝居を使って月経のしくみを説明したり、初経教育パンフレット・月経カレンダーなどを提供しています。2014年は2,200校で実施し、23万人が参加しました。

2014年 アジア各国・地域での活動

インドネシア	中学校2,200校、23万人の生徒への初経教育
タイ	中学校150校、4万5,000人の生徒への初経教育
マレーシア	中学校547校、20万2,000人の生徒への初経教育
台湾	小学校で3万6,800人の生徒への初経教育
香港	他社デリケートゾーン洗浄剤と協働し、小中学校で5万人への初経教育

日本での主な支援活動

❶ 初経教育セットの配布

毎年春に啓発用小冊子や生理用品のサンプルが入った「ロリエ初経教育セット」を全国の小学校へ無償配布しています。2014年は6,000校以上に配布しました。初経教育の教材・生理用品の学習用として活用されており、養護教諭からは「指導に役立っている」「児童が喜んで興味深く学習している」といった声をいただいています。

ロリエ初経教育セット

❷ 情報サイトの運営

小中学生向けに初経や思春期のからだについての情報を掲載したウェブサイト「花王 ロリエ からだのノート おとなになるということ」を運営しています。人気の「おしゃべりクラブ」では定期的にテーマを設け、小中学生から寄せられた疑問や体験談などを掲載、花王からのコメントも添えています。

ウェブサイト「花王 ロリエ からだのノート おとなになるということ」

❸ 初経教育講演会の実施

栃木事業場では、毎年夏に地域の親子向けセミナーを開催しており、その中の一つとして専門家を招いての「初経教育講演会」を実施しています。

3つの重点領域ハイライト コミュニティ

ケミカルサプライチェーン全体での情報共有サポート

化学物質管理に関する法規制に対応し、関連団体や販売代理店と共同でサプライチェーン全体における化学物質情報の共有に向けた取り組みを行なっています。

サプライチェーンにおける製品含有化学物質管理

グローバル

花王は取引先の皆さまと化学物質情報について効率的なコミュニケーションに努めています。

近年、電気電子機器や自動車等の成形品製造会社での化学物質管理を求める法規制がグローバルで強化されており、これらの法規制に効率的に対応するためにサプライチェーン上の各社が集まり、アーティクルマネジメント協議会（JAMP）が2006年に設立されました。

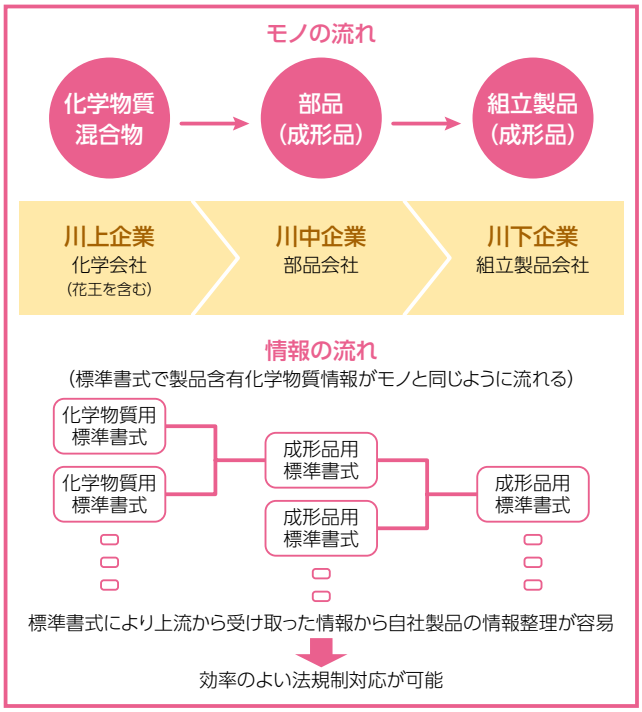
花王はJAMPの設立メンバーとして、ケミカル製品についてMSDSplus（化学物質の情報伝達標準書式）による含有化学物質の情報提供を積極的に進めています。同時に、ケミカル製品関連部門で製品含有化学物質管理組織を立ち上げ、サプライチェーンでの化学物質管理向上に向けた活動を継続しています。

2014年も、改訂版MSDSplusを年2回発行・配布・公開すると同時に、購入原料についても、サプライヤーから継続的に最新版MSDSplusを入手しました。

今後も、サプライチェーンにおける化学物質管理の向上・普及に向けて、引き続き社内外の関連部門・関連団体と協力した積極的な活動に取り組んでいきます。

Web 花王ケミカル製品情報
http://chemical.kao.com/jp/

サプライチェーンにおける製品含有化学物質管理



顧客企業・代理店との連携

グローバル

国内外の化学物質関連法規制の新規公布や改正に伴い、化学物質管理におけるサプライチェーンでの情報伝達が必須となり、また輸出入時の法令の遵守や震災等の災害時における情報の共有と顧客との納入調整対応など、花王の販売代理店の役割はますます拡大し、重要になってきています。

花王では、ケミカル事業における主要な販売代理店と、ケミカル製品に関係する国内外の各種法規制の最新動向や環境・安全の取り組みなどの情報交換会を毎年開催しています。

また、花王のケミカル製品の品質・安全性を理解し、顧客企業に継続的に協力していただくために、販売代理店の新人を対象に、2年に一度「代理店新人研修会」を開催しており、毎回、60名を超える方々に参加していただいています。

これらの活動を通じて、顧客企業や販売代理店との緊密なコミュニケーションを推進しています。

2013年代理店新人研修会の様子

品質保証の取り組み【PR1】

消費者・顧客起点の“よきモノづくり”の精神に基づき、消費者・顧客と感動を共有できる商品をご提供するために、開発から生産、物流、販売までのすべての段階において、基準やルールを厳格に定め、品質を保証しています。

方針／体制

花王の品質保証活動の基本は、「花王ウェイ」にある消費者・顧客起点の心を込めた“よきモノづくり”です。創業以来、これを拠り所とし、研究から商品開発、生産、物流、販売に至るすべての段階で、基本方針の実現を目標に社員全員参加による品質保証活動を行なっています。

➡詳細は「品質保証活動の基本方針」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/safety_00.html

品質保証活動の基本方針

- 品質を評価するのは「消費者・顧客」
- 「使い続けていただける」商品の提供
- 「安心して使える」商品づくり
- 「法規制の遵守」
- 「透明性の高い」企業活動と説明責任

花王は、全社的な品質保証体制の信頼性と有効性を確認するために、品質保証委員会を開催しています。品質保証委員会は「内部統制委員会」を構成する委員会のひとつで、品質保証本部の担当役員を委員長として、事業部門、消費者部門、研究、生産、購買などの関係各部門から選任された品質保証委員が参加し、品質にかかわる全社的な重要方針・施策を決定します。

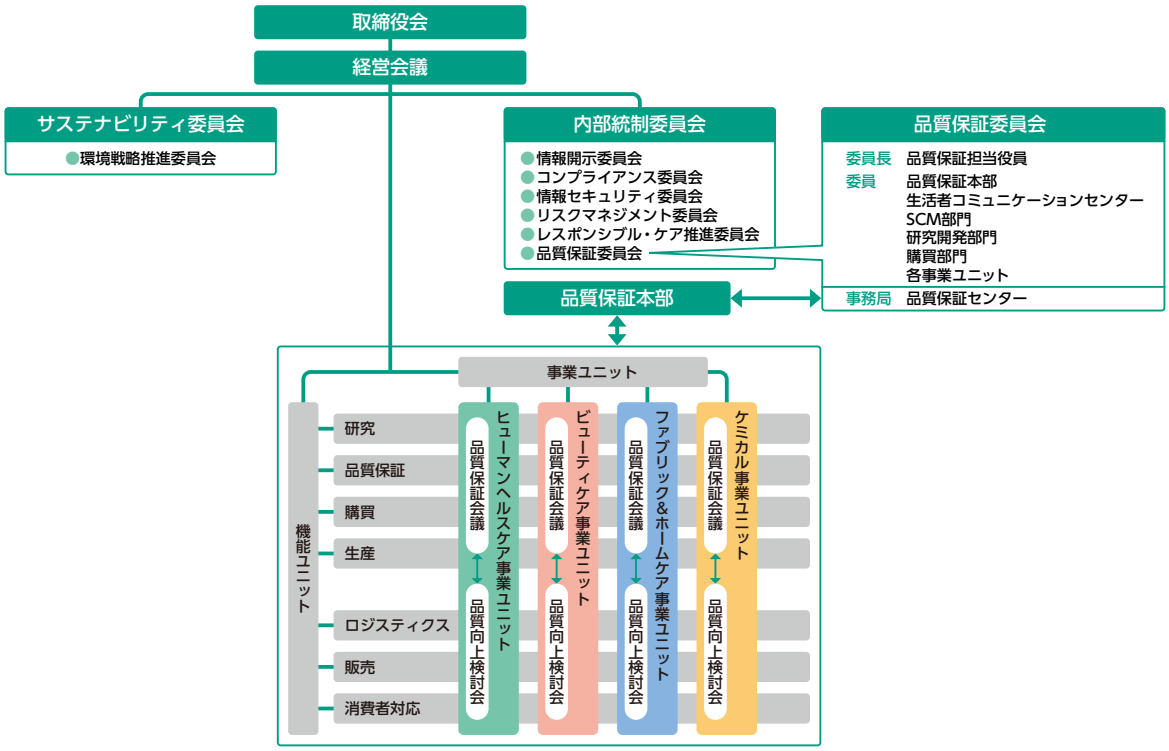
品質保証委員会の方針を受けて事業単位で、「品質保証会議」を開催して、各事業ユニットの品質保証方針や品質課題、品質保証活動の進捗などを確認しています。

さらに毎月の活動として各事業ユニットごとに「品質向上検討会」を開催し、発売前の新製品や改良品の品質確認や発売後の品質向上について検討し実行しています。

なお、どの会議にも事業ユニットとコーポレート部門が参加し、事業・コーポレートの双方の視点から議論するマトリックス運営を推進しています。品質保証本部がこれらの品質保証活動全体の推進と統括をしています。

花王は、日々“よきモノづくり”に努めていますが、予期せぬ事故やトラブル、事件性のある品質問題が発生する可能性はあります。そうした事態に備えて、消費者、外部機関・団体、流通からの情報は生活者コミュニケーションセンターに集約され、消費者視点で緊急性・重大性の可能性がある場合にはすぐに品質保証本部に連絡されます。品質保証本部では、危害性と拡大性を迅速に判断し、緊急・重大品質トラブルは、経営トップ、社内関連部門に連絡する緊急・重大トラブル対応体制を構築しています。さらに、メーカーとしての社会的責任と品質責任、説明責任を明確かつ迅速に果たせるよう社内関連部門だけでなく、行政や関連機関、流通との連携も含めた体制の確立にも努めています。

品質保証体制



品質保証の取り組み [PR1]

全社品質保証活動の取り組み

グローバル

花王は、「品質を評価するのは消費者・顧客である」という消費者起点の考えを基本とする「品質保証活動の基本方針」を定め、品質保証本部が品質保証体制を統括しています。また、研究から製品開発、生産、物流、販売、お客さまの使用、保管、廃棄に至る各段階で厳しい基準を定めて、製品サイクル全体を通じた品質保証活動を推進しています。

2014年は、持続的な「利益ある成長」と「社会のサステナビリティへの貢献」の両立、およびK15(中期3カ年計画)目標達成に向けて、花王グループの品質保証重要施策の策定およびトータル・クオリティ・マネジメント(TQM)の統括・推進に取り組みました。また、花王グループの化粧品の開発段階および発売後の安全性基準を見直し、公表、推進しました。さらに、花王とカネボウ化粧品の研究開発部門および生産技術部門の統合における薬事・品質保証対応を実施するとともに、両社の商品開発プロセスにおける品質確認体制の統合に取り組みました。

欧米家庭品事業においても、お客さまが商品を店頭において選び、ご家庭に持ち帰って使用または保管し、廃棄するまでの各段階を具体的に想定し、品質の評価を行なう総合品質評価(TPQE)を導入し、潜在的な品質トラブルの抽出並びに予防を進めています。

安全性の評価と保証体制

国内花王グループ

花王は、より豊かな生活文化の創造をめざし、最先端の技術開発により、高い商品価値の創造に取り組んでいます。その実現においては、花王が提供するすべての製品の安全性確保は何よりも重要な社会的責務と考えています。花王グループの製品をお客さまにより安心してお使いいただくために、2014年4月には、安全基準を見直し、さらに拡充された花王グループの新たな安全基準を策定し、ウェブサイトに掲載しています。

➡詳細は「家庭品の安全基準」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/safety_06.html
➡詳細は「化粧品の安全基準」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/safety_03.html

花王は、これからも、安全性情報、動物実験代替法、ヒトでの最終確認を基本として安全性を保証し、製品のヒトに対する安全性、環境への影響について厳格に管理基準を見直していきます。

また、製品の成分・特性、用法、注意表示、広告表現については、これまでのように安全にお使いいただけるように責任を持って確認します。新しい用途など新規性の高いものは、品質保証部門、消費者部門、安全性を含む研究開発部門等が連携し、お客さまの商品選びや使用実態だけでなく、環境や生活習慣、国や人種などの社会的な視点も入れて評価します。

発売後においても、お客さまからの声に真摯に耳を傾け、詳しい内容を確認して迅速な対応に努め、常に詳細に安全性を点検し、医療関係者や行政などのネットワークとも連携し、安全管理を行ないます。特に2014年4月1日から化粧品・医薬部外品の副作用報告制度が強化されました。花王グループでは、市販後安全管理体制のさらなる整備・強化を行ない適切に対応できるように万全を尽くしています。

動物実験を代替する安全性評価方法の確立

グローバル

動物実験の廃止に向けた動きは世界的なものであり、花王はこの考え方に賛同しており、すでに1980年代後半から、動物実験代替法の技術開発に積極的に取り組んでいます。化粧品の研究開発(R&D)を行なう花王株式会社とカネボウ化粧品は、動物実験代替法を活用するとともに、さらに技術を進展させる研究を行なっています。

具体的には、皮膚感作性試験については、株式会社資生堂と共同で開発した細胞を用いる試験法(h-CLAT)の検証研究が欧州の代替検証センターで2009年に開始され、2012年に終了、2014年12月現在、OECDテストガイドライン化に向けた最終の国際審査中です。また、h-CLATでは適用が困難な難水溶性物質を評価可能な、培養ヒト皮膚モデルを用いた新規試験法(EpiSensA)を開発し、有用性を確認しました。今後、EpiSensAの検証研究やガイドライン化をめざす予定です。また、細胞を用いた眼刺激性試験(STE試験:短期間曝露試験)に関しては、2013年、OECDテストガイドライン化に向けた最終の国際審査が終了し、2015年にOECDテストガイドラインとして承認される予定です。そのほかにも、欧州化粧品工業会(Cosmetics Europe※)が推進する動物実験代替法のプロジェクトにも参加し、推進メンバーとして重要な役割を果たしています。

動物実験代替法はグローバルに使用できる公的な試験法であるべきと考え、国際的な試験法ガイドライン化に向け、今後も国内外の業界団体、同業他社等とも共同し、代替法の技術開発の進展をめざし、グローバルな取り組みを積極的に進めていきます。

※Cosmetics Europe(欧州化粧品工業会。The European Cosmetic Toiletry and Perfumery Association)
1962年設立。16社以上の企業と25カ国以上の団体が加盟。

品質保証の取り組み【PR1】

消費者起点の品質保証活動

グローバル

2013年より、日本国内だけでなく、アジア・欧米家庭品事業やケミカル事業においても、消費者・顧客からいただいた声をグローバルに一元管理できるグローバルエコーの導入を進めています。同時に、品質改善に向けた全社品質保証活動を推進するため、そのグローバルなデータを整理、解析できるグローバルデータ解析システム(*QMMplus*)を導入、運用開始し、国内外の関係会社と連携して消費者・顧客へのスピーディな対応を強化しています。

➡P57「コミュニティ>お客さま(消費者)とのコミュニケーション」

品質保証監査／自己点検を実施

グローバル

品質保証本部では、花王グループの品質保証にかかわる監査活動を把握するとともに、品質保証監査／自己点検を実施しています。

2014年は、薬事法にかかわる製造業・販売業の許可更新や製造業の監視に伴う各都道府県からの査察を受け、更新の審査結果を受けました。

また、国内のほかアジアや欧米のグループ会社も、ISO9001の認証機関の監査を受け、認証を維持するとともに、外部監査・内部監査、委託製造先や原材料メーカーに対する監査、品質会議を行なっています。

食品事業における品質管理の徹底

国内花王グループ

花王の機能性食品は、おいしく、より健康な生活習慣に貢献するために、脂質栄養代謝などの研究から生まれました。これらの製品がお客さまの健康に貢献できるよう、以下のような品質保証活動に取り組んでいます。

❶ 製品の安全性・有効性の評価については、社内のみならず、社外の専門家との共同研究も含め、発売後も継続的に行なっています。

❷ 原料から製造に至る品質管理の徹底、海外で調達する基原原料※1から製品の出荷先までのトレーサビリティ※2を確保しています。

❸ おいしく召し上がっていただくために、原料の賞味期限管理も含め、生産・物流段階での鮮度管理に注力し、製造後一定期間を経過したものは出荷できないシステムになっています。

特定保健用食品ヘルシアシリーズについては、2011年から実施中の原料茶葉の放射線検査に加えて、2012年から食品衛生法の新基準値に対応した管理基準を策定し、放射性物質検査を実施しています。

※「エコナ」に関しての詳細はこちらをご覧ください。
➡「エコナに関するご報告」
http://www.kao.co.jp/econa/

※1 基原原料
第一次農畜水産品そのものを指す。たとえば、食用油における大豆など。
※2 トレーサビリティ
製品や原料などの基原、使用、製造履歴、所在などを記録して把握すること。

食品原料の原産地やアレルギー情報などをウェブサイトで開示

国内花王グループ

花王は、食品の安全性に関する情報を積極的に発信しています。ウェブサイトでは、製品ごとに「成分情報」として原材料名や成分分析、アレルギー物質などを開示。消費者からのお問い合わせに対しては、代表的な原料や基原原料の原産地情報をすぐにお答えできるようにしています。特にご質問の多い原産地情報は、ウェブサイトでも公開しています。

ユニバーサルデザインの取り組み

多様な消費者に配慮し、誰にでも使いやすい「人にやさしいモノづくり」を推進すると同時に、製品を通じて人と人、人と社会をつなぐことができる「人や社会とつながるモノづくり」をめざしています。また、消費者の多様性に配慮した情報発信にも努めています。

方針／体制

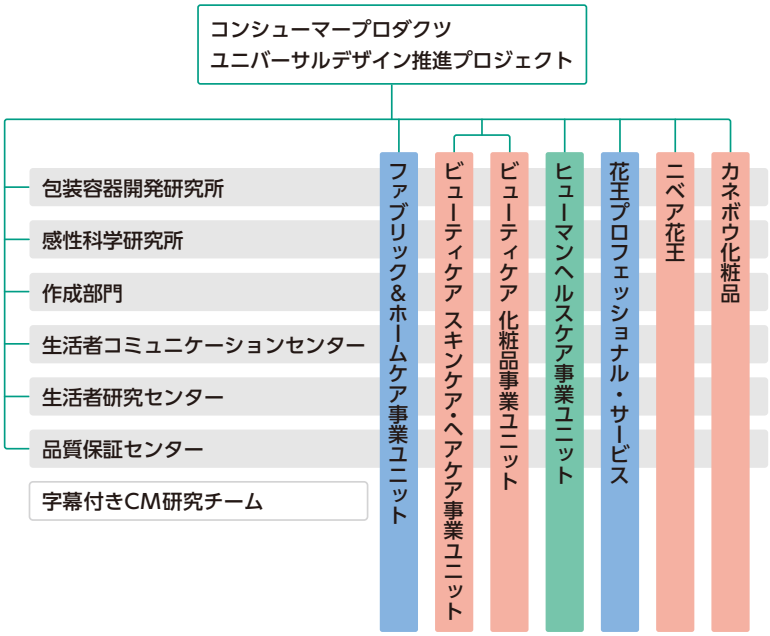
花王の“よきモノづくり”の基本は消費者起点であり、商品の基本性能だけでなく、常に「誰にでも使いやすい」製品をお届けすることを考えて事業を行なってきました。近年、高齢化や男性の家事・育児参加など、人口構成や生活スタイルの変化により、花王が提供する日用品・消費財を利用される消費者像も多様化しています。また、日本だけでなく、グローバルにビジネスを展開していくうえで、多様な価値観や文化を持つ世界各国の人々に対して「誰にでも使いやすい」製品の提供は非常に重要であると考えています。このようなユニバーサルデザイン(UD)の思想を社内で共有・浸透させるため、全社員が共有すべき花王UD指針を策定しています。

関連部門の担当者で構成されるUD推進プロジェクトを中心に、UD視点で花王の製品が抱えている課題や、それに対する取り組み状況を各部門間で共有し、ガイドラインを策定するなど部門横断的に活動しています。

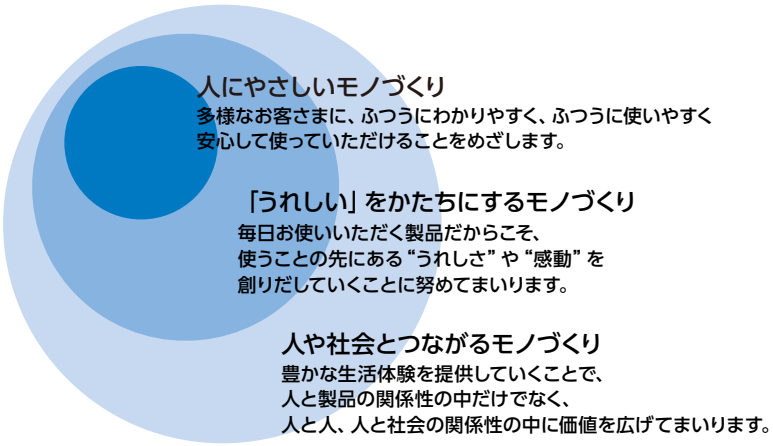
新製品や改良品を発売する際は花王UD指針に基づき、UD視点での改善を加えていくよう取り組んでいます。

➡P9「非財務ハイライト>UD視点での改良品累積数および改良実施率(国内消費者向け製品)」

ユニバーサルデザイン推進プロジェクトの体制



花王ユニバーサルデザイン指針



ユニバーサルデザインの取り組み

Topics 高齢者体験ワークショップの実施

花王ユニバーサルデザイン指針では、消費者の多様性に配慮して「接しやすさ」「安全」「使いやすさ」などの視点から、人にやさしく、うれしいと感じていただけるモノづくりを推進しています。また同時に、人や社会との関係性に着目し、人と人、人と社会をつなぐことができるモノづくりを通じて、すべての人々に豊かな暮らしを実感していただく、ソーシャルインクルージョンをめざしています。

このようなUDの推進活動において、さらに新しい改善の視点を得る目的で、高齢者体験ワークショップを実施しています。これは戸建住宅のスタジオを借りて、毎回10名程度の社員が要介護1※相当の疑似体験装具をつけて家事などの日常生活を行なうものです。

半日の家庭生活を通じて、体に不自由さを感じ始めた高齢者に共感し、参加者が持ち込んだ商品を実際に使用してみることで、商品の単独使用では気づかなかった使い勝手や表示の課題に気づかされます。ここでの気づきがまた新たなUD視点での改善につながっていきます。2014年は16回のワークショップを実施し177名の社員が参加しました。

※ 要介護1
要支援状態（日常生活上の基本的動作については、ほぼ自分で行なうことが可能であるが、日常生活動作の介助や現在の状態の防止により要介護状態となることの予防に資するよう手段的日常生活動作について何らかの支援を要する状態）から、手段的日常生活動作を行なう能力がさらに低下し、部分的な介護が必要となる状態

Topics がん治療中の患者さん向けイベントへの参加

国立がん研究センターでは、患者さんの「不便さ調査」をもとに、がん患者さんやそのご家族・ご友人、がん医療に携わる医療者などに向けて、「がん患者さんの暮らしが広がるアイデア展」を2012年より毎年開催しており、花王は3年連続で協賛しています。

イベントではがん患者さんが感じている生活の不便さ※を解消し、また軽減するような工夫や身近な製品の紹介、セミナーなどを行なっています。日々患者さんと向き合っている看護師さんの「普通のもの、身近で手に入れやすいものでも、役に立つものがあり、患者さんに紹介したい」という思いを受けて、花王はがん治療中の患者さんに少しでもお役に立てる商品として、敏感肌用のスキンケア製品や、軽失禁用のパッドなどの排泄ケア用品、ホコリを巻き上げずに軽い力で掃除ができる「クイックルワイパー」などを紹介しています。また肌や顔色がさえず、ふさぎがちな気持ちを少しでも上向きにしていただけるよう、お化粧のアドバイスも行なっています。

イベントに参加した花王社員と、「装う」ブースの看護師の皆さん

※ 日本人が生涯でがんに罹患する確率は男性62%、女性46%となっており（がん対策情報センター発表）、がんは誰もが罹りうる身近な病気です。通院で治療が行なえるようになった一方、日常生活でさまざまな不便さが生じています。

ユニバーサルデザインの取り組み

お客さまからの声をフィードバックし、製品改良につなげた事例

国内花王グループ

事例1 泡ハンドソープ容器

「ビオレu 泡ハンドソープ」の容器をさらに使いやすく改良しました。手のひらによりフィットするようにポンプヘッドを大きくして押しやすさを向上させました。また、容器の重心を下げて使用時にボトルが倒れにくくしました。つめかえ用の容器も表示面積を広くして大きな文字で読みやすくなりました。

実際に使われたお客さまからは、「ポンプ部が大きくとても押しやすくなった。いままでは固く押しにくそうだったが新しくなり孫たちもとても快適に使用している。私もそうだが高齢世代にとっても子どもにとっても便利で良い」との好評の声をいただいています。

旧パッケージ

新パッケージ

ポンプヘッドが大きくなりより押しやすい形状に

重心が下がりボトルが転倒しにくい

旧パッケージ

新パッケージ

表示面積が広がり文字が大きくなり読みやすい

事例2 食器洗い乾燥機専用液体洗剤容器

従来の食洗機用液体洗剤は、調理用のスプーンで計量する使い方でした。新しい食洗機用「キュキュット ワンプッシュクリアジェル」は、容器裏側のプッシュボタンを軽く一押しするだけで、1回分を適量投入できます。ぬれた手でも簡単に使え、片手で扱うことができ、右利き、左利きどちらの方にも同じようにお使いいただけます。また大口径でつめかえがしやすくなっています。「形がスマートなので置き場にすっきり収まる。粉のようにこぼすことがなく、液だれもしないし使いやすい」と好評の意見をいただいています。

片手で扱えるボトル

ボトル背面のプッシュボタン

事例3 衣料用漂白剤つめかえ容器

衣料用液体洗剤や柔軟剤のつめかえ用パウチは、本体ボトルの口元からそそぎ口がずれないようフック式のそそぎ口を採用しています。改良されたものはとても使いやすいと好評の意見をいただいていますが、正しくお使いいただけていないお客さまの声も届いています。

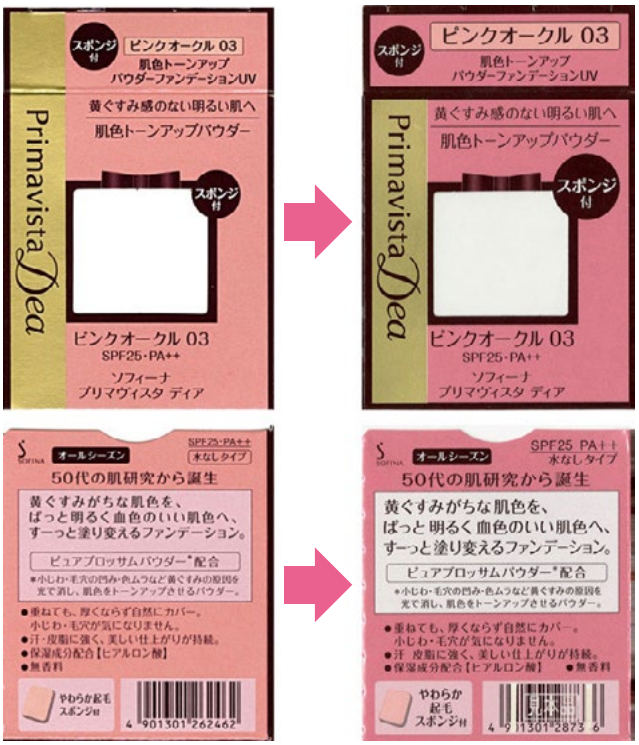
衣料用漂白剤「ワイドハイター EXパワー」のつめかえ用パウチでは、このパウチの使いやすさを知ってもらうため、「ボトルへのつめかえ方」をそそぎ口付近に大きく表示しました。またそそぎ口の切り口を間違わないように切り口に沿って点線を追加し、「点線にそって手で切れます」と文章を記載。さらに簡単に切れるよう、「ここを押さえる」マークを追加しています。

つめかえ容器の表示

ユニバーサルデザインの取り組み

事例4 化粧品パッケージ

「ソフィーナ プリマヴィスタ ディア パウダーファンデーションUV」では、高齢者体験ワークショップからの気づきをもとに、商品の識別性の向上を行なっています。文字を大きくし、能書部分のコントラストを高め、可読性を向上させています。スポンジが入っていることも大きく目立つように記載しました。天面の色識別名称も大きく目立つように変更することで、幅広い年代の方が自分の求める商品をストレスなく選べるように配慮しています。



旧パッケージ　　新パッケージ

Topics 全身洗浄料の容器に「触覚識別表示」を採用

2015年4月に改良新発売した全身洗浄料「ビオレu」シリーズの容器には、目の不自由な方でも全身洗浄料であることが識別できるよう、容器ポンプの頭頂部と容器側面に触ってわかる「一直線状の触覚記号」が付いています。

1991年、花王は消費者相談窓口に寄せられた「シャンプーとリンスの容器が紛らわしい。形を変えてほしい」「目が不自由なので容器に工夫をしてほしい」といった要望にお応えし、シャンプー容器にギザギザ状のきざみを入れてリンスと識別できる工夫を施しました。この改良は、ユニバーサルデザインとして日本工業規格(JIS)や、国際標準規格(ISO)にも収載されています。現在、日本では、ほとんどのシャンプーにこのきざみが入っていますが、目の不自由な方にとっては、同じように浴室で使用する全身洗浄料も、識別したいものの一つでした。その声に応えるべく、メーカーの業界団体が立ち上げた触覚識別表示策定のワーキンググループに花王も参加し、業界団体主導で2014年5月、全身洗浄料の触覚識別表示「一直線状の触覚記号」(通称：ライン)がJISに追加されました。このJISの改正に呼応し、花王は2015年4月発売のビオレuを皮切りに、順次この触覚識別記号を他の全身洗浄料にも導入していきます。

ユニバーサルデザインの取り組み

字幕付きテレビコマーシャル

国内花王グループ

テレビ放送のデジタル化で字幕放送が普及し、多くの番組で「字幕」を表示できるようになりましたが、テレビコマーシャルについては対応が遅れています。花王は、字幕付きテレビコマーシャルの本格放送化への推進活動に取り組んでいます。字幕が付くことで、聴覚に障がいのある方に製品の情報を伝えるだけではなく、テレビコマーシャルの内容がわかることで家族や友人との共通の話題を提供するなど、社会とのつながりを強くする役割も果たします。そのほかにも、耳の聞こえづらい高齢者、大きな音が出せない病院の待合室など、日常のさまざまな生活環境において必要とされるサービスです。

花王は2011年に字幕付きテレビコマーシャルのトライアル放送を開始しました。聴覚に障がいのある方とそのご家族や関連団体にご意見をうかがいながら、伝わりやすい字幕表示の研究も進めています。

この活動を通じて得た知見は、官公庁や関係団体、他企業にも公開し、字幕付きテレビコマーシャルが広く普及するように積極的に取り組んでいます。

2014年にはこれまでの取り組みが評価され、第64回「電波の日」総務大臣表彰を受賞しました。

また、官公庁や関係団体によって「字幕付きテレビコマーシャル普及推進協議会」が発足し、本格的な放送の実施へ向けた準備が始まりました。

花王は今後も関連業界と連携しながら、この取り組みを続けていきます。

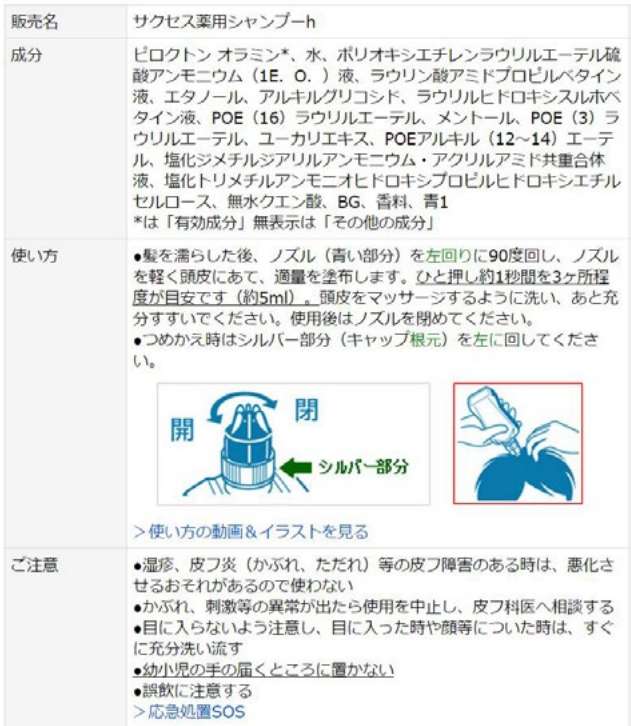
字幕付きテレビコマーシャルの例

音声読み上げソフトに配慮した製品カタログサイト

国内花王グループ

成分や使用量、使い方などを紹介する製品カタログサイトのページでは、音声読み上げソフトの利用に配慮し、図や表にも聞いてわかる説明文を加えています。

たとえば、「サクセス薬用シャンプー」のキャップは、青いノズル部分を左に回すとノズルの先端から液が出る構造です。キャップの根元のシルバー色の部分を回すと、キャップがはずれてつめかえができます。製品本体では、回す方向を図の矢印で示し、文章でも「シルバー部分」と色の情報だけを示しています。これを製品カタログサイトでは、音声で聞いても十分に理解できるように、「シルバー部分（キャップ根元）を左に回してください」と掲載し、位置や方向を示す言葉を補足しています。



販売名	サクセス薬用シャンプーh
成分	ピロクトン オラミン*、水、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸アンモニウム（1E. O. ）液、ラウリン酸アミドプロピルベタイン液、エタノール、アルキルグリコシド、ラウリルヒドロキシスルホベタイン液、POE（16）ラウリルエーテル、メントール、POE（3）ラウリルエーテル、ユーカリエキス、POEアルキル（12～14）エーテル、塩化ジメチルジアリルアンモニウム・アクリルアミド共重合体液、塩化トリメチルアンモニオヒドロキシプロピルヒドロキシエチルセルロース、無水クエン酸、BG、香料、青1 *は「有効成分」無表示は「その他の成分」
使い方	•髪を濡らした後、ノズル（青い部分）を左回りに90度回し、ノズルを軽く頭皮にあて、適量を塗布します。ひと押し約1秒間を3ヶ所程度が目安です（約5ml）。頭皮をマッサージするように洗い、あと充分すすいでください。使用後はノズルを閉めてください。 •つめかえ時はシルバー部分（キャップ根元）を左に回してください。 開 閉 シルバー部分 ＞使い方の動画＆イラストを見る
ご注意	•湿疹、皮フ炎（かぶれ、ただれ）等の皮フ障害のある時は、悪化させるおそれがあるので使わない •かぶれ、刺激等の異常が出たら使用を中止し、皮フ科医へ相談する •目に入らないよう注意し、目に入った時や顔等についた時は、すぐに充分洗い流す •幼小児の手の届くところに置かない •誤飲に注意する ＞応急処置SOS

製品カタログ：図表を文章化した例（サクセス薬用シャンプー）
実際の製品では図で説明している情報を文章で補足（文字色が緑の部分）

ユニバーサルデザインの取り組み

視覚障がい者向けに情報発信

国内花王グループ

音声情報の提供

花王は、社会福祉法人 日本点字図書館が発行する会員向け音声情報誌「ホームライフ」に生活情報を提供しており、6,500名以上の会員にご利用いただいています。2014年6月には髪のスタイリング、肌にやさしいからだ洗い、キッチン除菌などを、10月には、入浴効果と健康入浴法、歯周病予防などの生活情報を提供しました。また、この情報は、社員がナレーターとなり、録音を行なっています。

花王社員が音声で生活情報を提供

商品識別用の点字シール

形状の似ている容器の識別をしやすくするため、「家庭品」と「化粧品」の2種類の点字シールを作成し、無料で配布しています。白地に大きな墨字の印字もあり、視覚障がい者だけでなく、高齢者の方にもご活用いただいています。

家庭品では「全身洗浄料」「シャンプー」「リンス」「洗顔」「メイク落とし」「ハミガキ」「塩素系」などのシールがあり、誤って使用するのを防ぐことにもつながります。化粧品では、製品の種類別、使用場面別、悩み別や、口紅等の色の区別に使えるシールを用意しています。

組み合わせて貼ることで、より便利にお使いいただけます。

家庭品点字シール

小学生向けにユニバーサルデザイン講座を実施

国内花王グループ

2013年より生活者コミュニケーションセンターを中心に、UD推進プロジェクトメンバーと、国立大学法人東京学芸大学が共同でプログラム開発を進めてきた「UD講座『人にやさしいモノづくり』」を、東京・大阪の小学校でスタートさせ、2014年は9校約700名の児童を対象に授業を行ないました。

内容は、シャンプーボトルの「きざみ」はなぜつくようになったのか、身近な日用品の成り立ちを理解しながら、UDの意味を再認識していくもので、「きざみ」を開発した企業として、その経緯や秘話を直接子どもたちに語りかけることができるまたとない機会となっています。

講座を実施した小学校の児童たちからは、「ふだん何気なく使っているシャンプーに、こんなに深い意味があったなんてすごいなぁと思いました」「いままではシャンプーやリンスのことをあまり気にしてなかったけど、きょうみをもった。ぼくもこういう仕事をやってみたい」といったうれしい感想が寄せられました。また、担任の先生からも、「誰もが喜びや幸せを感じることのできる商品開発のプロセスを、企業の方が授業というスタイルで子どもたちに伝えてくれ、UDというものの存在をより身近に感じることができた。とても貴重な時間でした」という声をいただきました。

このプログラムを通じて、「できるだけ多くの人が利用可能なデザイン」という花王の考えるユニバーサルデザインを、今後も伝えていきたいと考えています。

ボトルの違いを観察する子どもたち

お客さま(消費者)とのコミュニケーション【PR3】

電話、eメール、対面でのコミュニケーションなどを通じて、製品の改良やサービスの向上をめざすとともに、必要とされる生活情報を提供することで、豊かな生活文化の実現とサステナビリティ(持続可能性)に貢献します。

方針／体制

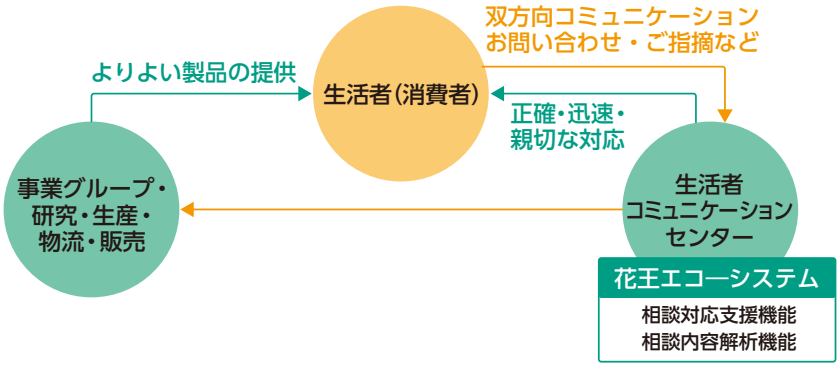
花王の消費者相談窓口である生活者コミュニケーションセンターは、製品に関するご意見やご要望をうかがうだけでなく、その背景にある意識や習慣などの生活現場の状況、「生活者」としての思いまでくみ取りながら、ご相談いただいた方々のお役にたてるよう「正確・迅速・親切」をモットーに対応することをめざしています。

消費者と花王のコミュニケーションを支援し、消費者の声を全社で共有・活用する基盤になっているのが、1978年に開発して以来、5度にわたるバージョンアップを重ねてきた「花王エコーシステム」です。

このシステムには、花王の全製品の情報やその改良履歴から生活情報に至るまで、多岐にわたる情報が蓄積されており、相談に対する迅速で的確な対応を支えています。また、相談内容は、個人情報の取り扱いに十分配慮しながら逐次データベース化し、相談のあった翌朝には全社で閲覧・共有できるようにしています。

これらのデータをもとに、各部門が製品別の相談傾向や発現率(出荷個数に対する相談件数の割合)などを解析し、商品開発やマーケティング、品質向上活動などに活かしています。

消費者の声を製品に活かすしくみ



2014年に電話やeメールなどで寄せられた相談件数は、花王(株)およびニベア花王(株)、(株)カネボウ化粧品の合計で約22万4,000件(前年比96%)でした。前年増加したカネボウ化粧品自主回収関連の相談が減少したことが主な要因です。また、高齢化社会を反映して、ご高齢、男性の方からの相談が増えています。

目標

花王は、消費者からいただくご相談・ご意見に真摯に耳を傾け、きめ細かなコミュニケーションを図ることを通じて、皆さまの声を製品の改良や新製品の開発、サービスの向上などに活かすことをめざしています。

また、次世代を担う子どもたちからご高齢の方々まで、皆さまのお役にたてる幅広い生活情報をさまざまな形でご提供することを心掛けています。各種セミナーの開催、行政機関主催のイベントへの参画など、多様な啓発活動を実施するとともに、2010年度からは、学校の授業カリキュラムに連動させた環境講座や手洗い講座、おそうじ講座などの出張授業を主体とした学校教育支援活動にも注力しています。これからも、多くの消費者の皆さま方と直接ふれあう機会を広げていきます。

お客さま(消費者)とのコミュニケーション [PR3]

ウェブサイトを活用した情報の発信

国内花王グループ

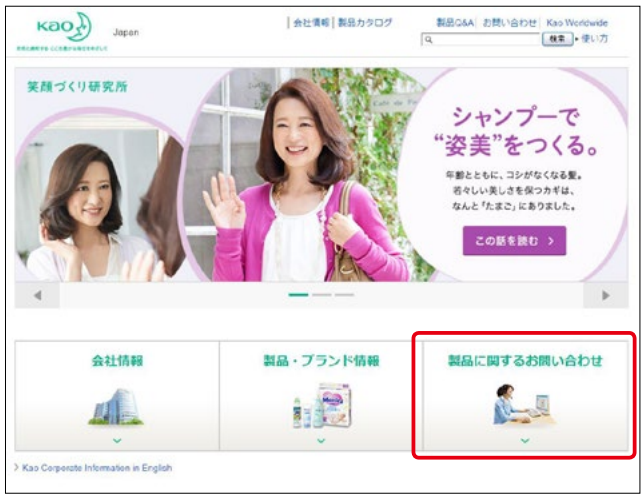
お客さまからのお問い合わせに応えるために、花王はウェブサイトを活用し、きめ細かくタイムリーな情報発信を行なっています。近年、特に注力しているのは、個々の製品に記載されている表示情報をウェブサイトで公開することです。約1,200アイテムの表示情報を順次公開し、お客さまのご要望に合った製品選びをサポートしています。

消費者の安全安心を守ることにも重点を置いており、ヘアカラー使用前の皮膚アレルギー試験(パッチテスト)の重要性や、エアゾール製品の取り扱い上の注意、製品の誤飲・誤食などに対する応急処置方法などの情報もウェブサイトで公開しています。

お問い合わせ

お客さま問い合わせ窓口のサイトで、各種お問い合わせ先を掲載しています。また、その時々で多く寄せられる問い合わせ内容をトピックス的に掲載したり、Q&Aサイトのバナーを掲載したりするなど、お客さまの疑問をウェブ上で解決に導くようにしています。

2014年から、花王のトップページにも大きくリンクを表示し、さらにアクセスしやすくなりました。



➡花王トップページ
http://www.kao.com/jp/

➡お問い合わせトップページ
http://www.kao.com/jp/soudan/

お客さま(消費者)とのコミュニケーション [PR3]

製品Q&A

お客さまから多く寄せられるお問い合わせに対する回答集です。製品カタログサイトにもリンクしており、製品表示より、さらに詳しい情報を知りたい場合の情報データベースになっています。

2014年は、「ディープクリーン」の指ハブラシセットや「アタック 消臭ストロング」シリーズのQ&Aを公開しました。

「ディープクリーン」の指ハブラシセットは、小さい突起がついたやわらかいサックを指にはめて、専用ハミガキをつけて歯と歯ぐきをブラッシングするもので、歯槽膿漏等の予防に向けた新しい歯磨き方法です。これまでになかった製品なので、「磨いたあとは水ですすぐの?」との質問が寄せられました。すぐに「磨いたあとはすすぎが必要です」との回答を掲載しました。

「アタック 消臭ストロング」シリーズは、尿臭まで落とす新しいタイプの洗剤です。漂白成分・柔軟成分を配合しているので、毎日のお洗たくはこの1品でできますが、さらに漂白剤や柔軟剤を使いたいというお客さまのために、漂白剤や柔軟剤を併用できるという回答を掲載しました。

引き続き、年齢が高いお客さま向け製品のQ&Aも充実させていきます。

➡製品Q&Aトップページ
http://www.kao.com/jp/qa/

製品Q&Aの例

お客さま(消費者)とのコミュニケーション [PR3]

製品カタログ

花王の家庭用製品のカタログサイトです。現在、約1,200アイテムを掲載しており、成分や使い方などのパッケージ表示情報を掲載しています。

製品Q&Aなどのサイトとも連携しており、各製品のページから関連のQ&Aが見られます。ヘアカラーやエアゾール製品、塩素系の製品を使用する時の注意情報や、製品を誤食した時の応急処置方法をまとめた「応急処置SOS」等ともリンクしており、製品を安全にお使いいただけるよう配慮しています。

香りが重視される柔軟剤では、香りの強さ一覧のQ&Aとリンクして、製品選びの参考にしていただいています。

➡製品カタログトップページ
http://www.kao.com/jp/products/

新製品のご案内だけでなく、改良品では、性能、香り、容器、デザインなどの改良点をできるだけわかりやすく掲載しています。製造終了品についても終了2カ月前にお知らせを掲載し、ご愛用者への情報提供に努めています。

2014年は、容器の変更により使い方が変わった製品がありました。長年愛用されているお客さまがこれまでと同じように使う可能性があるため、変更点と誤使用した場合の解決方法をあわせて掲載し、トラブルの予防と対処に努めました。消費者の声を聞く部門として、常にお客さまが知りたいことを洞察し、トラブルを予知して、情報発信していきたいと考えています。

製品カタログの例

製造終了品のご案内

製造終了後も、愛用されていたお客さまからのお問い合わせが長く続く製品があります。それらの製品をまとめて掲載し、お客さまに情報提供しています。製品カタログのアフターフォロー版です。

➡製造終了品のご案内トップページ
http://www.kao.com/jp/products/haishihin/index.html

2014年は「ハミングフレア 毎日ふんわりエッセンス」や「キュレル潤浸保湿ベースメイク」、「リリーフ モレ安心尿とりパッド(男性用・女性用)」などを掲載しました。

製造終了品のご案内の例

お客さま(消費者)とのコミュニケーション [PR3]

さまざまな交流活動

国内花王グループ

花王は、さまざまなステークホルダーとかかわりを持っています。消費者との交流により相互理解を深める活動は特に重要であると認識し、主要な消費者団体、消費者行政、各地の消費生活センターを訪問し、情報交換を行なっています。また、消費者団体の皆さまを工場やミュージアムにお招きし、意見交換会を開催しています。さらに、NPOや行政からの要請に基づき、各種の消費者向けイベントに参加しています。

2014年も、行政機関主催の各種セミナーや消費者啓発のイベントに出展しました。行政からの依頼に応え「子ども霞が関見学デー」で、手洗いイベントと環境講座を実施しました。体験型プログラムにしたことで、子どもたちが興味を持って参加し、楽しく学んでいる姿を見ることができました。

今後も社会に貢献できる活動を継続していきます。

行政機関主催イベント くらしフェスタ東京2014展示ブース

消費者対応活動をグローバルに推進

グローバル

日本国内で培ってきた消費者対応の知見・スキルを、海外グループ会社の活動にも活かしています。各国において適切かつ迅速な消費者対応を行なうため、日々のメールや電話による情報共有や定期的に開催するウェブ会議などを通じて、相談対応のプロセスと価値基準の共有化を図っています。また、グループ各社の消費者相談担当者が一堂に会する会議を年1回実施し、各国横断での相談状況を共有するとともに、花王グループとしての対応方針への理解を深めて消費者相談対応のスキル向上を図り、花王グローバルでの活動推進につなげています。

各国活動への支援強化を実践するため、日本の花王エコーシステムと同様に海外各国の消費者の声を共有・活用するしくみとして「グローバルエコーシステム」を2009年に開発し、以降グループ企業海外各社への導入を推進しています。このシステムを通じて海外消費者の声や相談内容、対応内容などを関連部門で共有することにより、的確で迅速な消費者対応につなげるとともに、各国の連携強化を図っています。

今後も花王グループのグローバル事業拡大に合わせ、各国消費者のさらなる対応満足度向上を図るため、各国固有の慣習や価値観も理解反映したうえでのグループ各社の消費者対応力向上を推進していきます。

お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション

コンシューマープロダクツ事業 方針／目標／体制

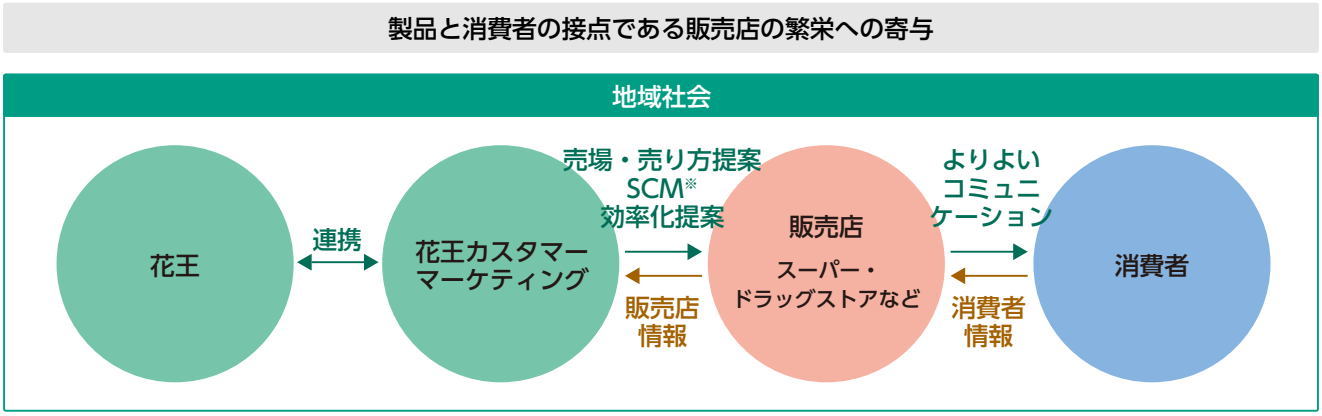
花王カスタマーマーケティング(株)は、スーパーやドラッグストアなど“販売店の売場”を通じて、消費者に花王商品とその価値を届け、満足していただくという役割を担っています。

そのために、消費者の購買意識や行動を具体的に把握し、花王の総合力を活かしながら、お客さま視点に立った売場、企画開発を進め、市場創造と活性化をめざして取り組んでいます。

また、販売店とのさらなる強固な信頼関係を築くために、販売店の戦略や課題を共有し、サプライチェーン効率化も含めた総合的な提案を、カスタマイズして行なっています。こうしたことから強いパートナーシップを結ぶ販売店も増えています。

今後も市場や消費者の変化を的確にとらえた売場・売り方づくりを推進します。

花王カスタマーマーケティング(株)と販売店の連携



※SCM：Supply Chain Management

コンシューマープロダクツ事業

すべての方に配慮した売場づくりと売り方の工夫

国内花王グループ

製品を購入いただく店頭においても、あらゆる世代に対し、より買い物しやすい売場づくりのための取り組みを行なっています。

2014年からは、高齢者とその家族の豊かな日常生活を支えるため、「ニオイケア」という新たな発想の売場創造を販売店と進めています。

介護場面において、介護する側もされる側も持っている大きな悩みとして衣類や空間の「ニオイ」があります。その悩みを解消する衣料用洗剤・消臭剤の「消臭ストロング」シリーズを発売するにあたり、それらがどこの売場で販売していたら買いやすいかを実際に介護されている方々にお聞きしました。すると、通常のお洗たくや消臭剤売場だけではなく、「普段よく利用している売場」「商品に最もふさわしい売場」という理由で、大人用紙おむつや介護用品売場での購入を希望されていることがわかりました。

そのお声をもとに、「消臭ストロング」シリーズや大人用紙おむつ・介護用品を中心とした「シニアトイレタリー売場」を新たにご提案。導入いただいた販売店からは「介護のニオイでお悩みのお客さまはとても多く、大変喜ばれていますよ」と好評をいただいています。

衣類や空間のニオイをケアする衣料用洗剤・消臭剤「消臭ストロング」シリーズ

シニアトイレタリー売場

お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション

ケミカル事業　方針／目標／体制

花王のコア事業の一つであるケミカル事業は、オレオケミカル(油脂関連製品)、機能材料(界面活性剤)、スペシャルティ(情報材料、香料)の各分野で、世界の幅広い産業界のお客さまに中間原料としてのケミカル製品を提供しています。本事業では製品にかかわる法規制や安全性情報を、サプライチェーンを通じて迅速に顧客企業に提供することが求められており、顧客企業や販売代理店との緊密なコミュニケーションを推進しています。

ケミカル事業

販売代理店との情報交換会を継続的に実施

国内花王グループ

国内外の化学物質関連法規制の新規公布や改正に伴い、化学物質管理におけるサプライチェーンでの情報伝達が必須となり、また輸出入時の法令の遵守や震災等の災害時における商流※対応など、花王の販売代理店の役割はますます拡大し、重要になってきています。

花王では、2014年もケミカル事業における主要な販売代理店を含む10社と、ケミカル製品に関係する国内外の各種法規制の動向や環境・安全の取り組みなどの情報交換会を実施しました。総合安全に関する2013年PDCA活動の結果と2014年の活動計画について、販売代理店からご紹介いただきました。花王からは、化学物質関連法規制の国際動向としてアジア各国の法規制の最新情報や花王の取り組みについて紹介しました。また、化学物質管理のための情報伝達に関する省庁・業界の最新動向や伝達業務について情報交換を行ない、サプライチェーンにおけるお互いの役割や対応を再確認しました。

※ 商流
製品そのものの流れである「物流」に対して、受注・発注・代金の決済などを通じて情報や所有権が移動する流れのこと。物的流通に対する商的流通。

➡P47「コミュニティ>ケミカルサプライチェーン全体での情報共有サポート」

プロフェッショナル用品事業　方針／目標／体制

花王プロフェッショナル・サービス(株)(KPS)は、フードサービス(外食産業、食品加工業)、メディカルサポート&ケアサービス(病院、介護施設)、レクリエーションサービス(ホテル、理美容、クリーニング等)の各分野で、専門的な洗浄や衛生管理が必要なプロフェッショナルなお客さまに向けて、業務用製品とソリューションサービスを提供しています。

フードサービス分野では、総合的な衛生管理を通じて食の安全安心や快適な環境づくりを、メディカルサポート&ケアサービス分野では、専門的な感染管理による感染危害のリスク回避やスキンケア技術をベースとした製品群と介護用オムツを組み合わせた人にやさしい介護環境を、レクリエーションサービス分野では、清潔による快適さやおもてなしによる最高のホスピタリティをめざしています。

お客さまのニーズに合った効果的な製品、環境に配慮した製品の開発・提供に加えて、お客さまの状況に合わせた“クレンリネス&サニテーション”オペレーションシステムを提案することで、衛生管理課題のトータルな解決を図ります。

プロフェッショナル用品事業

食品衛生管理のトータル・システムの提案

国内花王グループ

KPSは、外食産業や食品加工業などのお客さまとともに現場での衛生管理向上に取り組み、総合的な衛生管理を通じて食の安全安心や快適な環境づくりをめざしています。

製品の提供に加え、実際に使用される現場に合わせた衛生管理オペレーションを提案。お客さまごとの現場に合わせたわかりやすいマニュアルによって、バラツキのない標準化されたオペレーションを推進します。

提案にあたっては、ケースに応じて店舗の現場診断を行ない、それに基づく改善ソリューション提案～成果検証～マニュアル化を通じて、新たな衛生管理のしくみを共同で推進することもあります。

また、継続的な衛生管理レベル維持向上のため、実際に作業される方々に向けた衛生講習会も実施。店舗の衛生診断とあわせてステップアップを図ります。

2014年は、店舗診断217店、衛生講習会195回を実施しました。

お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション

プロフェッショナル用品事業

医療・介護従事者への感染管理支援活動

国内花王グループ

KPSは、病院や介護施設で感染管理に従事される方々の活動支援として「感染管理ベストプラクティス研究会」やセミナーを実施しています。

感染管理ベストプラクティスとは、医療介護処置の手順の中で、感染対策上重要な部分のリスク分析を行ない、それに対する科学的根拠のある解決策を検討した手順書とチェックリストを作成し実践することで、感染管理レベルの向上をめざす手法の一つです。

2014年は、感染管理ベストプラクティス研究会(ワーキンググループ)の実施エリアが4カ所増え、計64回実施し、548病院・131介護施設の看護師・介護福祉士などの医療従事者に参加いただきました。

近畿ブロック研究会ではセミナーも開催し、1,140名(360病院・93施設ほか)に参加いただきました。

また、病院・介護施設の職員・関係者と情報共有するために、製品の適正な使い方や院内感染防止についての勉強会や、セミナー・学会での商品展示を実施しています。2014年は、感染防止意識の高まりとともに依頼回数・出展回数が増え、勉強会は計336回、商品展示は計109回実施しました。

感染管理ベストプラクティス研究会 セミナー

感染管理ベストプラクティス研究会 商品展示ブース

プロフェッショナル用品事業

大船渡市で「食の衛生管理セミナー」開催

国内花王グループ

2014年11月、KPSは岩手県大船渡市において、食を通じて復興に取り組む企業や現場で働く方々を対象にした衛生管理講習会を開催しました。KPSでは、飲食店・食品加工工場等の食品事業者に対し、衛生管理・感染対策や食中毒予防などのソリューション提案を専門に行なっています。花王が参画している「みちのく復興事業パートナーズ」の中の自立的復興(産業復興)をテーマとした支援活動の一環として実施しました。

講習会では、実際の鮮魚加工場内の機器・器具の正しい洗浄方法の提示や、現場で働く方々の疑問にお答えしました。また、食品がお客さまの口に入るまでの作業工程では、さまざまな食中毒菌の付着・増殖が考えられるため、そのリスクをコントロールする考え方をご紹介しました。

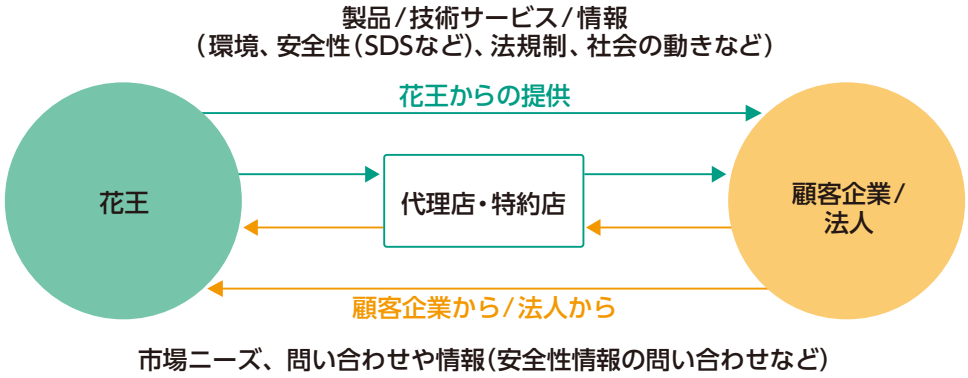
衛生管理講習会

お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション

ケミカル事業　プロフェッショナル用品事業

顧客企業・代理店との連携体制

顧客企業・代理店とさまざまな情報を共有し、連携を密にしています。



3つの重点領域ハイライト

エコロジー　コミュニティ　カルチャー

社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ

社員が参加する社会貢献活動

社員が講師として学校を訪問する出張授業や、東日本大震災復興支援活動「スマイルとうほくプロジェクト」、また社員有志が運営する「ハートポケット倶楽部」など、花王グループの社員自身が参加するさまざまな活動を行なっています。

4つの出張授業を日本全国で実施

国内花王グループ

子どもたちの「生きる力」の向上につながることを願い、全国の小学校、中学校、高等学校に社員が講師として参加する出張授業を実施しています。2009年に「手洗い講座」「環境講座」の活動を開始、2010年には「おそうじ講座」、2014年からは「ユニバーサルデザイン（UD）講座」も追加し、現在4つの出張授業を実施しています。

いずれの講座も、実習や実験を通じて、子どもたちにわかりやすく、楽しく学んでもらえるよう工夫しています。「おそうじ講座」では、食器を洗ったり、ふき掃除を体験しながら、家族の中の自分の役割を考えることで、「家族の役に立つ喜び」や「感謝の心」の大切さに気づいてもらうことも考慮しています。

2014年は、花王グループの社員のべ約1,200名が上記4授業に参加して、46都道府県の235校・約1万7,000名の児童・生徒を対象に実施しました。2009年の活動開始から、累計約6万1,000名の児童・生徒が受講しています。グループ会社のさまざまな部門から社員が参加しており、子どもたちとのふれあいを通じて、社会貢献活動を知るよい機会となっています。この活動は、海外グループ会社でも実施しています。

「おそうじ講座」の授業

「手洗い講座」の授業

正しい手洗い方法を子どもたちに伝える「手洗い講座」

手洗いは感染症の予防に非常に有効な手段ですが、正しい手洗いの方法を知らない子どもがたくさんいます。小学校低学年の児童向けに2009年から始めた「手洗い講座」では、まず、手洗いの大切さを伝え、花王が独自に作成した「あわあわ手あらいのうた」を使って、楽しく正しい手の洗い方が習得できるようになっています。

2014年は、花王グループのさまざまな部門の社員、のべ約560名が参加し、37都道府県の小学校109校・約8,000名の児童を対象に実施しました。

➡P9「非財務ハイライト>手洗い講座を受講した児童累積数（国内花王グループ）」

3つの重点領域ハイライト　コミュニティ

スマイルとうほくプロジェクト

国内花王グループ

花王グループは、東北の3つの新聞社（岩手日報社・河北新報社・福島民報社）が展開する東日本大震災復興支援活動「スマイルとうほくプロジェクト」に協賛し、一緒に活動しています。

2014年は、花畑づくりと仮設住宅訪問に花王グループ社員のべ346名が参加しました。2015年も、さらにふれあいを大切に活動を継続していきます。

東北3県でのスマイル花畑づくり

2014年も、引き続き岩手・宮城・福島の各地で行なわれた花畑づくりに参加し、地元の方や子どもたちと一緒に種や苗を植えました。

宮城県名取市閖上地区では、長い期間花が見られるように一年草や多年草の配置を工夫しました。地元のボランティアによる毎日の手入れもあり、冬場まで見事に花が咲き誇りました。

参加した社員からは、「『花が咲くと心がいやされる』と地元の方に言われました。花畑をつくることで、東北の元気を発信できると思います」などの声がきかれました。

仮設住宅を訪問し、心つながる活動を展開

「もっと現地に寄り添っていきたい」との思いから、2014年は3県の仮設住宅40カ所を花王グループ社員が訪問し、ハンドケアなどにより住民の方との交流を深めました。

震災当時の体験をお話しいただいたり、手をとってふれあいながら会話することでぬくもりが伝わり、笑顔になって交流する場になりました。参加した社員からは、「住民の方々が笑顔になっていく姿を間近に見てうれしく思った」「継続してほしいと最後に言われたことが印象に残った。この活動を、今回だけで終わらせないようにしたい」などの声があり、社員自身が学び、考えを深め、また元気をもらう大変貴重な機会ともなりました。

地元の方や子どもたちと一緒に種や苗を植える

仮設住宅の住民の方にハンドマッサージを行なう

花王ハートポケット倶楽部

国内花王グループ

花王ハートポケット倶楽部は、2014年で10周年を迎えました。

倶楽部の趣旨に賛同した社員が会員となって、毎月の給与の一部を基金として積み立て、より良い社会づくりをめざし、社会課題の解決に取り組むNPO・市民団体への寄付や、広域災害発生時の緊急支援に役立てています。寄付先の決定や倶楽部の運営は、会員の代表からなる運営委員が担っています。

2014年は、事業場のある栃木、和歌山、茨城の市民活動の応援や、2013年に新設した助成金額を拡げたプログラム「みらいポケット基金」の実施など、計48団体へ寄付しました。助成先の選考や活動視察に会員が参加するなど、寄付先との交流を通じて、活動の背景にある社会課題を知る機会になりました。

また、寄付だけではなく、社員が「絵本を届ける運動」（主催：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）に参加。2014年は180名の社員が絵本に訳文シールを貼り、ラオスの子どもに贈りました。

助成先選考会での活動説明プレゼンテーション

花王ハートポケット倶楽部 これまでの実績
寄付先：443団体　寄付金：7,380万円
会員数(2014年12月現在)：2,614人

社会貢献活動【EC7】

「環境」「教育」「コミュニティ」の3つの領域で自社の経営資源を活かした体系的な取り組みを展開しています。

方針／体制

花王は、「次世代を育む環境づくりと人づくり」をテーマに掲げ、「環境」「教育」「コミュニティ」の3つを重点分野として活動しています。グループ全体で社会貢献活動を推進していくため、特に地域社会とのきずなをつなぐことをめざした活動に重点を置いています。

活動方針

- 次世代の育成に役立つ活動を行います。
- 地域の社会・文化の発展に貢献することを目指した活動を行います。
- 持続可能な社会に向けて、環境を守り育てる活動を行います。
- 社会的支援として、バリアフリー社会を推進する活動を行います。
- 花王の持つ資源を有効に活かせる活動を行います。
- 一人ひとりの社員が良き市民として、社会的活動に参加できるような風土をつくります。

社会貢献活動の全体像

次世代を育む環境づくりと人づくり

環境	教育	コミュニティ
●花王・みんなの森づくり活動 ●タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト	●花王・教員フェローシップ ●理科教育支援・出張授業	●花王ファミリーコンサート ●社会起業家育成支援

社員参加型の活動	花王ハートポケット倶楽部、ピンクリボンキャンペーン
メセナ支援	東京音楽コンクール、新国立劇場協賛、大型美術展協賛

公益財団法人　花王芸術・科学財団

社会貢献活動 教育 [EC7]

学校教育活動

国内花王グループ

子どもたちの「生きる力」の向上につながることを願い、花王の事業にかかわりの深い「手洗い講座」「おそうじ講座」「環境講座」「ユニバーサルデザイン（UD）講座※」の4つの出張授業を実施しています。

2014年は、4講座合わせて、46都道府県の235校・約1万7,000名の児童を対象に、花王グループの社員、のべ約1,200名が参加して実施しました。2009年の活動開始から、累計約6万1,000名の児童・生徒が受講しています。

グループ会社のさまざまな部門から社員が参加しており、社員が社会とふれあい、社会貢献活動を知るよい機会となっています。

また、学校教育支援活動の幅を広げるために「手洗い講座」「おそうじ講座」については教員が授業を実施する教材提供型講座も実施しているほか、教材提供に特化した「中学家庭科講座」の普及にも努めました。

「手洗い講座」

子どもたちに手洗いの大切さを伝え、「あわあわ手あらいのうた」を使って楽しく正しい手の洗い方を習得してもらう小学校低学年向けのプログラムを2009年から実施しています。

2014年は、37都道府県の小学校109校・約8,000名の児童を対象に、のべ約560名の社員が手洗い実験を交えた講座を実施しました。

また教材提供についても66の学校や施設等に配布を行ないました。

「手洗い講座」の授業

「おそうじ講座」

小学校低学年の「生活科」のカリキュラムに連動し、食器洗いとふき掃除の実習を通じ、家事の大切さや、それらの上手なやり方・コツを伝え、同時に家族の中の自分の役割を考えることで、「家族の役に立つ喜び」や「感謝の心」の大切さに気づいてもらうプログラムを2010年から実施しています。

2014年は、28都道府県の小学校64校・約4,500名の児童を対象に、のべ約380名の社員が実習を交えた講座を行ないました。また、小学校15校に教材提供を行ないました。

「おそうじ講座」の授業

「環境講座」

未来を担う子どもたちに、日々の暮らしで環境に配慮することの大切さを講義や実験を通じて伝える、体験型のプログラムを2009年から実施しています。

授業では、すすぎ性に優れた衣料用濃縮液体洗剤を題材に、「すすぎ1回」で洗たくすると節水効果が得られることを紹介しながら、使用場面での行動が環境に大きく影響を及ぼすことを伝えています。

2014年は28都道府県53校・約4,200名の小学生、中学生、高校生を対象に、出張授業を実施しました。

小学校での「環境講座」の授業

※「ユニバーサルデザイン（UD）講座」について詳細は
➡P56「コミュニティ>ユニバーサルデザインの取り組み>小学生向けにユニバーサルデザイン講座を実施」

中学校家庭科向け教材提供講座の普及

2011年から岡山県の中学校家庭科教員と協働して、花王が授業教材を作成し教員が授業を実施する教材提供講座の開発を進め、2013年6月より「環境のことを考えた快適なくらし」として提供しています。中学校の家庭科「衣服の手入れをしよう」「消費生活と環境のかかわりについて考えよう」の単元に即した5つのプログラムから構成され、生徒が暮らしの中の環境の課題について考え、生徒自身が環境に配慮した生活をするためにはどうしたらよいかを体系的に学べる内容となっています。

2014年は159の学校や行政機関に教材を活用していただきました。

社会貢献活動 教育 [EC7]

Topics 中学校家庭科向け教材が「第9回消費者教育教材資料表彰」優秀賞を受賞

中学校家庭科向け教材「環境のことを考えた快適なくらし」が、「第9回消費者教育教材資料表彰」（企業・業界団体対象）の視聴覚資料部門で優秀賞を受賞し、2014年6月の公益財団法人・消費者教育支援センター主催の消費者教育シンポジウムで表彰されました。

「消費者教育教材資料表彰」は、学校における消費者教育の充実・発展を目的に、企業や業界団体などが作成している教材資料の中から、学校現場で効果的に活用でき消費者教育推進に貢献する優秀な教材を表彰するものです。

この教材を使って授業を行なった教員からは「このプログラムは実験が簡単で、目で見て汚れが落ちていく様子が非常にわかりやすいので、生徒の反応もとてもよかった。教師側としても準備がしやすい」「企業の技術的ノウハウと現場教員の指導ノウハウがうまくコラボしていてたいへん使いやすかった」といった点が評価されています。

簡単でわかりやすい、と好評の実験

理科教育を支援

国内花王グループ

「高校生科学技術チャレンジ（JSEC）」に協賛

JSEC（主催：朝日新聞社、テレビ朝日）は、世界に通用する科学者の育成をめざし、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテストです。花王は、高校生の理科教育支援の一環としてJSECに協賛し、毎年優れた作品に花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しています。

JSEC2014にて花王賞および花王特別奨励賞を決定

JSEC2014では、応募総数200を超える作品の中から各賞が選出されました。花王からも審査員が参加し、花王賞は米子工業高等専門学校の松井千佳さん、前田千澄さん、田原早央莉さんの「卵殻の内皮が示す機能を用いて食品のメラニン沈着を抑制する研究」に、花王特別奨励賞は、山口県立山口高等学校の金谷啓之さん、藤村志穂さん、福本朱夏さんによる「緑色のナミウズムシの生態」に決定しました。

花王賞を受賞した3名は、2015年5月に米国で開催されたIntel ISEF（国際学生科学技術フェア）に派遣されました。

JSEC2014 花王賞の贈呈

JSEC2013 スタディツアーを開催

2014年3月、JSEC2013のスタディツアーを和歌山事業場において開催しました。このスタディツアーは、花王特別奨励賞の副賞として授与されるもので、受賞者が花王の研究施設を見学し、研究員との交流を深めるものです。

当日は、JSEC2013花王特別奨励賞受賞校の茗溪学園高等学校に加え、花王賞受賞校の茨城県立日立第一高等学校からも受賞者が参加しました。施設見学のほか、研究員による研究事例紹介と高校生による受賞研究の発表が行なわれ、参加した高校生からは「今後の研究をどのようにすればよくなるか、などを学ぶことができた」、先生からは「企業の研究活動一般について生徒たちが触れる機会は少ないため、初めて知る考え方や知識が多くあったと思う」との声をいただきました。

JSEC2013スタディツアー 高校生の発表の様子

社会貢献活動 教育 [EC7]

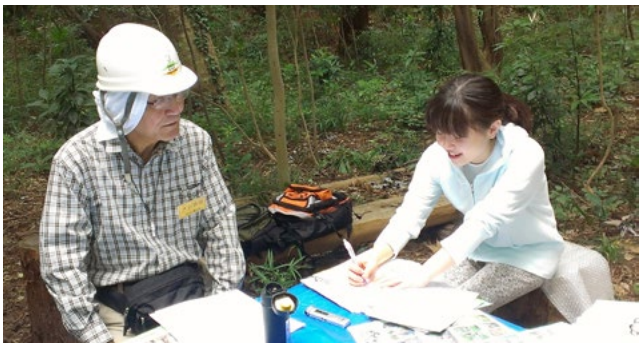
「花王・みんなの森の応援団」

国内花王グループ

「花王・みんなの森づくり活動」で助成した市民団体を大学生が取材し、活動を応援する記事を執筆するプログラムです。団体立ち上げ時の思いや日々の活動について取材するだけでなく、団体の活動に加わって一緒に汗を流すことで、市民活動や環境保全に対する理解が一層深まります。また、こうした活動とともに、記事の書き方や写真の撮り方について学んだり、NPO法人や企業について知識を深める機会になっています。

2014年は、10名の大学生が10団体を訪問し、記事を執筆しました。これまでに86名の大学生が87団体を訪問しました。

このプログラムは認定特定非営利活動法人日本NPOセンターと協働で運営しており、大学生が執筆した記事は日本NPOセンターのウェブサイト「NPOヒロバ」に掲載されています。


助成先団体を学生が取材

フィールドワークの様子

「花王・教員フェローシップ」

国内花王グループ

全国の小中学校の教員の方々を対象にしたプログラムで、夏休み期間中に、海外での生物多様性保全のための調査（NGOアースウォッチ主催）にボランティアとして参加する機会を提供しています。現地での体験や感動を、日本に戻って学校や地域での環境教育に活かしていただくことを目的としており、臨場感をもって伝えられる経験が、子どもたちや先生同士、地域社会に幅広く伝わり、環境保全や生物多様性保全の意識が広がっていくことを期待しています。

2014年は、5プロジェクトに10名の教員の方にご参加いただきました。これまでの累計では、60プロジェクトに119名の教員の方にご参加いただいています。

タイでのゾウの知力調査

社会貢献活動 教育 [EC7]

工場見学を通じた次世代教育

国内花王グループ

豊橋工場では、年間3,000人を超えるお客さまに工場をご見学いただいています。2013年から、小学5年生の社会科単元「わたしたちの生活と工業生産」に則した見学プログラムを開発導入し、小学生の社会科見学を積極的に受け入れています。

このプログラムは、豊橋工場で生産する「ニベア」などのスキンケア商品について、少量多品種生産のモノづくりにおける製造ラインの工夫や安全安心への取り組みの説明と、スキンケアクリームを実際につくる体験教室で構成しています。児童にモノづくりへの興味・関心を持っていただくきっかけになればという思いをこめて開発したものです。

2014年は、DVD“いっしょにecoダンス”とエコキットによるクイズを組み合わせた内容を新たに取り入れました。児童が家に帰って実践できる内容となっており、先生方には「児童にわかりやすい内容だ」と大変好評をいただいています。他の工場でも、それぞれ工場見学を実施しており、川崎工場では小学5年生の社会科の工業生産の単元に合わせた環境に配慮したモノづくりの工夫のプログラムを、和歌山工場では小学3年生・5年生の社会科単元に合わせた花王エコラボミュージアム見学をセットにしたプログラムを用意しています。

“いっしょにecoダンス”の上映

エコキットでクイズに挑戦

社会貢献活動 コミュニティ [EC7]

「花王社会起業塾」で社会起業家を支援

国内花王グループ

花王は、よりよい社会を次世代に引き継いでいくために、社会の課題をビジネスの手法で解決しようとする若手の社会起業家の育成を支援しています。

2010年より、特定非営利活動法人ETIC.（エティック）の協力を得て「花王社会起業塾」を実施し、特に「家族」を取り巻く課題を解決しようとする起業家を支援しています。

プログラムは、事業開始直前直後の若手起業家を支援する「スタートアップ部門」と、過去にスタートアップ部門で支援した団体の新たなチャレンジを継続発展的に支援する「イノベーション部門」の2つがあります。「スタートアップ部門」では、期間中に専門家や先輩起業家によるアドバイスを受ける機会を提供し、事業を成長軌道に乗せるための支援を行ないます。「イノベーション部門」では、事業のさらなる飛躍をめざした取り組みを、右腕となる人材を派遣することで支援しています。

2014年は、2部門合わせて4組の団体を支援し、これまでにのべ24組の起業家を支援してきました。

また、花王は東日本大震災の復興支援の一つとして、ETIC.と企業7社が連携して、東北の自立的な復興の流れを支えていく「みちのく復興事業パートナーズ」へ参画しています。この活動を通じて、被災地のさまざまな社会課題や復興に取り組み、未来の東北を支えていく現地の次世代リーダーの支援も行なっています。

➡P64「コミュニティ>お客さま（法人顧客）とのコミュニケーション>大船渡市で「食の衛生管理セミナー」開催」

◆2014年　スタートアップ部門

○認定特定非営利活動法人つくばアグリチャレンジ
副代表理事・農場長　伊藤文弥さん
事業テーマ：「障害を持っていてもごきげんに笑って暮らせる社会を創る」

○ちぇぶら
代表　永田京子さん
事業テーマ：「更年期を迎える女性の健康で豊かな人生をサポート」

○FindSitter
代表　羽根田里志さん
事業テーマ：「『FindSitter』～地域のプライベートシッターをご家庭に」

◆2014年　イノベーション部門

○特定非営利活動法人ピルコン
理事長　染矢明日香さん
事業テーマ：「子どもたちを性のトラブルに遭わせない家庭内教育プログラムの開発・普及」

シニアメンターによる個別コーチング

専門家や先輩起業家を交えた経営戦略会議

社会貢献活動 コミュニティ [EC7]

「ピンクリボンキャンペーン」を実施

グローバル

花王（株）、花王カスタマーマーケティング（株）、（株）カネボウ化粧品、カネボウ化粧品販売（株）は、グループ合同の社会貢献活動として、2007年から「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、乳がんの早期発見の大切さを伝えるため、花王ソフィーナ・エストとカネボウ化粧品の店頭で、美容部員がピンクリボンバッジを着用し、セルフチェック方法などを記載したリーフレットを配布するものです。海外でも、花王（中国）と花王（香港）、花王（台湾）が展開してきましたが、2014年は新たに、カネボウ化粧品のタイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピンで実施しました。

また、より多くの方に情報をお届けできるよう、iPhone向け“笑顔つながる「ピンクリボンアプリ」”を開発し、運用を開始しました。

店頭での活動の様子

笑顔つながる「ピンクリボンアプリ」

「花王ファミリーコンサート」を開催

国内花王グループ

花王は、事業場立地地域の皆さまに質の高い音楽に触れる機会を提供し、音楽や芸術を楽しんでいただこうと、コンサートを開催しています。当日の会場整理、アナウンス、切符切り等の運営はすべて社員が行ない、チケット収益は、地域の音楽教育などに役立てていただくよう、全額を寄付しています。

これまでに、酒田、栃木、鹿島、和歌山、愛媛の各事業場近隣でコンサートを開催してきました。2014年は、累計で30回目となる公演を栃木県益子町にて開催し、930名のお客さまにご来場いただきました。

「花王ファミリーコンサートin栃木」
ヴァイオリニスト千住真理子さんをお招きしました

社会貢献活動 コミュニティ [EC7]

地域との交流活動を実施

グローバル

花王グループ各社では、地域コミュニティとの交流活動を継続的に行なっています。工場見学の受け入れなど、会社で主導して行なう活動に加え、社員自らが工夫して社会的活動に寄付を募ったり、直接福祉施設や学校に出向いて支援を行なったり、その地域ならではのさまざまな活動を行なっています。

たとえば、マレーシアではチャリティイベントへの製品寄贈、メキシコでは近隣施設の修繕協力、スペインでは恵まれない人への食料支援など、2014年も各地でさまざまな活動が行なわれました。

チャリティイベントに製品を寄贈(花王マレーシア)

フードバンクに食料を支援(花王スペイン)

地域の幼稚園などの壁を社員がペイント(キミ花王)

2014年の主な災害支援

グローバル

災害	会社	支援内容
フィリピン台風	花王(株)	2013年11月発生の台風ハイエン被災支援のためアボイデス基金に製品を寄贈
	花王USA	American Red Crossに41万円相当の寄付および社員ボランティア協力
インドネシア水害	花王インドネシア化学	地域住民に13万円相当の寄付
	花王インドネシア	支援団体にボート2艘を提供。また、50万円相当の製品寄贈および社員ボランティア協力
タイ チェンライ県地震	花王コマーシャル(タイランド)	チェンライ県に40万円相当の製品寄贈と寄付および社員ボランティア協力
日本 平成26年8月豪雨	花王(株)	社会福祉法人中央共同募金会に100万円を寄付、福知山市および兵庫県に製品寄贈、広島市に製品寄贈
中国 雲南省地震	花王(株)	上海市慈善基金会に500万円を寄付
メキシコ ハリケーンオディール	キミ花王	支援団体に27万円相当の寄付および社員ボランティア協力
日本 長野県神城断層地震	花王(株)	長野県白馬村・小谷村に製品寄贈

3つの重点領域ハイライト

エコロジー　コミュニティ　カルチャー

健全な事業活動

「正道を歩む」の推進

社会は常に変化し、社会における「サステナビリティ」と「企業への期待」も常に変化しています。
花王は、こうした社会からの期待の変化に対応し、さまざまな取り組みを進めています。

贈収賄防止や企業行動指針の浸透に向けた活動　グローバル

贈収賄の防止に向けて

花王は、「花王ビジネスコンダクトガイドライン（BCG）」の中で贈収賄防止に対する強い姿勢を明確にし、公務員や民間企業等、相手先の属性を問わず贈収賄を行なわないこと、所定の公的手続きを早めるために公務員個人に支払う少額の支払いである「円滑化のための支払い」を行なわないことを明記しています。

この考え方をさらに具体化するために、花王グループは、共通の贈収賄防止の方針と、国内・海外各地域、会社ごとの接待・贈答等の運用手続きを含む「贈収賄防止ガイドライン」を導入しました。

企業の健全な事業活動に向けて

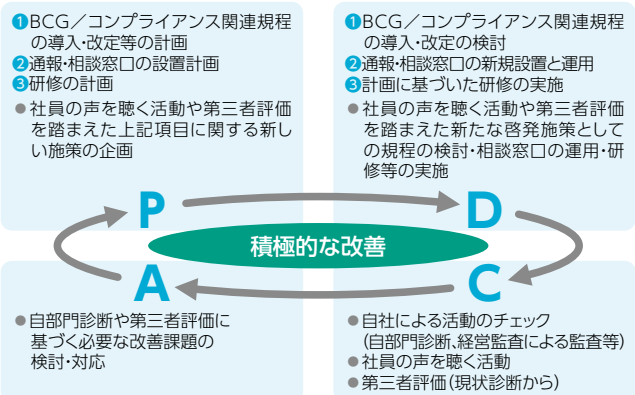
花王は、役員や社員が花王グループの義務および責任の忠実な遂行に影響を与える状況を回避し事業を健全に行なうために、「利害の対立の回避に関するガイドライン」を、国内グループ会社に加え、2014年は新たに海外グループ会社にも導入しました。これは、利害の対立が現実化、顕在化、潜在化するおそれがある①役員・社員本人または近親者と花王グループとの競業する行為に関する事項、②役員・社員本人または近親者と花王グループとの取引に関する事項、③役員・社員による花王グループ、取引先、競合会社との金銭貸借や個人的投資の場面において、具体的な事案に応じて許可・届出等を求めることを規定するものです。

中長期的な課題抽出と課題に向けた取り組みの検討 －コンプライアンス活動の妥当性・適切性の検証－　グローバル

花王では中長期や年間の活動計画に基づき、BCGの定期的な改定、コンプライアンス通報・相談窓口の整備・運用、インテグリティ研修等のコンプライアンス推進活動を行なっています。

2014年より、翌年以降の活動計画を策定するにあたり、従来実施してきた活動の妥当性・適切性を確認し、さらに効果的なコンプライアンス活動につなげるために、社内の各部門の推進者や社員の意見を聴き、また第三者（コンサルティング会社）からの検証を受けるプロセスを導入しています。さらに2014年後半から、社内の声を聴く活動を開始しました。また、2015年前半には、第三者から贈収賄防止体制を含めたコンプライアンス体制について現状診断を受けました。今後は活動に対する意見や指摘された課題を検証し対応していきます。

コンプライアンス活動のPDCA



BCGの啓発・浸透に向けた活動 －世界各国の社員と共有し啓発する－　グローバル

花王は、BCGや贈収賄防止、利害の対立の回避といったコンプライアンスに関連するガイドラインを、日本語を含む19言語で作成し、グループ会社社員に共有しています。

これらの規程の理解を深めるために、新入社員、新任マネジャー、海外グループ会社社員等を対象に事例のディスカッションを通じた研修を実施しています。

➡P9「非財務ハイライト>花王ビジネスコンダクトガイドライン年次テスト受講者数および受講率（花王グループ）」

3つの重点領域ハイライト カルチャー

持続可能性に配慮した原材料調達

花王は、主要な原材料であるパーム油や紙・パルプについて、森林破壊ゼロへの支持を表明し、また、藻類から油脂原料を得るための研究開発を進めるなど、持続可能性に配慮した原材料調達に取り組んでいます。

環境や社会に配慮した原材料調達ガイドライン

グローバル

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権課題などを踏まえ、持続可能性に配慮した原材料の調達を実現するため、2014年に「原材料調達ガイドライン」を改訂し、実行しています。改訂したガイドラインでは、花王の主要な原材料であるパーム油や紙・パルプについて、森林破壊ゼロへの支持を表明し、2020年までに原産地の森林破壊ゼロを確認することを目標に掲げています。

Web 原材料調達ガイドライン
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_05.html

森林破壊ゼロのパーム油調達へ向け目標策定

グローバル

花王は、2014年にパーム油の調達において森林破壊ゼロへの支持を表明し、“2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入する”ことを新たな目標として掲げました。

目標達成のため、2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油・パーム核油を、持続可能性に配慮した搾油工場まで原産地追跡可能なもののみ購入することをめざす取り組みを進めています。また、2020年までに、農園およびサプライヤー、第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロの十分な確認を進めていきます。

花王は熱帯雨林の伐採による生態系破壊、原産地や加工工場での人権侵害等の課題解決のために「持続可能なパーム油の円卓会議：RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil）」に2007年に加盟し、2010年9月よりRSPOの認証を受けた認証パーム油の購入を開始しました。工場においても、2014年までに国内2工場、海外9工場がRSPOの「製造・加工・流通過程」に関する認証を受けています。2020年までに、花王グループでは追跡可能で持続可能性に配慮したパーム油を使用した製品の生産・加工・出荷が認められたサプライチェーンの構築に努めます。

パーム油の原料であるアブラヤシ果房（現地メーカーの取引の様子）

Topics 世界に先駆けて藻類から油脂原料を得る

洗剤やシャンプー等の原料油脂の一部は、食用油と同じものを使用していることから、将来的な世界人口の増加に伴い、食用油との競合が危惧されています。

バイオマスの高度利用を中心とした先進的で持続可能な環境技術研究を進めているエコテクノロジーリサーチセンターでは、藻類研究において洗剤やシャンプー等の界面活性剤の原料となる中鎖脂肪酸を多く蓄積する株を複数見いだすとともに、中鎖脂肪酸の生成に寄与する酵素を世界で初めて藻類で同定しました（2014年9月 第1回アジアオレオサイエンス学会で発表）。今後は、藻類による中鎖脂肪酸の工業的な生産技術の確立をめざします。

有用藻類の探索

3つの重点領域ハイライト　カルチャー

人権への取り組み

花王では人権を重要な課題として認識し、国際的な規範に準拠した花王人権方針を策定し、人権への取り組みを強化しています。

「花王人権方針」策定

グローバル

花王は2005年、人権、労働、環境、腐敗防止の4分野の10原則を定めた国連グローバル・コンパクトへの支持を表明しました。また、花王グループの企業行動指針である花王ビジネスコンダクトガイドラインにおいて差別の禁止、児童労働・強制労働の禁止、ハラスメント行為の禁止等について定め、実践しています。サプライチェーンにおける人権尊重については、調達先ガイドラインの中でサプライヤーが配慮すべき人権項目を記載しています。

さらにグローバル社会の人権に対する関心の高さを受け、社内の関連部門および社外有識者との対話を行ない、2015年6月、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」※1に基づく「花王人権方針」を策定しました。花王は、国際人権章典※2や国際労働機関（ILO）の「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」※3などの人権に関する国際的な規範を尊重すること、人権デュー・ディリジェンス※4や社員への適切な教育の実施などの取り組みを進めていくことなどを明確に定めています。今後はこの方針の周知徹底を図り、取り組みを進めていきます。

※1　国連「ビジネスと人権に関する指導原則」：国連事務総長特別代表ジョン・ラギー氏が起草し、2011年6月、国連人権理事会で採択されたビジネスと人権に関する原則
※2　国際人権章典：世界人権宣言と国際人権規約の総称
※3　「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」：1998年、ILO総会で採択され中核的労働基準を定めた宣言
※4　人権デュー・ディリジェンス：事業上の人権への影響を特定、評価し、回避または軽減するための継続的なプロセス

Web
花王人権方針
http://www.kao.com/jp/corp_csr/csr_action_03.html
花王ビジネスコンダクトガイドライン
http://www.kao.com/jp/corp_info/compliance_01.html
調達先ガイドライン
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_04.html

人権デュー・ディリジェンスに向けた取り組み

グローバル

花王では、2014年9月に2日間にわたり東京で開催された「2014CSRリスクマネジメントに関する国際会議」に参加し、「ビジネスと人権」に関するさまざまな課題に対して、解決に向けた取り組みをいかに進めていくかについて議論しました。

初日午前中のエクスクルーシブセッションにおいては、サプライチェーンの人権リスクに直面している企業の事例をもとに、既存のリスクマネジメント手法を用いて、その軽減および予防をいかに図るかというワークショップを実施しました。午後は「ビジネスと人権」分野の主要団体トップからそれぞれの活動とグローバル企業の取り組みについて発表がありました。2日目は「子どもの権利」「強制労働」「メガスポーツイベントと人権」「水・エネルギー・食料連関」の4つのテーマについて、現状を把握し、企業の活動事例の紹介をもとに、課題や取り組むことの意義を議論しました。今後もこうした会議への参加で得た知見を活かしつつ、社内での人権デュー・ディリジェンスへの理解を深めていきます。

また、購買部門では、世界最大の企業倫理データ共有推進団体であるSEDEXに参加し、自社でのセルフアセスメント結果に加えて、サプライヤーに対する人権を含めたリスク評価を検討しています。

こうした活動を積み重ね、今後の人権デュー・ディリジェンス実施に向けた検討を進めています。

「2014CSRリスクマネジメントに関する国際会議」参加企業の方々と

サプライヤーとの連携【DMA】

花王は法を遵守し高い倫理観を持って、公正・公平な購買活動をします。持続的発展可能な社会の実現をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などに配慮し、企業としての社会的責任を果たします。

方針／体制

花王は、企業の社会的責任を果たすため、原材料や機器のサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達基本方針」に則った「公正・公平」「遵法・倫理性」「社会的責任性」を基本姿勢とする調達活動を推進しています。

➡詳細は「調達基本方針」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_00.html

花王は「調達基本方針」に則った調達活動を具体的なものとするため「調達先ガイドライン」を制定しています。法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等、社会的責任に配慮されているサプライヤー、環境マネジメントシステムをはじめ花王が配慮すべき環境項目に協力いただけるサプライヤーからの調達を優先しています。また、環境に配慮した原材料や包装容器の調達を優先しています。

花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約書においては、環境・人権・労働などに関する条文を明記し、契約の新規締結時や改定時に締結しています。

また、“よきモノづくり”の実現のため、品質の改善が必要なサプライヤーとは「品質向上会議」を実施し、サプライヤーと花王が一体となった品質の改善に取り組んでいます。

➡詳細は「調達先ガイドライン」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_04.html

目標

花王はサプライヤーのご協力のもと、「調達先ガイドライン」の遵守状況をセルフアセスメントによりモニタリングしています。環境面・社会面それぞれに、基準に達しているサプライヤーの比率に目標値を定めています。

また、基準に満たないサプライヤーには、訪問して課題を共有するとともに、改善に向けた取り組みを実施しています。

また、サプライヤーとの関係を強化する新たな取り組みを進めていきます。

社会面では、2014年に世界最大規模の企業倫理データ共有推進団体であるSEDEX※1に加盟しました。今後は自社で行なうセルフアセスメント結果とあわせ、調達担当者の行なう調達先リスク評価の拡充に役立てていきます。

環境面では、すでに参加している温室効果ガス排出量把握のためのCDPサプライチェーンプロジェクト※2に加え、枯渇や汚染が持続可能な開発における大きな課題として注目されている水資源に関するCDPサプライチェーンウォータープロジェクト※3にも参加し、花王のサプライチェーンにおけるリスクアセスメントを進めていきます。

※1 SEDEX (Supplier Ethical Data Exchange)
グローバルサプライチェーンにおける倫理的かつ責任あるビジネス慣行の促進を目的に、労働基準、健康と安全、環境、ビジネス慣行に関する情報の共有と確認を行なう世界最大規模の協働プラットフォーム
※2 CDPサプライチェーンプロジェクト
CDPとは、機関投資家が連携して、世界の主要企業の気候変動に対する取り組みや温室効果ガス排出状況の報告を促す取り組み。サプライチェーンプロジェクトは、CDPが企業と連携し、企業が自社のサプライヤーに気候変動に関する情報開示を求めることで、サプライチェーン全体での取り組みを進めるプロジェクト。
※3 CDP サプライチェーンウォータープロジェクト
CDPが始めた水の利用・排出状況の報告を促す取り組み。

調達先ガイドライン遵守状況

グローバル

モニタリング企業数と基準を達成している企業比率および工場比率

	社会面		環境面	
	花王(株)取引先企業	アジア花王グループ取引先企業	花王(株)取引先工場	アジア花王グループ取引先工場
2009年	934社(99%)	380社(98%)	1,256工場(98%)	242工場(95%)
2010年	947社(99%)	461社(98%)	1,286工場(99%)	283工場(95%)
2011年	962社(99.7%)	551社(98%)	1,303工場(99.6%)	331工場(95%)
2012年	989社(97%)	631社(95%)	1,326工場(99%)	374工場(95%)
2013年	992社(97%)	708社(96%)	1,330工場(99%)	510工場(97%)
2014年	999社(98%)	806社(97%)	1,341工場(99%)	537工場(97%)

サプライヤーとの連携【DMA】

サプライヤー満足度調査を実施

国内花王グループ

花王は、公正・公平な調達活動が行なわれているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を3年ごとに実施しています。調査は無記名で外部機関に委託して行なわれており、調査結果を踏まえて施策を実施しています。

2013年の調査結果より、2014年は「採否通知の徹底」「見積もり条件の充実」を進めました。また、「発注について」の課題には「発注精度の向上」などの改善に向けた取り組みを進めています。

お取引先懇談会を実施

グローバル

花王では、毎年サプライヤーとの情報共有、意見交換の場として「お取引先懇談会」を開催し、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。

また花王の海外主要関係会社においても、お取引先懇談会(Vendor summit)を開催し、サプライヤーとのパートナーシップの強化を図っています。

お取引先懇談会出席会社数の推移　(単位：社)

	国内開催	海外開催	合計
2009年	180	139	319
2010年	169	219	388
2011年	183	187	370
2012年	-	205	205
2013年	184	151	335
2014年	183	233	416

※ 花王(株)の決算期変更により、2012年度国内お取引先懇談会の開催はありませんでした。

お取引先懇談会

従業員研修や啓発を実施

国内花王グループ

花王では、新たに購買部門に配属された従業員11名に対し、「公正・公平」「遵法・倫理性」「社会的責任性」などの購買基本姿勢について教育しました。教育を通じて「ISO26000」や「国連グローバル・コンパクト」で求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題についての認識を持つようにしています。

Topics eco検定受験の推進

持続可能な開発のための教育※1として、2012年度より、購買部門の社員に対し環境社会検定試験®(eco検定※2)の受験推進を実施しています。現在、70%の社員がeco検定合格者となっています。

※1 持続可能な開発のための教育
持続可能な社会の実現に向けて、一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育を「持続可能な開発のための教育(ESD：Education for Sustainable Development)」といい、2002年に日本が国連に提案しました。2005年から2014年までの10年間を「国連持続可能な開発のための教育の10年」として、国際的に取り組んでいます。

※2 eco検定
環境に関する幅広い知識をもとに率先して環境問題に取り組む「人づくり」を通じて、環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざした検定試験。

サプライヤーとの連携【DMA】

持続可能な原材料の調達

グローバル

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権課題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、気候変動抑制については、CDPのサプライチェーンプロジェクトに参加し、主要なサプライヤーに、温室効果ガス排出量の開示と削減をお願いしています。また、サプライヤーとの協働により、物流合理化や調達物品の環境負荷削減に取り組んでいます。

特に、花王は事業が自然資本に依存していることを認識し、パーム油や紙等の調達に関しては原産地での森林破壊ゼロを支持します。また、中長期的には、原材料の徹底的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、グローバル化により顕在化してきた倫理的な課題にも配慮して、持続可能な調達を推進します。

具体的な活動としては、以下のような取り組みを進めています。

❶ 持続可能な認証原材料の調達

2014年に改訂した調達ガイドラインにおいて、森林破壊ゼロに向けた取り組みとして、パーム油、紙、パルプについて2020年までの持続可能な原材料の調達への切り替えをめざすことを宣言しました。

パーム油・パーム核油の調達においては、RSPOに加盟して関連工場のSC認証取得と認証油の調達を進めるとともに、2020年までの、原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達へ向けた取り組みを進めています。

紙とパルプの調達においては、2020年までに花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したもののみの購入をめざすとし、特にパルプは2020年までに原料木材産出地の追跡可能なパルプのみの購入をめざします。

➡詳細は「原材料調達ガイドライン」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/procurement_05.html
➡P28「エコロジー>生物多様性への対応」

❷ 天然植物資源の持続可能な調達

天然植物資源の枯渇や資源収奪の問題を認識し、ABS※を考慮した天然植物資源の調達を推進するとともに、原産地の自然環境やコミュニティに配慮しながら、調達ルートの多様化・変更や人工栽培品への切り替えに取り組んでいます。

❸ 化石資源への依存低下をめざした容器包装の取り組み

プラスチック容器のコンパクト化やつめかえ用パック化など、従来から進めているプラスチック使用量の削減とともに、植物由来ポリエチレンなどバイオマス素材を利用した容器包装の採用を進めています。

❹ グリーン購入

文具・事務用品など間接材の購入においては、環境省の唱えるグリーン購入を推進するため、「グリーン購入基準」を定め、環境に配慮した物品を優先的に購入しています。

※ ABS（Access and Benefit Shareing）
先進国や多国籍企業による原産国（主として途上国）の生物資源（遺伝子資源）の収奪問題などに対応し、遺伝子資源の探索・開発とその利用から生じる利益の公正・公平な配分のことで、生物多様性条約の目的の一つとして規定されている。

3つの重点領域ハイライト

エコロジー　コミュニティ　カルチャー

ダイバーシティ&インクルージョン

多様な人財※が能力を発揮できる企業になる

花王は、“よきモノづくり”を通じた豊かな生活文化の実現に貢献するため、ダイバーシティから生まれる活力で社会に新たな価値をもたらしたいと考えています。そのために、多様な社員がその能力と熱意を最大限に発揮できる職場づくりに努めています。

※ 花王にとって重要な資産である「人」の活性化・育成のさらなる推進に向けて、2015年より「人材」の表記を「人財」と改めました。

「人財活性化プロジェクト」

国内花王グループ

最も重要な資産である人財の活性化・育成・ダイバーシティを推進するために、2014年4月～12月に活動しました。

特に「女性」と「シニア」を重要なテーマとして掲げ、社員がやりがいを持っていきいきと働ける環境やしくみづくりへの提言を行なうことを目的とし、社長と社員が意見交換する「Genbaラウンドテーブル」を通じて課題を探りました。

「Genbaラウンドテーブル」は、美容部員を含む女性社員を対象に計22回、シニア世代の社員を対象に計5回実施しました。

多様な状況下の社員から寄せられた意見を踏まえ、女性向け施策の方向性を「キャリアの中断を短くする」「目指すキャリアを描く」「サステナブルに働く」としました。また、シニア世代向け施策を「モチベーションのさらなる向上」と「キャリア自律のサポート」としました。

当事者だけでなく、次の世代が花王でキャリアを積むことに対して、より前向きに将来への夢・希望を持ちやすくなるよう、多様なキャリアステージ・ライフスタイルに対する選択肢を増やすことをめざし、順次具体的な取り組みを進め、今後の人事施策につなげます。そして、定期的にその進捗を確認していきます。

外国人社員とともに成長する

グローバル

グローバルに同じ制度で運営

“よきモノづくり”をグローバルに推進するために、花王では業務の標準化や仕事の連携、企業理念「花王ウェイ」の共有化など一体運営を進めています。人事評価制度の標準化やタレントマネジメントプロセスによる異動・登用・研修等をグローバルに推進し、国籍によらない社員の活躍につなげています。

世界から人財を集める

「グローバルリーダー開発プログラム（GLDP）」はグループ各社から選抜されたメンバーが、より大きな視点から花王の経営課題を研究する世界共通プログラムです。ほぼ同数の日本人・外国人が活発な議論を行ない、経営幹部に提案します。参加者の交流や海外セッションが多様な文化を学ぶ機会にもなっています。

Topics

平成26年度「なでしこ銘柄」「健康経営銘柄」に選定

「なでしこ銘柄」は女性活躍推進、「健康経営銘柄」は健康経営に優れた企業を、経済産業省と東京証券取引所が上場企業の中から選定するものです。花王における仕事と家庭の両立支援や健康度向上のための取り組みが評価され、2015年3月に選定されました。

人財開発【DMA, LA10】

多様な社員一人ひとりの力を集めてより大きな力とするために、個人と企業が共に成長する環境と風土づくりを実践しています。

方針／体制

花王では、多様な社員それぞれが能力と個性を最大限に発揮して個の成果を追求することが、組織としての成果に結びつき、企業の総合力となっていくと考えており、そのような環境や風土づくりをめざしています。そのため、こうした考えを「人財開発基本方針」として定めるとともに、「ありたき組織像」「求められる人財像」を掲げています。また、これらを実現するために、社員の意欲や組織の目標などに応じた能力開発の機会をさまざまな手法で提供し、社員の成長を支援しています。

人財開発基本方針

花王グループが“よきモノづくり”を行い永続的に発展するために、組織的な創造革新の活動によって、全体としての効果・効率性が常に向上することを目指します。
（効果・効率性の追求）

創造革新の源泉は、限りなく叡智を発揮したいという全社員の熱意にある、という考え方に基づき、個々の尊厳が尊重され、自主性と多様性が活かされる環境をつくります。
（人間性の尊重）

社員一人ひとりが現場で思う存分叡智を発揮することが、花王グループの発展につながるよう、諸施策の改善に努め、創造革新の活動を通じて組織と個人の統合を図ります。
（統合への努力）

人財開発のビジョン

ありたき組織像

自由闊達な絶えざる革新の風土を継承し、透明性の高い役割責任体制のもとに花王ウェイに基づいた組織運営を行ないます。そして、常に変化に柔軟かつ機敏に対応する「生体機能的組織」の考え方に基づき、グループ全社が一体的に運営される組織を目指します。

求められる人物像

1. 挑戦意欲を持ち続ける人財
   Challenge & Change
2. 高い専門性を持つ人財
   Professional Capabilities
3. グローバルな視点を持つ人財
   Global Perspective
4. 協働により高い成果を生み出す人財
   Communication & Collaboration
5. 倫理観に富む人財
   Integrity

グローバル人財開発会議の実施

グローバル

花王は、世界中の労働市場でグローバルなキャリアを求める人財が集まる魅力的な会社となることをめざしており、国籍・人種・性別などにかかわらず優秀な人財が活躍できるよう、グループ一体となって取り組んでいます。

2013年からは、国・会社を超えた人財開発をより効果的に推進し、各地域の課題と取り組みについて従来以上にきめ細かく議論を行なうために、国内、欧米、アジアの各人財開発責任者を中心としたグローバル人財開発会議に加え、各リージョンで定期的にリージョン人財開発会議を行ないました。

従来から進めてきた人事制度のグローバル標準化を推進しつつ、それを活用しながらいかに各国の人財開発を進めていくか、花王グループの人財開発は新たなステージを迎えています。

研修でグローバル人財育成を推進

グローバル

花王グループではさまざまな研修プログラムを実施し、世界中の社員に教育機会を提供しています。会社が成長するためには、社員の成長が欠かせません。研修はグローバルな視点で共通化していくもの、地域や事業・職種等に対応するものを組み合わせ、多様なニーズに応えています。

グローバルビジネスをけん引するリーダー候補に対しては、世界的に著名なビジネススクールの協力のもと、集中的なトレーニングを実施しています。経営スキルの向上を図るとともに、人的ネットワークの構築や花王の理念でもある“よきモノづくり”の体現、価値の伝承を進めています。

一方、すべての社員に必要な「花王ウェイ」や「インテグリティ」の浸透、ビジネススキルの習得に関しては、各拠点に社内講師を養成し、スピーディできめ細かい展開を行なっています。

eラーニングやネットを使った語学学習等、新しい学習ツールも積極的に取り入れ、学びの「場」づくりを進めるとともに、社員自らが成長への努力を重ねることを積極的に支援しています。

人財開発 [DMA, LA10]

花王グループのグローバル共通研修プログラム体系

グローバル共通プログラム

- Global Leadership Development Program Ⅱ（グローバルリーダー開発プログラム Ⅱ）
- Global Leadership Development Program Ⅰ（グローバルリーダー開発プログラム Ⅰ）
- Management Program（マネジメントプログラム）
- CEO Program（海外トップマネジメント）
- Managing Human Performance Program（マネージング・ヒューマン・パフォーマンス）
- Training Program for International Assignment 海外赴任者研修
- Business Skill（ビジネススキル）
  - 〈思考〉 問題解決技法
  - 〈実行〉 ファシリテーション、ネゴシエーション、ダイバーシティ（異文化対応力）、仕事の進め方、プレゼンテーション、プロジェクトマネジメント
  - 〈知識〉 アカウンティング、マーケティング、経営戦略、ロジカルシンキング
  - 〈英語〉 英語基礎スキル（話す、聞く、読む、書く）英語実践スキル（プレゼン、ミーティング）
- Career Development（キャリア開発）
- New Employee Orientation（入社オリエンテーション）
- Integrity（インテグリティ）
- Kao Way（花王ウェイ）

グローバル部門専門プログラム

マーケティング
- マーケティング リーダー研修
- マーケティング Univ.（マスター）
- マーケティング Univ.（ベーシック）
- マーケティング 基礎 Ⅲ
- マーケティング 基礎 Ⅱ
- マーケティング 基礎 Ⅰ

販売（花王カスタマーマーケティング）
- グローバル キーアカウント研修
- トレード マーケティング エクセレンス（販売マーケティング研修）
- キーアカウント マネジメント エクセレンス（アカウント研修）
- カスタマーサービス エクセレンス（ECR研修）
- フィールドセールス エクセレンス（SA研修）
- マーチャンダイジング エクセレンス（ISM研修）

生産技術
- SCM研修
- 高圧塾
- グローバル テクノスクール
- グローバル エンジニア スクール
- 生産技術 基本講座

R&D
- 専門塾
- 主幹・主席フォーラム
- 基礎 科学塾
- フレッシュマン フォーラム

情報システム
- Stage 3
  - IT総合研修
- Stage 2
  - メソドロジー 研修（応用）
  - アプリケーション 応用研修
  - テクノロジー 応用研修
- Stage 1
  - メソドロジー 研修（基礎）
  - アプリケーション 基礎研修
  - テクノロジー 基礎研修
- 入社IT専門研修

社員1人当たり教育訓練費（連結）

2012年	2013年	2014年
56,000円	55,000円	63,000円

グローバルリーダーの育成

グローバル

国内外の花王グループ各社から選抜されたメンバーが、より大きな視点から花王の経営課題を研究し経営幹部に提案する世界共通プログラムとして、グローバルリーダー開発プログラム（GLDP）を実施。2014年は24名が参加しました。

GLDP修了式

人財開発 【DMA, LA10】

マネジャー研修をグローバルに展開

グローバル

世界各国で現場を束ねるマネジメント力を強化するため「マネージング・ヒューマン・パフォーマンス・プログラム」をグローバルに展開しました。アジア9名、欧米1名、日本14名の計24名の社内講師を育成し、グループの一体運営を進めています。国や組織の枠を超えて、社内講師が世界各国のグループ企業を支援しています。これからも受講者を拡大し、管理職層のスキルアップを図るとともに、グループ全体での協働取り組みも増やしていきたいと考えています。

花王シンガポールでの研修実施

「花王ウェイ」のグループ全体での共有と実践

グローバル

企業理念「花王ウェイ」を実践していくために、2006年から、海外関係会社を皮切りに国内・海外の全グループ会社を対象に、各職場での仕事と「花王ウェイ」のつながりについて議論する「花王ウェイワークショップ」を継続して実施しています。

また「花王ウェイ」の実践を職場のメンバーで認め合い、事例を共有する「花王ウェイリコグニションプログラム」を、各職場主導で実施しています。

さらに、花王ウェイに基づいたリーダーシップの育成をコンセプトに、新しいプログラム「花王ウェイダイアログ」を開発。2014年内に国内の部署から着手し、2015年内には国内80%の部署で実施する予定です。グローバルでも順次実施予定です。

小田原事業場での花王ウェイダイアログ

公正かつ納得性の高い評価と処遇

グローバル

花王は、社員の職務や役割、職責を明確にするとともに、一人ひとりの実績を公正に評価し、処遇・報酬に反映させるしくみづくりに注力しています。

2013年1月からは日本、欧米、アジアの一部の関係会社の評価制度を標準化し、同じ基準・しくみで公正な評価を行なうためのインフラを整備し、本格稼動しました。

また、2013年11月から能力・キャリア開発支援（SeEDS: Self Education & Development Scheme）を同じく各国グループ各社に順次導入し、運用を進めています。

このしくみは、社員一人ひとりの能力・キャリア開発意欲を高め、会社がそれを支援し、意欲と能力ある人財をグループ全体から発掘・育成・登用し、その力を最大限に発揮することをグローバルに実現することをめざしています。

評価制度と能力・キャリア開発支援を花王グループ人財開発の両輪として、個人の叡智の発揮が会社・事業の発展につながり、相互に成長していくよう、国・会社を超えた連携と協働を進めていきます。

ダイバーシティの推進と人権の尊重【10, LA1, LA12】

一人ひとりが最大限に力を発揮し合える職場づくりを進めるために、社員のダイバーシティと人権を尊重しています。

方針／体制

ダイバーシティから生まれる活力が事業の発展を支えるという認識に立ち、企業の総合力を高めるために、一人ひとりの多様な能力・個性・価値観を受容・結集できる組織の実現をめざしています。

意欲と能力ある社員に等しく道を開くように努める一方、多様な社員が活躍しやすい風土の実現をめざした啓発を継続しています。

特に日本国内でのダイバーシティ推進が必要と認識しており、性別・障がい・人権をテーマとした啓発月間を設けるとともに、本社および各拠点・グループ会社から代表を集めてEPS※啓発活動会議を定期的に開催し、グループ全体への浸透の徹底を図っています。

※ EPS(イコール・パートナーシップ)推進活動
ダイバーシティ&インクルージョンを理解し、お互いを尊重しあうマインドの醸成を通じて、一人ひとりの能力が一層発揮される、働きがいのある職場づくりをめざし、社員への意識と行動の定着に取り組んでいます。国内花王グループで2000年から活動を進めています。

EPS啓発活動会議

多様な人財の活躍

グローバル

一人ひとりを公正に評価しながら登用を進め、性別や国籍などを問わず、意欲と能力ある人財をグローバルリーダーへと育成しています。たとえば、グローバルリーダー開発プログラムの参加者は、その半数が海外関係会社の社員です。また、女性の参加も定着しています。

2014年末の管理職の女性比率は国内グループ会社10.1%、花王(株)8.5%です。職種や業務形態により差がありますが、花王(株)の一般消費者向け商品のマーケティング企画・商品開発・商品広報、消費者交流や広報・社会貢献などの分野では女性社員数は男性と同等以上であり、多くの女性が主導的立場を担い活躍しています。

さらに多様な人財が活躍する組織になるために、今後も取り組みを強化していきます。

花王(株)の状況(正社員)

	2012年	2013年	2014年
正社員(人)	6,052	6,172	6,664
男性	4,830	4,874	5,188
女性	1,222	1,298	1,476
女性社員比率(%)	20.2	21.0	22.1
女性管理職比率(%)	7.9	8.1	8.5
平均年齢(歳)	42.4	42.3	42.0
男性	43.6	43.5	43.1
女性	37.7	38.1	38.3
平均勤続年数(年)	19.8	19.4	19.1
男性	21.5	21.1	20.6
女性	13.5	13.1	13.8
新卒採用者数(人)	224	238	268
男性	156	170	193
女性	68	68	75
離職率(%)	0.5	0.4	0.6

花王グループ社員数(正社員)

	合計(地域別比率)	男性	女性	女性比率
合計	32,707人	15,367人	17,340人	53.0%
日本	21,852人(66.8%)	9,771人	12,081人	55.3%
	契約社員数2,161人※	427人	1,734人	
アジア・オセアニア(日本を除く)	7,086人(21.7%)	3,517人	3,569人	50.4%
欧米	3,769人(11.5%)	2,079人	1,690人	44.8%

※ 外数

ダイバーシティの推進と人権の尊重 【10, LA1, LA12】

女性社員の活躍のために

グローバル

女性の力が不可欠

1934年に家庭の主婦に向けた啓発やマーケティングを行なう長瀬家事科学研究所を設立し、そこで女性社員たちが活躍したことに始まり、花王では事業の推進に女性の力は不可欠という認識がすでに定着しています。2010年9月には、国連機関のUN Womenと国連グローバル・コンパクトによる女性の社会参画のための国際的なガイドライン「女性のエンパワーメントのための指針」に署名しました。

女性管理職の拡大

意欲・能力に応じた評価と登用の推進が、女性社員の役割拡大につながっており、2015年3月時点で常務執行役員に1名、執行役員に1名の女性が在任しています。

女性管理職比率も向上しており、海外グループ会社を含めたグループ全体では2014年12月時点で27.6%、日本国内の花王グループにおいて10.1%です。

花王グループにはさまざまな職場があり、女性を取り巻く課題も異なります。女性活躍の一層の加速のために、2014年に花王（株）では社員へのアンケートとヒアリングを行ない、性別による意識差の課題を探りました。また、花王CMKでは女性社員によるプロジェクトチームがヒアリングを通じて、女性営業職のさらなる活躍のためのアクションプランを策定し、提言を行ないました。

今後もグループ全体で、女性が働きやすい環境整備を進め、女性社員の活躍の場をさらに広げていくよう、一層努めていきます。

➡P9「非財務ハイライト>女性管理職比率（花王グループ）」

障がい者雇用の促進と活躍できる職場環境づくり

国内花王グループ

花王では、「障がいのある人もない人も共に働き、共に生きる社会を目指して　障がいある社員も働きやすく、働きがいのある職場環境をつくる」という基本方針のもと、通常職場と特例子会社での雇用を積極的に推進しています。

通常職場での取り組み

通常職場では、障がいのある社員が自分の障がい状況や希望する配慮事項を職場と共有できるように『障がい理解シート』を導入しました。2014年に聴覚障がい者用を公開し、2015年は肢体不自由者用を追加予定です。

また、新入社員に対して同じ障がいのある先輩社員が相談相手となる『メンター制度』を導入しました。

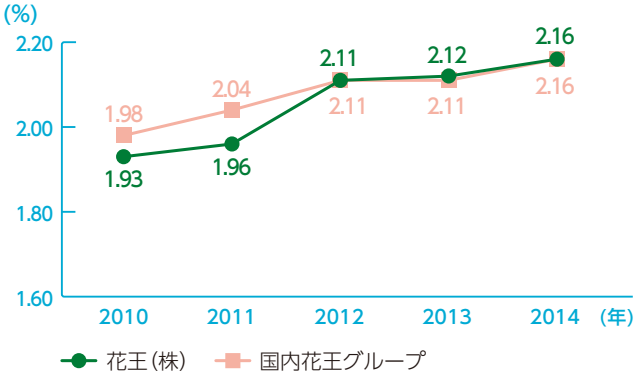
特例子会社での取り組み

特例子会社・花王ピオニー（株）は、2005年10月に障がい者雇用促進の目的で設立され、2015年1月現在、知的障がいのある社員19名を含む総勢22名が働いており、主に化粧品やパーソナルケア製品のセット梱包を行なっています。

全社で障がい者雇用への理解を深めるため、9月を啓発月間と定め、全社員向け啓発ニュースレターの発行や花王ピオニー見学を含む“障がいを知ろう”セミナーなどを行なっています。

今後も、雇用の拡大とともに、基本方針の実現をめざして取り組んでいきます。

花王グループ 障がい者雇用率※



2014年6月1日時点

※集計範囲
障がい者雇用義務のある国内関係会社9社（花王（株）、花王カスタマーマーケティング（株）、花王フィールドマーケティング（株）、花王プロフェッショナル・サービス（株）、花王サニタリープロダクツ愛媛（株）、花王ロジスティクス（株）、花王ビジネスアソシエ（株）、（株）カネボウ化粧品、カネボウ化粧品販売（株））および特例子会社花王ピオニー（株）

ダイバーシティの推進と人権の尊重 【10, LA1, LA12】

ライフキャリア開発支援と定年後の再雇用

国内花王グループ

花王では、社員のライフキャリア開発を支援するため、45歳を迎える社員を対象に「ライフキャリア・デザインセミナー」を実施し、自らの価値観の理解を通じて、自身のワークキャリアを主体的に考えるための機会を提供しています（2014年参加者数99名）。また50代後半には、定年後の生活設計支援を目的として、年金制度の解説や年金生活のシミュレーションなどを行なう「ライフプランセミナー」も開催しています（2014年参加者数341名）。

また、意欲と能力あるシニア層の積極的な登用、並びにその能力を遺憾なく発揮できる環境づくりをめざし、定年退職後に再雇用する「シニアパートナー制度」を導入しています。

今後も、あらゆる年齢層において、意欲と能力のある社員がいきいきと働きながら、事業に貢献できるような制度運用と環境づくりに努めていきます。

花王（株）再雇用者数推移

年	定年退職者数※	うち、再雇用者数	比率
2012	94人	55人	58.5%
2013	116人	64人	55.2%
2014	152人	116人	76.3%

※ 定年退職者数=定年退職者+再雇用者数

社員への人権啓発とハラスメント防止

国内花王グループ

ハラスメント防止のための社内ガイドラインとして「セクシュアル・ハラスメント防止のために」と「パワーハラスメント防止のためのガイドブック」をイントラネットに公開し、社員のための相談窓口も社内外に設けて体制を整えています。

また、毎年12月を人権啓発月間と定め、ニュースレターの配信やポスターの掲示などによる啓発活動を実施しています。2014年はマタニティハラスメントや同性間のセクシュアル・ハラスメントなどをテーマとしたニュースレターを発信しました。

ダイバーシティ尊重に関連する法規をまとめた10分類・68項目にわたる「自主点検シート」による自己チェックも毎年継続して実施しており、禁止事項の遵守はもちろん、努力義務事項についてもほとんどの項目で達成しています。

2014年は、花王カスタマーマーケティング（株）がチームリーダー以上の職制者およびBA職※1を対象としたパワーハラスメント啓発や、取締役・執行役員向けに社外相談ルームのカウンセラーを講師に招いた勉強会を実施し、カネボウ化粧品が全社員を対象に人権研修を実施するなどの取り組みを行ないました。職場におけるLGBT※2の理解促進にも取り組んでおり、国内主要関係会社の人事担当管理職を集めた勉強会を開催しました。

※1 BA職
ビューティアドバイザー職。店頭でお客さまのお肌のご相談をうかがい、カウンセリングアドバイスをしながら化粧品を販売する。

※2 LGBT
レズビアン（女性の同性愛者）、ゲイ（男性の同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（生まれた時に医学的・社会的に与えられた性別とは異なる性のあり方を生きる人）の頭文字を取った、性的マイノリティを表す総称。

社員との対話の推進

花王では、良好な社員関係は会社の最も重要な資産の一つという認識のもと、さまざまなコミュニケーションの機会を確保するとともに、定期的な社員意識調査を実施しています。

方針／体制

経営層と社員との相互理解の深化

花王は、経営層と社員との相互理解を図り、グループ全体の一体感の醸成と、社員のモチベーションの向上をねらいとして、グローバルでさまざまな対話の機会を設けています。

国内では、社長をはじめとする経営層から社員代表に対して事業状況や人財開発の重点課題などを説明し、社員からの質問にも答える意見交換の場を年2回設けています。2011年度以降は「花王フォーラム」として、参加対象を国内グループ会社に順次拡大しています。社員一人ひとりがコミュニケーション活動により積極的に参画できるよう、しくみづくりにも継続的に取り組んでいきます。

そのほか、国内各社・各事業場では「労使懇談会」や「厚生委員会」を開催し、海外においては欧州地域での「花王ヨーロピアンフォーラム」や中国での「工会」など労使の対話の場を設けています。

花王フォーラム

社員意識調査「Find」による働きがいのある職場づくりの実現

グローバル

花王は、自社の組織風土・機能が持つ強みを伸ばしつつ、課題を見つけて改善することで、働きがいのある職場づくりを実現することを目的として、社員意識調査「Find」を2年ごとにグローバルで実施しています。調査結果の分析を通じて各部門が固有課題の解決に向けたアクションプランを作成し、その実践により職場環境の改善や風土づくりを推進しています。

2014年は第7回の調査を実施し、90%を超える高い回答率となりました。今回の花王グループ全体で取り組むアクションプランのグローバル共通テーマは「全員参画で組織運営の基本を徹底する」としました。

花王における組織運営は、ラインによるマネジメントが基本です。この共通テーマには、各組織において、マネジャーとメンバーが組織の目標や行動指針を共有し、日々のコミュニケーションを密にして、全員参画で職場改善や人財育成をめざすというねらいがあります。

2015年はアクションプランの推進に注力し、花王グループ全体の組織力強化に向けて全社員一丸となって取り組んでいきます。

「Find」の調査項目

会社・組織の機能

組織の機能
1. リーダーシップ
2. 組織と目標
3. 企業倫理 / コンプライアンス

会社の評判
4. 顧客・品質志向
5. 目標達成志向

仕事の機能

仕事の質 / 仕事を支える環境
6. チームワークとコミュニケーション
7. 仕事の進めやすさ

社員の側面

公平
8. 個の尊重

報酬
9. 人財育成の仕組み・風土
10. 成果と処遇

↓

会社 / 仕事への満足（エンゲージメント）
●仕事を通じた満足　●コミットメント　●会社へ貢献する行動

↓

アクションプラン

ワーク・ライフ・バランス【LA3】

仕事と生活の調和がとれるように、社員と会社が協調しながら、働きやすい職場環境づくりに努めています。

方針／体制

経営層と社員との相互理解を推進

「ワーク・ライフ・バランス」をダイバーシティ&インクルージョンを推進するための環境整備の要素のひとつと位置づけています。

各国の事情に合わせ、さまざまな支援制度の充実など、働きやすい職場づくりを推進しています。たとえば仕事と育児・介護の両立においては、制度がきちんと使える環境の実現のために、啓発月間を設けて啓発活動を行ないながら、EPS啓発活動※会議を通じて全社員への浸透の徹底を図っています。

これからも社員一人ひとりの意識啓発と職場風土の醸成に努めます。

※ EPS啓発活動
➡P86「カルチャー>ダイバーシティの推進と人権の尊重>方針／体制」

両立支援制度

国内花王グループ

花王では、育児や介護をしている社員を支援するため、さまざまな両立支援制度を用意しています。また、社員が制度を理解し使いやすくなるように、社内外の制度やお役立ち情報をまとめた「仕事と家庭の両立支援ガイドブック」を作成しイントラネットで公開しています。

仕事と生活の両立支援体制

両立支援のための主な制度	●育児・看護(介護)休職 ●看護(介護)休暇	●勤務時間短縮 ●時間外勤務免除 ●深夜勤務免除	●育児時間 ●企業内託児施設 など
両立支援のための組織風土づくり	●両立支援ガイドブック ●育児休職前・復職前面談 ●育児休職報告書 ●育児休職者復職前セミナー	●Father & Motherミーティング ●マネジャー向けeラーニング ●介護ハンドブック ●介護セミナー	●啓発ポスター・パンフレット ●ニュースレター など

ワーク・ライフ・バランス [LA3]

仕事と育児の両立支援

国内花王グループ

仕事と育児を両立するための制度整備とともに、社員一人ひとりが能力を最大限発揮できるよう、さまざまな支援を行なっています。

出産～復職

育児休職からのスムースな復職を支援するため、上司との休・復職前面談や休職中の定期的な近況報告のしくみ（育児休職報告書）を導入しているほか、復職前セミナーを毎年開催しています。本セミナーでは、これからの子育てやキャリアについてパートナーと一緒に考えてもらえるよう、休職中の社員には復職に必要な準備や心構えを学ぶプログラム、配偶者には家庭や職場での協力関係を築くコツを学ぶプログラムを提供し、社内外を問わずパートナー同伴での参加を推奨しています。

また、男性社員も育児休職が取得しやすいよう、新たに子が生まれた社員とその上長に啓発リーフレットを配付しています。男性社員の意識や職場の風土に関するアンケート調査も定期的に実施し、より良い環境づくりに活かしています。

職場の理解は進んでおり、育児休職取得率は、女性はほぼ100%、男性も約38%と高い割合を維持しています。

復職後

「育児は男女ともに協力しあうもの」という方針のもと、子育て中の社員同士によるランチミーティングや、先輩ワーキングマザーを囲んでの座談会、社外講師による男性社員向けの「ワーク・ライフ・マネジメント講座」など、“F&M（Father & Mother）ミーティング”と冠したさまざまなイベントを開催し、新たな気づきや社員同士の出会いの場を提供しています。

育児支援制度利用実績（国内花王グループ）

		2012年	2013年	2014年
育児休職取得者数（人）	女性	581	647	638
	男性	78	75	106

F&Mミーティング
（男性社員向けの「ワーク・ライフ・マネジメント講座」）

企業内託児施設

Topics 日本の人事部「HRアワード」企業人事部門 優秀賞を受賞

花王は、先進的な「仕事と育児の両立支援」に関する取り組みが認められ、日本の人事部「HRアワード2014」にて、企業人事部門優秀賞を受賞しました。

「HRアワード」は人事、人材開発、労務管理などの各分野において、積極的な活動・挑戦を続けている企業人事部などを表彰することで、人事や人材開発に関わるすべての企業や個人のレベルアップと活性化の実現を目的としており、企業の経営者や管理職、採用・育成ビジネスや人事サービスを展開する企業の社員によるアンケート結果（2014年は2,462件）をもとに決定されました。

「HRアワード2014」表彰式

ワーク・ライフ・バランス [LA3]

仕事と介護の両立支援

国内花王グループ

社員の介護実態の調査結果に基づいて中期的な取り組み計画を立案し、介護相談体制の強化や職場風土啓発など、介護者の負担が大きいメンタル面からのサポートを中心に、仕事と介護の両立支援のしくみづくりを推進してきました。

毎年継続的に、介護セミナーの開催（2014年は全国5カ所にて開催、参加者のべ275名）、ニュースレターによる介護情報の発信、新任マネジャー向けのケーススタディ研修などを実施しています。2014年は、全国の人事担当者を集め、介護問題の理解と対応力強化を目的とした研修会も開催しました。

これからも、花王の介護支援方針である「一人ひとりが自ら主体的に行動できる」「お互いさま意識を持って助け合える」環境づくりをめざしていきます。

メリハリのある働き方の推進

国内花王グループ

“仕事と生活の調和”の観点のみならず、効果・効率的な仕事の仕方の実現や社員の健康増進といったことも含め、メリハリある就業マネジメントの実現に取り組んでいます。

社員一人ひとりの主体性を尊重し、計画的かつ柔軟にセルフマネジメントすることを基本としつつ、「就業マネジメントシステム」により入退場時間・就業時間・残業申請・休暇申請等を上司と本人が共有することで、長時間労働や労働時間の偏重等のない適切なマネジメントに努めています。

2014年には、仕事の仕方を見直す取り組みをプロジェクトとしてスタートしました。

また、社員からワーク・ライフ・バランス標語を募集し、最優秀賞に選出された標語を使って作成したオリジナルポスターを、全国各地の花王グループ拠点で掲示するなど、職場の意識啓発にも努めています。公益財団法人日本生産性本部が行なった「第8回ワーク・ライフ・バランス大賞」の標語部門では、花王グループ代表作品が3年連続の入選を果たしました。

花王（株）有給休暇取得率

	2012年	2013年	2014年
取得率（%）	67.8	71.0	70.9

事業成長加速のための組織変革をめざし、労働生産性の向上や活力創出に一層注力していきます。

ワーク・ライフ・バランス標語のオリジナル啓発ポスター

社員の健康と生活への配慮

「花王グループ健康宣言」に基づき「KAO健康2015」に向けて健康づくり支援を積極的に推進しています。

方針／体制

花王は、世界の人々の「清潔」「美」そして「健康」を願い、豊かな生活文化の実現に貢献する企業です。公私ともに充実した日々を過ごすベースとなるのは「健康」であり、健康な社員と家族があってはじめて会社の発展があると考えています。

2008年には「花王グループ健康宣言」を発表しました。ここでは、会社や健康保険組合が本人の健康づくりを積極的に支援することを明示し、社員に同僚や家族も巻き込んで健康づくりを実践してほしいというトップメッセージを「5つの取り組み」とともに示しています。

花王グループ健康宣言

1. 生活習慣病対策

- 予防のための保健指導
- 健康保険組合と連携した保健指導
- 生活習慣改善への支援
- 健康マイレージプログラム導入
- 春のウオーキングチャレンジ実施

食生活改善キャンペーンを通じて
生活習慣を考える

2. メンタルヘルス対策

- 問診システム導入による早期対応体制の構築
- マネジャーのメンタルヘルス対応研修
- 一般社員向けのメンタルセルフケア研修
- 社内外カウンセリング体制の構築
- 花王こころの通信配信（毎月）

3. 禁煙対策

- 「花王グループ禁煙マラソン」開催
  2014年 57人参加／25人禁煙達成（達成率前年比9%増）
- 喫煙対策実態調査実施
- 禁煙推進プランの策定

全社で世界禁煙デーに禁煙を啓発

4. がん対策

- 法定健診にがん検診項目を付加

5. 女性の健康対策

- 啓発と婦人科検診の受診率向上

働く女性の心と体をテーマに
女性とともに男性も学ぶセミナー

社員の健康と生活への配慮

健康意識(ヘルスリテラシー)の高い社員づくりをめざして

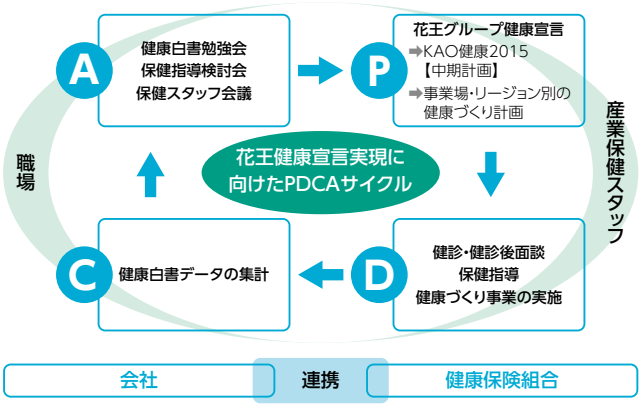
国内花王グループ

花王では、「ヘルスリテラシーの高い社員を増やす」ことを目標に、健康づくり活動の「見える化」を進め、PDCAサイクルで社員の健康度を上げていく「健康経営」に取り組んでいます。

花王の考えるヘルスリテラシーの高い社員とは、以下の通りです。

1. 健康診断結果を見て、自分の生活習慣を見直し改善を図る社員
2. 産業医だけでなく、必要に応じて健康データを見てアドバイスをもらえる医師を持つ社員
3. 自分の心の状況を確認し、必要に応じて相談できる人を持つ社員

健康づくりマネジメントシステム



健康づくりマネジメントシステム

「見える化」の取り組みとしては、2009年から前年度の健康データ(問診、健診、就業、医療費、疾病等)を統計的にまとめて全国16の健康相談室に提供しています。各健康相談室では担当エリアの健康データをもとに、保健事業計画を立案、実施してきました。各種健康データの分析と対策立案を学ぶ健康白書勉強会は2009年から開催しています。

健診を中心とした健康づくりサイクル

社員のヘルスリテラシー向上のために、健診を中心とした健康づくりサイクルを提唱しています。

健康増進のためのプログラムを複数設けることで、社員が日々の生活の中に健康づくり活動を取り入れられるよう工夫しています。

① 日々の生活習慣を記録するWeb-QUPiO(クピオ)※
(参加者5,376名)
② 健康づくりの成果をポイント化する「花王 健康マイレージ」制度(参加者9,120名)
③ 健康づくりプログラム「春のウオーキングチャレンジ」の実施(参加者2,323名)

※ QUPiO
100万人分におよぶ経年の健診データの集積と、東京大学との共同研究で得られた知見をもとに、健康増進・生活習慣病予防をサポートするためのプログラム

就業上の安全配慮措置の一層の強化

国内花王グループ

社員がより良い健康状態で、最大の力を発揮して仕事に取り組めるようにするための支援として、2014年より健診結果による就業管理基準を導入しました。健診後に産業医は基準に基づき就業区分を判定し、適正な就業上の措置を行ないます。社員は、定めに従いできるだけ早く健康状態を改善します。会社は、産業医の意見を参考に就業管理を行ない安全配慮義務を履行します。

特定保健指導の推進

国内花王グループ

2008年度に始まった特定健診・特定保健指導は、その実施が健康保険組合に義務づけられていますが、花王では花王健康保険組合からの委託を受け、花王(株)が特定保健指導を推進しています。

会社の看護職とヘルスケア・コミッティー(株)の専門職が協力して社員の特定保健指導を行なっています。また特定保健指導対象者への新たな流入を防ぐため、プレメタボ層への特定保健指導も実施しています。その結果、2008年度には男性は28.5%、女性は8.3%あった対象者が、2014年には男性は19.7%、女性は5.8%と改善してきています。

社員の健康と生活への配慮

メンタルヘルス対策の推進

国内花王グループ

こころの健康づくりとして、厚生労働省が提唱する4つのケア（セルフケア、ラインによるケア（上司によるケア）、事業場内産業保健スタッフによるケア、事業場外資源によるケア（外部の専門機関や専門家によるケア））を推進しています。

2014年はラインケアとして、企業がメンタルヘルス対策に取り組む意義と管理職の役割、働く人のメンタルヘルスの現状と動向を学ぶ、メンタルヘルス管理者研修（ベーシックコース）を6回実施、部下とのコミュニケーションの取り方や復職してきた部下への対応をロールプレイによって学ぶメンタルヘルス管理者研修（アドバンスコース）を4回開催しました。

さらに、セルフケアとしては、一般的なセルフケア研修のほかに、アサーション※1やエゴグラム※2を用いた研修を実施しています。

また、看護職と社内カウンセラーが合同で行なう「COCOOHN（コクーン）会議」を開催し、メンタルヘルス支援者同士の連携を深めました。さらにメンタルヘルス対策会議を開催し、メンタルヘルス課題を全社で共有し、その対策を打つため、人事担当者と看護職・カウンセラーが合同で協議しました。

※1 アサーション
相手の気持ちや考えを尊重しつつ、自分の気持ちや考えをその場に適切な表現で相手に率直に伝えるためのコミュニケーションスキル

※2 エゴグラム
アメリカの心理学者J. M. デュッセイが開発した自己分析図（性格分析法）。自分の性格傾向をよく知ることで、その特性を活かしたり、対人関係でのトラブルのパターンを明らかにすることで、よりよい社会生活を送ることを目的としている

Topics 「政府の成長戦略で進める健康経営」で澤田社長が講演

2014年9月、東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホールにて、東京大学政策ビジョン研究センター主催のシンポジウム「政府の成長戦略で進める健康経営〈健康投資を促す仕組みを産官学で創造し、運営する〉」が開催され、「産官学の連携による健康経営」への提言として、産業界（産）から花王の澤田社長が、国・地方公共団体（官）から財務省主計局および静岡県健康福祉部が、そして学界（学）から東京大学政策ビジョン研究センターがそれぞれの角度から見た「健康経営」について講演を行ないました。

澤田社長からは、社会に貢献しつつ利益ある成長を続けていくためには、商品・サービスを通じたお客さまへの貢献はもちろん、社員とその家族にも同じだけの還元がなければならないこと、社員のさらには社会の「健康力」を高めるために「花王グループ健康宣言」を発行していること、社員の主体的な健康づくりを応援するために「健康マイレージ」や「QUPiO」といったしくみを構築していることなどを説明しました。

東京大学伊藤国際学術研究センターで講演する澤田社長

労働安全衛生・保安防災【LA6】

事業活動に伴う災害や事故から社員の安全を守るため、RC(レスポンシブル・ケア)の基本方針に基づいて労働安全衛生、保安防災活動を行なっています。

方針／体制

花王は「労働安全衛生」「保安防災」の活動方針を、花王レスポンシブル・ケア方針に明確に定めています。

事業活動に伴う災害や事故から社員を守り、安全で安定した操業を維持するため、災害・事故の発生状況や原因を把握・分析し、再発防止に役立てています。また、社員・非正規社員を問わず、入社時の教育や配置先での安全教育を徹底することで、労働災害防止と個人の安全意識の向上に努めています。

日常の労働安全衛生・保安防災活動は、RCの推進体制に基づいて行なっています。特に、災害・事故が発生した場合には、海外グループ会社を含めた社内緊急事態連絡網を通じて把握するしくみを構築しています。さらに、大規模な地震などが発生した場合には、社長を本部長とする緊急事態対策組織を立ち上げ、人命を第一とした初動対応をはじめ、事業継続計画(BCP)などの対応をグループ一丸となって行ないます。

花王レスポンシブル・ケア方針および推進体制や活動については、下記のページに掲載しています。
➡P113「レスポンシブル・ケア活動」

2014年の目標と実績

グローバル

花王グループの重点目標は、「労働災害の撲滅」「快適な職場環境の形成と従業員の健康増進」「安全で安定な操業の維持(保安上の事故撲滅、防災活動)」の3点を掲げ、推進しました。

具体的には、「労働災害の撲滅」として、機械・作業のリスクアセスメントの推進、設備安全対策とルールの周知・遵守による設備災害の防止、階段などでの転倒転落防止、業務上の交通事故の防止などに注力し活動しました。

「快適な職場環境の形成と従業員の健康増進」としては、作業環境管理強化、健康診断の確実な実施とフォロー、健康促進の活動開催、化学物質のリスクアセスメントを実施しました。

「安全で安定な操業の維持(保安上の事故撲滅、防災活動)」としては、変更管理※の徹底、化学設備のセーフティアセスメント、定期点検、パトロール強化、防災訓練の充実とセキュリティ強化を項目に挙げて、各推進部門においてさらに詳細な実行内容と計画を策定して活動しました。なお2014年より、国内・海外生産事業場における協力会社の目標と実績についても、対象としています。

※ 変更管理
変更に伴うリスクを事前に想定して対策を講じ、障害や不具合、事故などを防止するマネジメント活動のこと。

労働安全衛生・保安防災の目標と実績

重点推進目標	対象部門	指標		2014年 目標	2014年 実績	2013年実績
労働災害の防止	国内全部門 海外生産事業場 (社員+派遣社員)	休業災害被災者数(人)	花王グループ	0	33	32
		全災害度数率※1	花王グループ	2.12以下	2.67	−
		全災害度数率※1	国内花王グループ	1.08以下	1.75	1.7
	国内・海外生産事業場 (協力会社)	休業災害被災者数(人)	花王グループ	0	7	9
		全災害度数率※1	花王グループ	1.01以下	2.36	−
		全災害度数率※1	国内花王グループ	1.56以下	2.41	1.3
交通事故の防止	販売、配送	過失100% 人身事故(件)	国内花王グループ	0	17	20
		過失0%以外百台率※2	国内花王グループ	7.2以下	8.67	7.9
事故	国内全部門 海外生産事業場	火災・爆発・漏洩など(件)	花王グループ	0	6	2

※1 全災害度数率：100万のべ実労働時間当たりの労働災害による不休業災害を含む全ての被災者の数
※2 過失0%以外百台率：過失0%以外の交通事故件数(件)／保有車両台数(台)×100

労働安全衛生・保安防災 【LA6】

2015年の目標

グローバル

活動目標は、海外生産事業場を含めた花王グループで労働安全衛生・保安防災の目標を設定し、活動を推進します。

今後、海外グループ会社の事故・災害データを収集する範囲を広げ、事故・災害の発生防止に努めます。

これまでの休業災害ゼロ目標は重篤災害(死亡、機能損失)ゼロとして残し、新たに活動効果を計りやすい度数率を指標に加えました。

2015年の目標

重点推進目標	対象部門	指標		2015年目標
労働災害の防止	国内全部門 海外生産事業場 (社員+派遣社員)	死亡、機能損失災害※1(人)	花王グループ	0
		度数率※2	花王グループ	0.39以下
		全災害度数率※3	花王グループ	1.92以下
		全災害度数率※3	国内花王グループ	1.00以下
	国内・海外生産事業場 (協力会社)	死亡、機能損失災害※1(人)	花王グループ	0
		度数率※2	花王グループ	0.41以下
		全災害度数率※3	花王グループ	0.95以下
		全災害度数率※3	国内花王グループ	1.40以下
交通事故の防止	販売、配送	過失100% 人身事故(件)	国内花王グループ	0
		過失0%以外百台率※4	国内花王グループ	6.6以下
事故	国内全部門 海外生産事業場	火災・爆発・漏洩など(件)	花王グループ	0

※1 死亡、機能損失災害：負傷が治った時に障害(障害等級5級以上)が残る災害
※2 度数率：100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数(休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの)
※3 全災害度数率：100万のべ実労働時間当たりの労働災害による不休業災害を含む全ての被災者の数
※4 過失0%以外百台率：過失0%以外の交通事故件数(件)／保有車両台数(台)×100

労働安全衛生・保安防災 [LA6]

労働災害発生状況

グローバル

2014年の国内花王グループと海外生産事業場の被災者総数は159人で、そのうち、休業は33人でした。

国内花王グループ（派遣社員を含む）の労働災害による被災者総数は、2013年の97人から2014年は88人に減少しました。そのうち休業になった被災者数は、19人から14人（うち、4人は交通事故過失0%の休業）になりました。

被災の主な要因のトップは、2013年同様、不注意や確認不足による「転倒・転落」34人、次いで「切れ・こすれ」「動作反動」によるものが各10人ずつで、半数以上を占めました。

製造設備などの作業に携わる国内生産技術・研究開発部門の被災者数は、2013年の19人から18人（うち、休業は2人から0人）に減少しました。

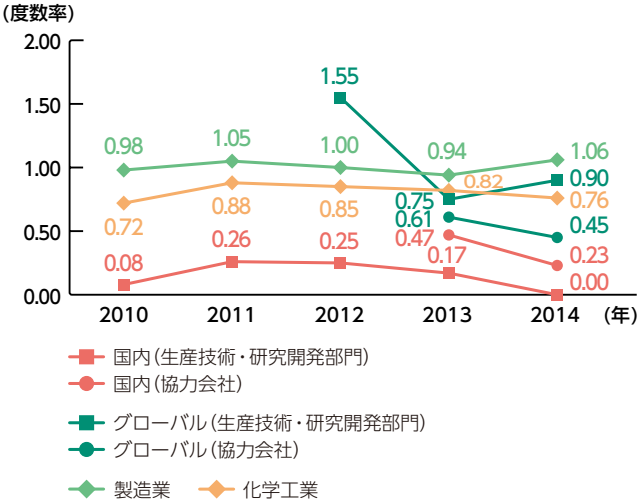
海外の生産技術・研究開発部門の被災者数は2013年の41人から71人（うち、休業19人）に増加しました。

海外の主な被災要因は、「有害物等との接触・高低温の物との接触」が24人、次いで、「切れ・こすれ」9人、「はさまれ・巻き込まれ」7人で、半数以上を占めており、作業のリスクアセスメントを推進していきます。

グローバルでの生産技術・研究開発部門の度数率は0.90、強度率は0.02でした。

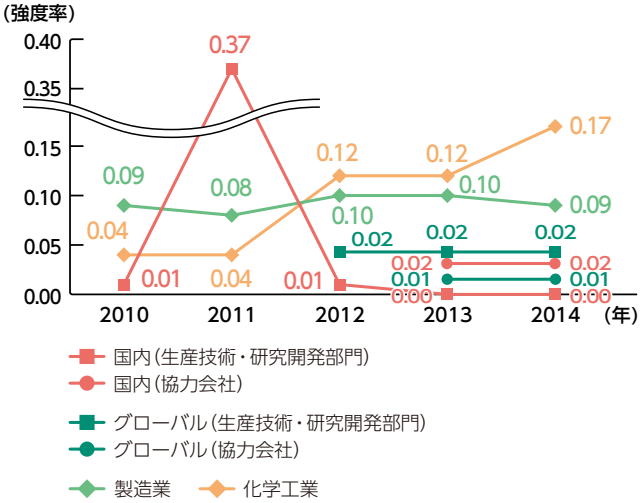
協力会社の労働災害は、グローバルでの被災者総数が、2013年の26人から37人（うち、休業7人）に増加、度数率が0.45、強度率が0.01でした。

生産技術・研究開発部門の度数率★



度数率：100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数（休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの）
※ 集計期間はすべて1-12月
※ 化学工業と製造業の数値は、厚生労働省の「平成26年労働災害動向調査」より

生産技術・研究開発部門の強度率



強度率：1,000のべ実労働時間当たりの労働損失日数
※ 集計期間はすべて1-12月
※ 化学工業と製造業の数値は、厚生労働省の「平成26年労働災害動向調査」より

大規模災害に備えた訓練

国内花王グループ

国内花王グループでは、各事業場単位での消防訓練・避難訓練以外に、大規模災害に備えた国内花王グループ全体での下記訓練を実施しています。

1. 大規模地震が発生した場合に、国内全社員の安否の確認をサポートする安否確認システム（ウェブサイト）への入力訓練

地震発生後に確実に入力できるよう、3月と9月に年2回の訓練を継続して実施しています。年々意識は向上しており、これからも訓練を継続していきます。

2. 防災対策組織による、安否確認システムのデータ確認・集計および被災状況報告などを、衛星携帯電話や社内災害用電子掲示板を使用して通報する全社通報訓練

首都直下型地震や南海トラフ地震等、全国で発生の可能性がある大規模地震を想定し、2014年も、東京に本部を設置し被災地からの情報を収集する訓練を5月に、東京が被災して関西で情報収集する訓練を10月に実施しました。

なお、まだ訓練に参加できていない事業場があるため、全国を4つに区分し、全国の事業場が参加できるよう、計画的に被災想定地区を変えて訓練を実施します。

労働安全衛生・保安防災 【LA6】

安全防災の監査

グローバル

2014年は9月に中国の葫芦島錦星鋳造材料有限公司の現地工場の安全防災監査を実施し、安全防災全般の実施状況を確認しました。

確認の結果、現場における情報のまとめや緊急事態の行動要領が明確に文書化されていないものがあったため、体制や規程(マニュアル類)等の整備を行なうこととしました。

また、人財育成の一環として、ほかのアジア各国にある化学品の工場から安全防災監査に監査員として参加することを提案し、各工場における安全防災レベルの向上を図っています。

小規模な事故(火災・漏洩)の発生について

グローバル

国内外で、6件の小規模な事故が発生しました。

<国内>
- 小火2件(試薬廃棄作業時に発火、スプレー洗浄剤使用時に引火)
- 漏洩1件(配管フランジのパッキン劣化で漏洩)

<海外>
- 小規模爆発1件(電気集塵機)
- 小火1件(循環ポンプ出口締切で漏れた熱油が発火)
- 漏洩1件(原料コンテナが落下して漏洩)

小火に対しては作業管理の強化と作業手順遵守の徹底、小規模爆発に対しては設備の改善、漏洩に対してはガスケット選定基準の見直しおよび流出防止策を実施します。

保安・防災の強化

国内花王グループ

生産技術部門では、リスクマネジメントの強化として地震対策を推進しています。2014年も耐震診断・補強、液状化対策、津波対策、設備の地震連動停止などの対策を実施しました。

設備の地震連動停止対応では、追加計画を含む192設備の対応や、タンクの漏洩防止の緊急遮断弁対応が完了しました。

また、他社の化学プラント事故を受けて行なっている、重合・発熱反応設備の安全対策強化では、「適切な運転管理」「通報の徹底」「消防隊への資料充実」を掲げ、マニュアルを整備し、和歌山工場および鹿島工場で運用を開始しました。今後、海外工場へ展開していきます。

労働安全衛生・保安防災 【LA6】

高圧ガス保安検査・監査・査察

国内花王グループ

和歌山事業場では、高圧ガス保安法の認定保安検査実施者※の認定を受けており、毎年自社の保安検査・保安監査・保安査察を実施しています。なお2015年は認定保安検査実施者認定の更新の年に当たり、更新に向けての準備を行なっています。

他事業場の高圧ガス設備は、外部の検査機関による保安検査を実施しています。保安監査、保安査察は自社で実施し安全操業に努めています。

※ 認定保安検査実施者
高圧ガス保安法に基づき、特定施設が技術上の基準に適合しているか否かについて、運転を停止することなく自ら保安検査を行なうことができる者または運転を停止して自ら保安検査を行なうことができる者として、経済産業大臣が認定した者

コーポレート・ガバナンス【34,38,39,40,41,42,45,51,52,53】

企業価値の継続的な向上をめざし、経営体制と内部統制システムの整備・維持に努めています。

方針／体制

当社の基本的な考え方

花王は、経営計画の達成および企業価値の継続的な増大をめざして、迅速で効率が良く、健全で透明性の高い経営が実現できるよう、経営体制および内部統制システムを整備・運用し、必要な施策を実施していくことが、当社のコーポレート・ガバナンスに関する取り組みの基本的な考え方であり、経営上の最も重要な課題のひとつと位置づけています。株主をはじめとするステークホルダーからの要請、社会動向などを踏まえて検証を毎年行ない、適宜コーポレート・ガバナンス向上に向けた必要な施策を実施しています。

体制の概要

当社では、監査役会設置会社というガバナンスの枠組みの中で、監督と執行の分離を進めていく体制として、執行役員制度を導入しています。2015年3月の定時株主総会終結後も、社外取締役3名を含む取締役6名（男性6名）、社外監査役3名を含む監査役5名（男性4名、女性1名）の体制を継続し、執行役員体制は、専任の役付執行役員4名を含む執行役員26名（男性24名、女性2名）となりました。社外取締役3名中2名および全社外監査役は、経営陣から独立した中立性を保った独立役員です。取締役会の審議の透明性の向上等を目的とし、2014年3月の定時株主総会後から、独立社外取締役が取締役会の議長を担っています。取締役および執行役員の任期は1年です。

取締役会

2014年12月期において開催された取締役会は臨時取締役会を含めて15 回であり、2014年12月期末における社外取締役の平均出席率は95.0%、社外監査役の平均出席率は100%となっています。社外取締役に対しては、取締役会における充実した議論に資するため、取締役会の議題の提案の背景、目的、その内容等につき、取締役会の開催前に、必要に応じて、取締役会の事務局より充分な説明が行なわれています。

報酬諮問委員会と選任審査委員会

指名委員会等設置会社における報酬委員会および指名委員会と同様の機能を果たす機関として、取締役・執行役員報酬諮問委員会および取締役・執行役員選任審査委員会（2015年5月に「取締役選任審査委員会」に改組しました）を設置しています。

《取締役・執行役員報酬諮問委員会》

社内の報酬制度および各役位の職責に関する委員の理解を深めるために取締役会会長（2014年3月28日開催の取締役会以降、不在となっています）および全代表取締役を、独立した客観的な視点を取り入れるために全社外取締役および全社外監査役を委員とし（男性8名・女性1名）、議長は互選により選出しています。同委員会は、取締役および執行役員の報酬制度や報酬水準について意見を求め、審査を実施するもので、少なくとも年1回の役員報酬改定時期に開催しています。その審査結果については、取締役会にて報告するものとしています。2015年2月には、全委員の出席による同委員会が開催され、取締役および執行役員に対する現行の報酬制度と報酬水準について妥当であるとの審査結果が2015年3月に開催された取締役会にて報告されています。

《取締役・執行役員選任審査委員会》

独立した第三者の客観的な視点を取り入れるため、全社外取締役および全社外監査役だけで構成し（男性5名・女性1名）、議長は互選により選出しています。同委員会は、取締役（代表取締役を含む）と執行役員（役付執行役員を含む）の新任および再任の際に、その適正さにつき、事前に審査を行ない、取締役会に意見具申をするものです。なお、会長・社長は、審査のために必要かつ充分な検討資料（審査対象者に関する資料のほか、取締役等の担当区分を含む新経営体制の概要を含む）を同委員会開催前に各委員に提出し、審査の充実を図っています。

2015年3月の定時株主総会における取締役およびその後の取締役会における代表取締役・役付執行役員・執行役員の選任に際しては、それに先立ち全委員が出席し同委員会が開催され、取締役および執行役員の新任・再任について適正であるとの意見を2015年2月に開催された取締役会にて報告されています。なお、2015年5月開催の取締役会の決議により、委員会はその審査対象を取締役に変更し、「取締役選任審査委員会」に改組しました。

監査役の機能強化に向けた取り組み状況

監査の実効性の向上および監査機能の強化のため、2013年3月の定時株主総会より、社外監査役1名を増員し、当社の経営陣から独立した中立の存在である3名の社外監査役を含む5名の監査役は、代表取締役との定期的な意見交換会、取締役会、経営会議等の重要会議への出席、国内グループ会社の監査役との定例連絡会議のほか、内部監査部門および会計監査人との情報交換、さらに社内各部門および子会社などへのヒアリングを定例的におよび必要に応じて適時に行なっています。

役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員報酬は、(1) 競争優位の構築と向上のため、多様で優秀な人材を引きつけることができる報酬制度であること、(2) 企

コーポレート・ガバナンス [34,38,39,40,41,42,45,51,52,53]

業価値の継続的な向上を進め、株主と利害を共有できる報酬制度であること、(3) 報酬の決定プロセスが客観的で透明性の高いものであること、を基本的な考え方としています。

取締役および監査役の報酬については、外部調査機関による役員報酬調査データをもとに、当社と規模や業種・業態の類似する大手製造業を同格企業として、毎年ベンチマークを実施し、その報酬制度や報酬水準について当社現行制度・水準と比較検証を行ない、決定しています。

社外取締役を除く取締役の報酬は、以下のとおり構成され、取締役としての役割と役位に応じて定めています。

① 固定報酬

② 短期インセンティブ報酬としての賞与
役位ごとに年間標準予定報酬額の20%程度とし、EVA(経済的付加価値)と売上高・営業利益のそれぞれの目標達成状況に応じて0%～200%で変動することにしています。

③ 長期インセンティブ報酬としてのストックオプション(株式報酬型)
役位ごとに年間標準予定報酬額の10%～20%程度としています。

業務執行から独立した立場である社外取締役の報酬は、固定報酬およびストックオプションのみで構成しています。

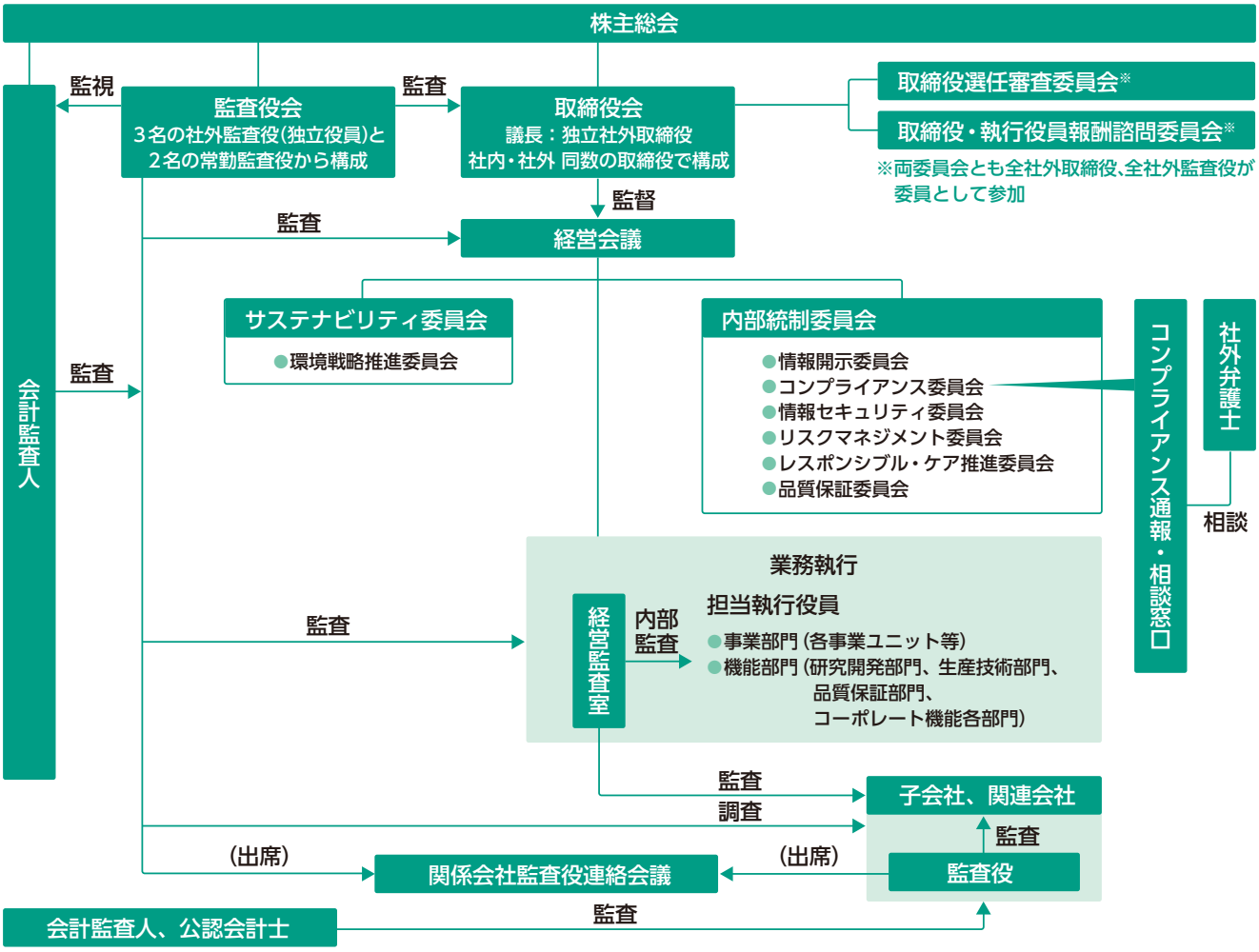
監査役の報酬は、固定報酬のみとしています。

取締役および監査役について、退職慰労金の制度はありません。

なお、2014年における取締役および監査役の報酬等の総額については、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」に記載していますので、そちらをご参照ください。

➡詳細は「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」
http://www.kao.com/jp/ja/corp_imgs/corp_info/governance_001.pdf

内部統制システムを含むコーポレート・ガバナンス体制



※ 花王は、企業経営および日常の業務に関して、必要に応じて、弁護士などの複数の専門家から経営判断上の参考とするためのアドバイスを受ける体制をとっています。(コーポレート・ガバナンス報告書より)

コーポレート・ガバナンス [34,38,39,40,41,42,45,51,52,53]

社外役員の独立性を確保

国内花王グループ

花王は、2010年2月に「社外役員の独立性に関する基準」を制定し、公表しています。また2012年7月には、(株)東京証券取引所の上場規程等の一部改正に伴い、同基準を一部改定しました。社外取締役1名を除き、現任の社外取締役および社外監査役の全員が同基準を満たしており、同証券取引所に独立役員として届け出ています。

➡詳細は「社外役員の独立性に関する基準」
http://www.kao.com/jp/ja/corp_imgs/corp_info/governance_002.pdf

方針／体制［内部統制］

花王は、2006年5月に「内部統制体制の整備に関する方針」を策定し、毎年遵守状況等を確認のうえ、取締役会に報告し、必要に応じて見直しています。

代表取締役社長執行役員を委員長とする「内部統制委員会」が体制整備や運用計画を審議・決定、定期的に評価し、必要に応じて改善しています。

さらに「内部統制委員会」の傘下に6つの委員会を置き、それぞれがPDCAサイクルを回しながら、内部統制の推進と必要に応じた改善を行なっています。「内部統制委員会事務局会議」には、各委員会の主要メンバーである執行役員も参加して、各委員会の活動状況を含めた内部統制体制の整備・推進状況の確認等を行なっています。

花王は、「内部統制報告制度(J-SOX)」に対応するため、「J-SOX事務局」を設置、内部統制の整備・運用と効率的な評価を推進し、財務報告の信頼性の向上に努めています。

今後も継続して内部統制の改善を図っていきます。

内部統制委員会傘下の6委員会

- 情報開示委員会
- コンプライアンス委員会
- 情報セキュリティ委員会
- リスクマネジメント委員会
- レスポンシブル・ケア推進委員会
- 品質保証委員会

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況

国内花王グループ

花王では、反社会的勢力排除に向けた取り組みについて、「内部統制体制の整備に関する方針」においてその体制の整備を掲げるとともに、花王ビジネスコンダクトガイドライン(花王企業行動指針)においても反社会的行為を行なわないことを宣言しています。そして、これらを花王グループ全社員に周知徹底するとともに、ウェブサイトに掲載しています。

また、上記規定に基づき、外部専門機関との連携、反社会的勢力に関する情報の収集・管理および社内体制を整備・維持しています。

さらに、花王グループ全体で継続的な取引先と反社会的勢力排除に関する覚書を締結するなど、契約上のリスクマネジメントにも取り組んでいます。

内部統制のグローバルな一体運営

グローバル

事業運営のグローバル一体推進に対応し、内部統制委員会傘下の6委員会をはじめ、それぞれの会社機関で、各担当分野についてグローバルな一体運営に向けた活動を行なっています。

各委員会において、グローバルに達成すべき目標を定め、活動を推進するために必要なルールの制定等を行ない、活動をグローバルに展開しています。

情報開示

方針／体制

情報開示に関しては、「情報開示指針」に則り、適時適切かつ公平に情報開示することを基本方針としています。開示義務のある情報および株主や投資家に有用な情報を（株）東京証券取引所の有価証券上場規程に基づき日英両文でTDnet※に公開するとともに、自社ウェブサイト上の「投資家情報」ページにも、同時に掲載しています。

今後も「経営トップのメッセージ発信の強化」「国内外機関投資家との対話強化」など、戦略的な情報発信の強化を図っていきます。

※ TDnet（Timely Disclosure network）
適時開示情報伝達システム。上場会社の情報を投資者などにリアルタイムで配信する（株）東京証券取引所のサービス。

➡詳細は「投資家情報」
http://www.kao.com/jp/corp_ir/investors.html
➡詳細は「情報開示指針」
http://www.kao.com/jp/corp_ir/disclosure.html
➡P118「外部評価>SRIインデックスへの組み入れおよび評価」

株主総会の活性化と議決権行使の円滑化を推進

国内花王グループ

株主の皆さまが株主総会の議案を十分に審議いただけるよう、花王は毎年、株主総会の約1カ月前に招集通知を発送しています。さらに、招集通知の発送に先駆け、当社ウェブサイトにおいて、英訳（要約）を含め早期掲載しています。また、より多くの皆さまに議決権を行使していただくため、電磁的方法による議決権行使を導入しています。

さらに、全株式の半数近くを所有する外国人株主の皆さまに迅速かつ公平に情報開示を行なうため、当社ウェブサイトに株主総会での説明内容や議決権行使結果の内容についても和英両文で掲載しています。

第109期定時株主総会
（2015年3月開催）
出席株主数：1,637人

株主・個人投資家との対話を実践

国内花王グループ

花王は、株主や投資家の皆さまとの双方向のコミュニケーションに努めています。

2014年は、6月に株主向け「花王ミュージアム見学会」と「川崎工場見学会」を5日間計10回、12月に「和歌山エコラボミュージアム見学会」を2日間実施し、合計約380人の方々に参加していただきました。

見学会では、当社の執行役員から業績および中期経営計画、株主還元の状況等の説明を行ない、その後株主からの質問に回答しました。

見学会に出席された皆さまからは、「花王の歴史や企業姿勢がわかって良かった」、「日本のモノづくりのすばらしさを教えてもらった」、「会社だけでなく個人もエコについて考えて取り組む必要性を痛感した」などの好意的なご意見を多くいただきました。

今後も株主の皆さまのご意見を取り入れながら、さらにご満足いただける企画を立案・実施していきます。

情報開示

IR活動の概況

グローバル

- 決算説明会(半期決算発表日・通期決算発表日)
- 海外ロードショー(米州・欧州)
- 社長スモールミーティング(年2回)
- 事業説明会(年5回)
- 取材(国内・海外約280件)
- ウェブサイト上での情報開示
- 半期・通期「株主のみなさまへ」(日本語版)の発行
- アニュアルレポート(英語版)の発行
- RSS 配信※によるIR 情報の提供

※ RSS 配信
ウェブサイトで情報更新があるたびに、新着情報を配信するしくみ

機関投資家との建設的な「目的を持った対話」に向けて

グローバル

当社では、スチュワードシップ・コードがすでに導入されている英国をはじめとする海外の機関投資家だけでなく、国内の機関投資家とのエンゲージメント(建設的な「目的を持った対話」)を続けてきました。

日本でも2014年2月に「責任ある機関投資家」の諸原則(日本版スチュワードシップ・コード)が金融庁から公表され、主要な機関投資家が受け入れを表明しています。

このスチュワードシップ・コードに基づき、企業と投資家がどのようなコミュニケーションをとっていくべきか、有意義なエンゲージメントのあり方について機関投資家と意見交換を行ないました。IR活動の中で、さまざまなエンゲージメントの機会を設け、事業戦略のみならず、ESG(Environment, Social, Governance)を含む非財務情報の発信をより一層強化し、持続的成長と企業価値向上に取り組んでいきます。

コンプライアンス【57,DMA】

法と倫理に則って行動し、誠実で清廉な事業活動を行なうため、グローバルでコンプライアンスの浸透・定着を進めています。

方針／体制

方針

花王は、企業理念「花王ウェイ」の「基本となる価値観」の中で、創業者が遺した「正道を歩む」という言葉を掲げています。「正道を歩む」とは、法と倫理に則って行動し、誠実で清廉な事業活動を行なうことです。花王は、この言葉をコンプライアンスの原点と位置づけ、すべてのステークホルダーの支持と信頼に応えていくための指針としています。

推進体制

花王は、代表取締役 常務執行役員を委員長とし、各部門や関係会社からの代表者で構成する「コンプライアンス委員会」を設けています。

同委員会では、

1)「花王ビジネスコンダクトガイドライン(BCG)」等コンプライアンス関連社内規程の制定・改定の審議
2)企業倫理の浸透・定着のための国内外での教育啓発活動
3)コンプライアンス通報・相談窓口の運営・対応状況の確認

等を半年に1回実施し、重要事項や活動概要を適宜取締役会に提案・報告しています。

また、同委員会では事務局を置き、毎月事務局会議を開催しています。事務局会議では、国内外の相談窓口に寄せられた相談の対応状況を確認するほか、コンプライアンスに関する新たな取り組みの検討や、教育啓発の企画立案などを行なっています。

これらの活動は実施とともにモニタリングや評価を行ない、PDCAサイクルによる改善を続けています。

監査とモニタリング

花王ではコンプライアンスについて、経営監査室による監査と、さまざまな形でのモニタリングを実施しています。

●経営監査室による監査

経営監査室により、定期的に全社・全部門に対し業務監査が行なわれており、その監査項目に、接待・贈答に関するガイドラインに基づいた行動の確認など、コンプライアンスにかかわるものがあります。

●自部門診断

毎年1回、各部門のコンプライアンス委員が、所属部門におけるBCGに反する行為の有無やコンプライアンス啓発活動状況について、自己診断を実施しています。

●社員意識調査

2年に1回、全社で実施される社員意識調査「Find」の設問回答を通じて、社員へのコンプライアンス意識の浸透状況を確認しています。

●サプライヤー満足度調査

定期的に社外購買先(サプライヤー)や取引先などを対象に「お取引先満足度調査」を実施し、花王が自らの態度行動について振り返る機会を設けています。

➡P79「カルチャー>サプライヤーとの連携」

●研修でのセルフチェック

コンプライアンス研修の参加者に「コンプライアンス意識のセルフチェック」を実施しています。

「贈収賄防止ガイドライン」の導入

グローバル

花王では、公務員や民間企業等、相手先の属性を問わず贈収賄を行なわないこと、所定の公的手続きを早めるために公務員に支払う少額の支払いである「円滑化のための支払い」を行なわないことをBCGに明記しています。また、BCGの考え方に基づき、花王グループでは政治献金は行なわないことを寄付ガイドラインで定めています。

なお、2014年においては、政治献金は行なっていないことを確認しています。

2014年は、「贈収賄防止ガイドライン」を海外グループも含めて、地域・会社ごとに作成し、導入を進めました。これは、国内・海外グループ共通の贈収賄防止の方針と、各社ごとの接待・贈答等の運用手続きを含むものです。このガイドラインでは、国を超えて公務員を招請する場合の承認手続きも規定しています。また、接待・贈答等を受けた場合には透明性を高める目的で記録を行なうことを定め、運用しています。

コンプライアンス【57,DMA】

「利害の対立の回避に関するガイドライン」の導入

グローバル

花王では、役員や社員が花王グループの義務および責任の忠実な遂行に影響を与える状況を回避し事業を健全に行なうために、「利害の対立の回避に関するガイドライン」を制定しています。2014年は、すでに導入されている国内グループ会社に加え海外グループ会社にも導入しました。

これは、利害の対立が現実化、顕在化、潜在化するおそれがある①役員・社員本人または近親者と花王グループとの競業する行為に関する事項、②役員・社員本人または近親者と花王グループとの取引に関する事項、③役員・社員による花王グループ、取引先、競合会社との金銭貸借や個人的投資の場面において、具体的な事案に応じて許可・届出等を求めることを規定するものです。

「花王ビジネスコンダクトガイドラインハンドブック」を作成

グローバル

2014年には、社員がそれぞれの業務場面において留意すべきことを事例でまとめて紹介する「花王ビジネスコンダクトガイドラインハンドブック」を日本語・英語で作成し、社内のイントラネットや会社のウェブサイトに掲載、社員に提供しました。

2015年は、海外グループ会社社員向けに17言語に翻訳したものを準備する予定です。

「花王ビジネスコンダクトガイドラインハンドブック」

「インテグリティワークショップ」の展開を加速

グローバル

2008年から継続して展開しているBCGを学ぶ研修「インテグリティワークショップ」は、2016年中に海外グループ会社向けの実施完了をめざして、欧州地域のグループ会社から講師を新たに16名選任し、講師向けの研修を行ないました。2015年からの2年間に欧州地域のグループ会社への実施展開をさらに進めていく予定です。

インテグリティワークショップ(欧米 ヘアケア事業)

ベトナム インテグリティワークショップで、Mr.BCGを囲んで

コンプライアンス [57,DMA]

コンプライアンス通報・相談窓口を設置・運用

グローバル

花王グループの運営方針

花王グループでは、社内窓口と社外窓口の2つの窓口を設置・運営しています。

窓口の運営に際しては、会社は通報・相談者のニーズをきちんと確認したうえで、通報者・相談者のプライバシーを保護し、通報・相談したことで不利益を被ることがないように努めるとともに、第三者に確認が必要な場合も、本人の承諾を得て行なっています。

2014年は、花王グループ内で年間180件（海外グループ会社含む）の通報・相談がありましたが、重大なものはありませんでした。相談内容につきましては、職場におけるコミュニケーションに関する相談が7割となっています。

国内グループ会社

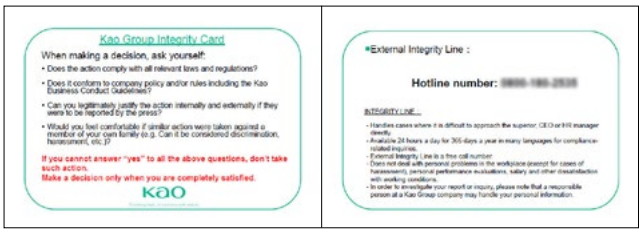
国内では、コンプライアンス委員会事務局が運営する「社内通報・相談窓口」と、弁護士、臨床心理士など外部の専門家に委託している「社外通報・相談窓口」を設けています。社内窓口および社外窓口の一部を除き、お取引先など社外の方からの通報・相談も受け付けています。

海外グループ会社

海外においては、各社の人事部長等に相談できる社内窓口と、社外の委託会社が受ける社外窓口の一つまたは両方の窓口を設置し、運営しています。

社外窓口である「Integrity Line」は、各国グループ会社に設置され、24時間365日、母国語で相談できる窓口です。匿名の相談も受け付けていますが、調査に限界もあることからできるだけ実名で相談することを奨励しています。

2014年は、新しく韓国グループ会社向けの通報・相談窓口を設置しました。



ヨーロッパでのIntegrity Line告知ポスターとインテグリティカード

コンプライアンス違反時の対応

グローバル

花王は、花王グループの事業運営において、会社の重大な法令違反については公表することを原則としています。

2014年の花王グループの事業運営において、重大な法令違反はありませんでした。

なお、個人の利益を追求した軽微な不正行為や、業務データ等の不適切な取り扱いがありましたが、それに対して改善対応を社内で行ないました。

※ ただし、法令・契約等により秘密保持義務がある場合、公益を損なうおそれのある場合、プライバシーに配慮が必要な場合、そのほかにこれに類するような制限がある時には、公表できない場合があります。

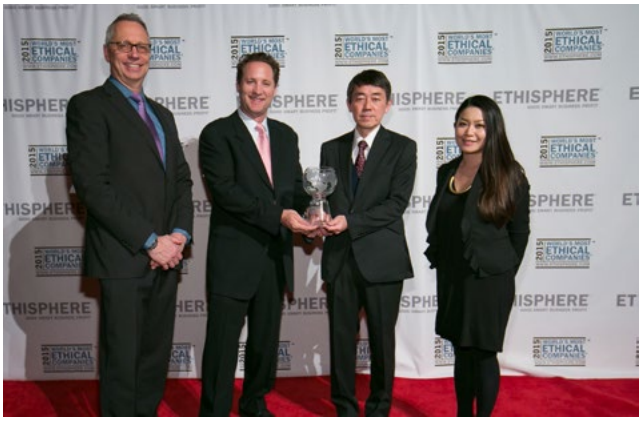
コンプライアンス [57,DMA]

「World's Most Ethical Companies(世界で最も倫理的な企業)」に9年連続選定

グローバル

花王は、米国のシンクタンク「Ethisphere Institute(エシスフィア・インスティテュート)」が2015年3月に発表した「World's Most Ethical Companies(世界で最も倫理的な企業)2015」に選定されました。これは2007年の初回選定以来、9年連続となります。9年連続の選定は日本の企業では唯一であり、世界の日用消費財企業・化学企業の中でも唯一です。

この賞は、「企業倫理と法令遵守に関する取り組み」「レピュテーション、リーダーシップ、イノベーション」「CSR関連活動(企業の責任ある活動・市民活動)」「企業統治」「倫理的企業風土」の5軸において評価を行なうものです。今回も、1,000社を超える企業が評価に参加し、最終的に世界で57業種、132社(うち、米国以外の企業は30社)が選定されました。この受賞は、花王グループの社員一人ひとりが、日々の業務を遂行するにあたって、創業から伝わる「正道を歩む」の精神を、「花王ウェイ」やBCGの理念に沿って実践してきた姿勢が高く評価されたものと受けとめています。



授賞式

日常業務におけるコンプライアンス徹底のしくみ

国内花王グループ

花王では、「法令エキスパート」と呼ばれる社内担当者が、業務に関連する法令等の施行・改正動向をフォローしており、必要に応じて社内説明会等の情報発信・啓発を行なっています。

また国内の花王グループでは、BCG実践のため各種の社内規程をイントラネットで参照できるようになっています。

2014年にエキスパートにより改正の対応がされた法令等

●弁理士法
●会社法
●労働安全衛生法
など

2014年12月末現在の「法令エキスパート」登録法令数、社内規程登録数の状況

「法令エキスパート」宣言※数:78名の法令エキスパートによる341宣言
社内規程登録数:591件

※法令エキスパート宣言
各所管部門が特定の法令等に対して自主的に「法令エキスパート」としての宣言を行なうもの

知的財産の保護

グローバル

花王では、新しい技術や商品コンセプト、パッケージデザイン、ブランド名などを特許権、意匠権、商標権などの「産業財産権」として確保し、事業活動を推進しています。

これらのうち、技術開発力という重要な企業価値への指標となる特許権については、知的財産センターが中心となり、幅広い分野で戦略的出願を進めています。意匠権や商標権については、ブランド法務部(意匠権の一部は知的財産センター)が事業部門と密接に協力し、費用対効果を勘案しながら出願や管理を担当しています。海外でも積極的な権利取得を進め、国内外ともに他社による権利の侵害があった場合は、法令に則り厳正に対処しています。近年は、アジア地域を中心とした模倣品対策にも注力しています。

一方で、研究開発の初期段階から他社の産業財産権を侵害しないように開発を進める、新製品の発売前に再度他社特許などを確認して必要に応じ対応する、商品パッケージを事前にチェックして権利関係を確認するなど、他社の権利を尊重し、侵害しないしくみを国内外ともに強化しています。

情報セキュリティ【58】

花王グループでは、機密情報、個人情報並びにこれらを利用するために使用するハードウェアやソフトウェア等の保護のため、管理体制を整備するとともに、社員への啓発活動を推進しています。

方針／体制

花王は、法令に則った活動を推進するために、「情報セキュリティポリシー」をベースとする「機密情報取扱いガイドライン」「個人情報取扱いガイドライン」「ITセキュリティガイドライン」を制定しています。情報セキュリティ委員会や各部門のトレードシークレット（TS）推進委員、個人情報管理責任者がそれぞれの役割に応じて情報セキュリティ管理を徹底。委員や責任者、担当者への教育、啓発も継続的に行なっています。情報のグローバル共有に対応し、トレードシークレット・個人情報管理のレベルをグループ全体で高めるよう取り組んでいます。

個人情報保護に関しては、経済産業省等のガイドラインに則り厳格に管理し、業務を外部委託する場合には、委託先に対して契約の締結、監査の実施などを徹底しています。社員の個人情報保護についても、厚生労働省のガイドラインに則り、適切に管理しています。

自主パトロールを実施

国内花王グループ

毎年4、5月に、各部門のトレードシークレット（TS）推進委員と個人情報管理責任者が、自部門の機密情報や個人情報の管理状態を「自主パトロール」しています。2014年のパトロールで浮かび上がった課題である、個人情報の取り扱いを伴う委託先への廃棄等の指示の徹底、2013年に改定した「機密情報取扱いガイドライン」の遵守の徹底、各部門の新入社員や転入者等に対するTS・個人情報保護に関する教育実施の徹底などは、2014年7月に開催した「TS・個人情報保護推進会議」で共有化して、2015年の改善目標としています。

「第21回TS・個人情報保護推進会議」を開催

国内花王グループ

国内の花王グループでは、各部門のTS推進委員と個人情報管理責任者が出席するTS・個人情報の保護を目的とした会議を定期的に開催しています。2014年7月開催の「第21回TS・個人情報保護推進会議」では、大手ITセキュリティ企業の講師による、現代の情報セキュリティ対策における組織内の人間に関する対策の重要性についての講演を実施しました。

個人情報を管理する情報システムの再確認を実施

国内花王グループ

国内の花王グループ各社が取得した個人情報は、それぞれの会社またはグループ外の委託先等の情報システムにて管理されています。他社での大規模な個人情報の流出事件を受けて、グループ会社および委託先等の情報システムにおける個人情報の管理状況をあらためて確認し、セキュリティ維持・改善を行なっています。

リスクマネジメント【2,14,45,46,49】

花王グループの経営目標の達成、事業活動に悪影響を与える可能性(リスク)について、管理体制を整備し、適切に対応していきます。

方針／体制

花王は、経営目標の達成、事業活動に悪影響を与える可能性(リスク)について、さまざまなリスクを想定し、リスクの発生頻度や事業活動への影響を低減させる諸々の対応策を実施するとともに、万が一リスクが現実に起こった場合の被害・損害をできるかぎり小さくするために、必要な備えと訓練を実施しています。

戦略上のリスクについては、所管部門において戦略の前提となる経営環境を含めた短期・中長期計画の進捗をレビューし、関連部門とともにリスクの把握、対応策の検討と実行を行なっています。

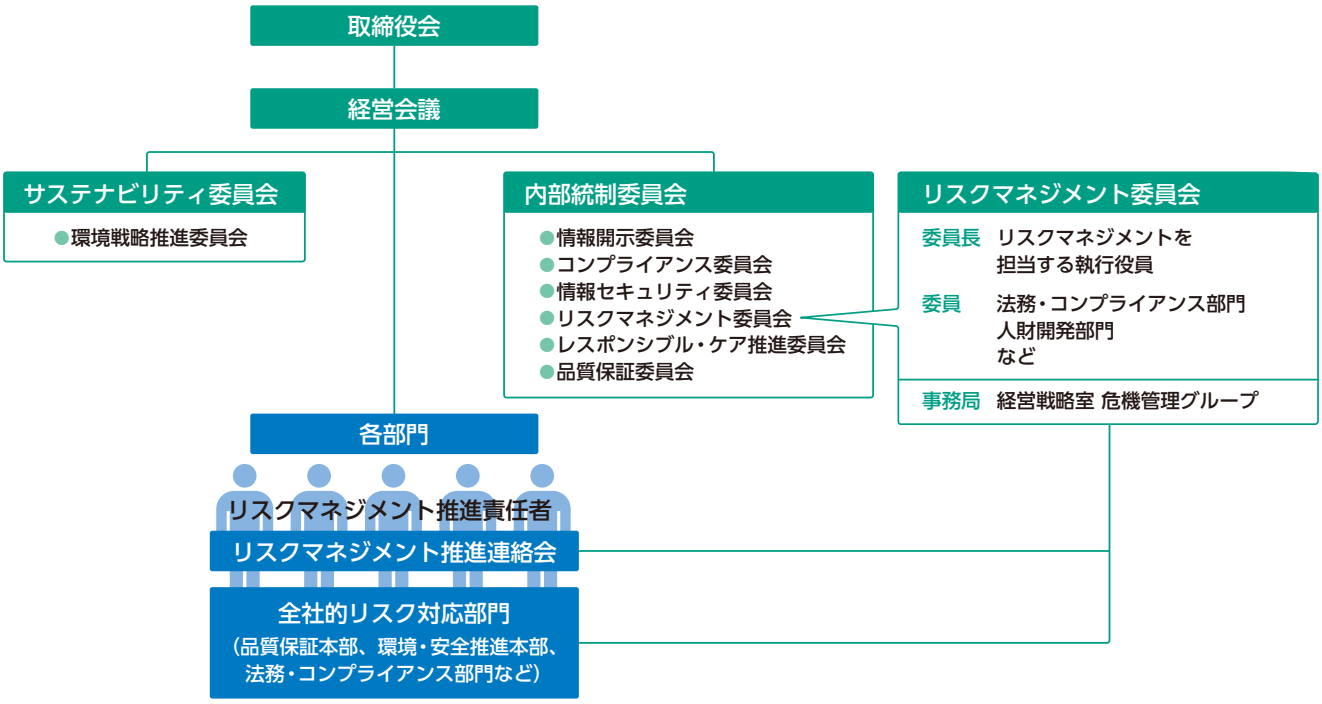
業務運営上のリスクについては、「花王リスクマネジメントポリシー」に基づき、リスクマネジメントを担当する執行役員を委員長とするリスクマネジメント委員会にて、全社横断的なリスク管理の推進状況の把握と、災害、製品品質トラブル、その他の緊急事態発生ごとの対応の基本方針および具体的な対応策の整備・運用計画を定めています。また、部門ごとにリスクマネジメント推進責任者を定め、業務に沿ったリスクの洗い出し、評価、回避・対応策の検討といったリスク管理を日常的に行なっています。

これまで業務運営上のリスク管理の強化を推進してきた経営戦略室 リスクマネジメントグループを危機管理グループに改め、戦略上のリスクについても、全社で対応すべきリスクの想定、対応策の立案を行ない、リスク全般の管理を強化していきます。

なお、緊急事態が発生した時には、所管部門を中心に対策組織を立ち上げ、さらにグループ全体に対する影響の重大さに応じて、代表取締役社長執行役員などを本部長とする対策本部を設置し、迅速な対応を行なうよう定めています。

また、上記の戦略上のリスクと業務運営上のリスクの管理については、定期的および必要の都度、取締役会または経営会議において報告、審議を行なっています。

リスクマネジメント体制



リスクマネジメント [2,14,45,46,49]

目標

花王は、リスクを適切に管理するために下記の重点テーマを定めています。

1. 経営目標の達成、事業活動に重大な悪影響を及ぼすリスクの把握と対応の強化

戦略上のリスクについては、経営トップと部門責任者において戦略の前提となる経営環境を含め、短期・中長期計画(K15)の進捗をレビューし、リスクの把握と対応方針を定めることで、経営目標の達成に向けて適切な対応を図れるようにします。

業務運営上のリスクについては、国内の事業にかかわる主要部門や海外グループ会社に対してリスク調査を行ない、花王グループの事業活動に重大な悪影響を及ぼす可能性のある事象、その発生要因、現状の対応策と課題を把握していきます。そして、この結果をもとに対応方針を定め、リスクに対応すべき部門が優先的に対応を策定し、事業活動への影響を低減させるよう活動していきます。

2. 緊急事態対応体制の整備と強化

事業のグローバル化に伴い、対応すべき緊急事態は事故・災害、政治・社会情勢の混乱、労働争議など広範囲にわたり、緊急事態発生時の事業への影響は、その規模とスピードがともに増してきています。このような国内・国外の事態に対応できるよう、緊急事態対応体制を整備、強化していきます。

3. 事業継続計画(BCP)※の強化

「大規模地震による操業停止」や「感染症の蔓延」など、事業活動の継続に重大な悪影響を及ぼす、さまざまな事象とその要因を想定し、事業継続計画の策定と見直しを継続的に進めることで、お客さまに必要な商品を確実に届け続けるという責任を果たしていきます。

※ 事業継続計画(BCP)
さまざまな事象とその要因により事業活動の中断や停止が引き起こされる場合を想定し、その状況に応じてどの業務、機能をどのような方法で維持・継続させるかを事前に決めておき、会社としての重要業務を継続させるための計画。

経営目標の達成、事業活動に重大な悪影響を及ぼすリスクの把握と対応の強化

グローバル

2014年のリスク調査の結果、従来の事故・災害などによる操業・事業活動の中断・停止のリスクや、商品トラブルのリスクに加え、「個人情報の漏洩」などの会社信用に関わるリスク、海外事業の取引上のリスクの重要性が高まっていることを確認し、対応しました。

また、花王の経営目標の達成、事業活動に悪影響を与える戦略上・業務運営上の重要リスクの把握結果に基づいて、有価証券報告書「事業等のリスク」の記載を変更、修正しました。

2015年は戦略上のリスクと業務運営上のリスクのマネジメント状況の評価・検証を行ない、さらなる対応の強化を図っていきます。

緊急事態対応体制の整備と強化

グローバル

2014年は、前年度に整備した、国内・海外の事故・災害、政治・社会情勢の混乱、労働争議などを対象とする緊急事態対応体制を、海外も含めたグループ全体へ周知徹底を図るとともに、グローバルで通用する連絡基準の見直しなどの課題を抽出し対応を進めました。また、国内では首都直下地震(東京)を想定した初動対応訓練、代替拠点となる関西地区(和歌山、大阪)との広域通報訓練を実施しました。

2015年は、緊急事態対応体制のさらなる強化を進めていきます。

事業継続計画(BCP)の強化

グローバル

2014年も引き続き、今後起こり得る大規模地震を想定し、原材料調達や生産・物流体制の見直しを行なうなど、より強いサプライチェーンを確立し、「お客さまに商品を確実に届ける」ための体制強化を進めました。

原材料調達については、複数業者からの購買や仕様標準化を進め、状況に応じた柔軟な購買が行なえるよう、グループ全体で対応を進めました。また、原材料の供給が停止した場合、代替原料を特定するオンラインシステムを新たに構築し、商品供給体制の強化を図りました。

生産体制の強化については、災害・事故に強い工場をめざした建屋の耐震補強や液状化対策などのハード対応とともに、大規模災害が発生した際に、優先的に生産・供給する商品に対して、グローバルでの生産拠点の再構築を進めました。

2015年は、各部門が実施している事業継続計画の強化策の評価・検証を行ない、計画の実効性を高めていきます。

レスポンシブル・ケア活動【14,DMA】

日々の安全と環境の保全を図るため、化学に携わる企業の自主管理活動「RC(レスポンシブル・ケア)活動」に取り組んでいます。

方針／体制

花王は、商品の開発・生産・流通・消費・廃棄までの事業の全段階において、人の安全と環境の保全に十分配慮し、サステナブルな社会の実現に貢献していくことを理念に掲げています。

そのため、環境・安全推進本部を設け、化学産業界の「環境・安全・健康」に関する自主管理活動「RC(レスポンシブル・ケア)活動」の基本項目※1の考え方に則ったグローバルな「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、毎年目標を策定し、年間計画に基づいた活動を継続的に行なっています。

具体的な活動として、国内花王グループを役割別に8つの部門※2に分け、さらにすべての海外子会社を加え運営しています。

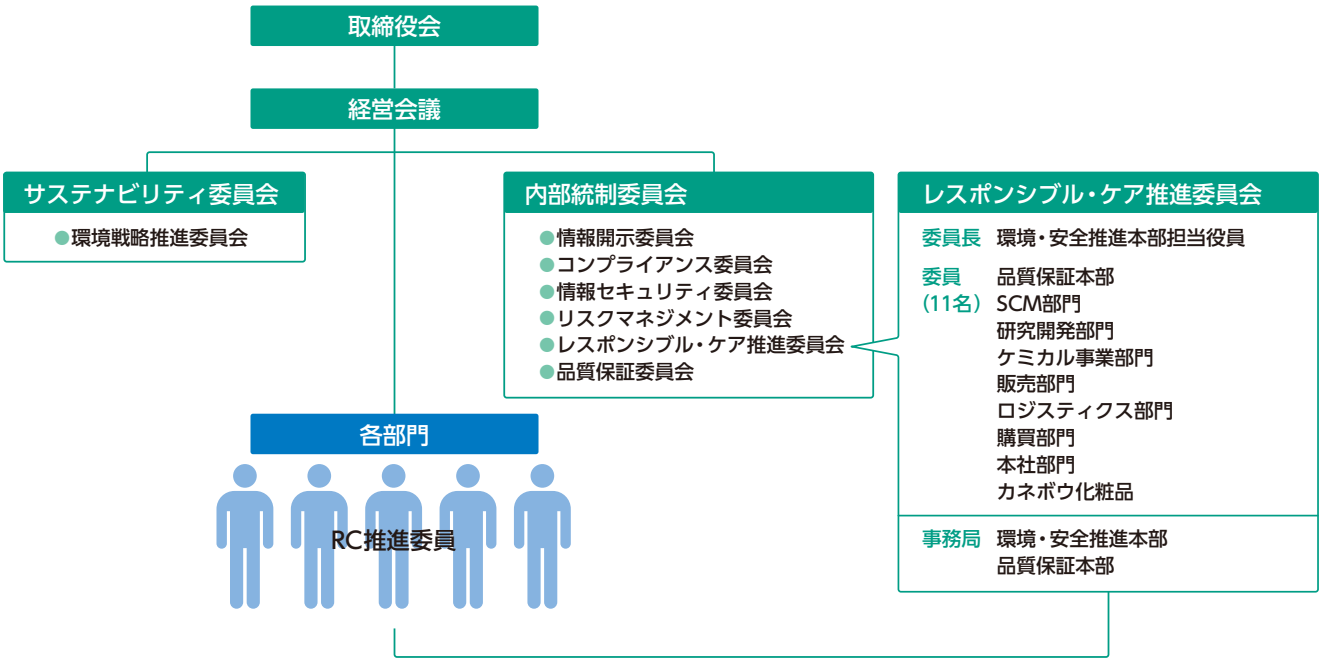
委員会は、環境・安全推進本部の担当役員が委員長を務め、8部門の代表と品質保証本部の担当を加えた委員11名で構成しており、環境・安全推進本部、品質保証本部が事務局を務めています。

※1 RC(レスポンシブル・ケア)活動の基本項目
「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」の5つの推進項目と「社会とのコミュニケーション」

※2 2014年からは本社3部門を統合し一元管理することで、活動を活性化しています。(10部門→8部門)

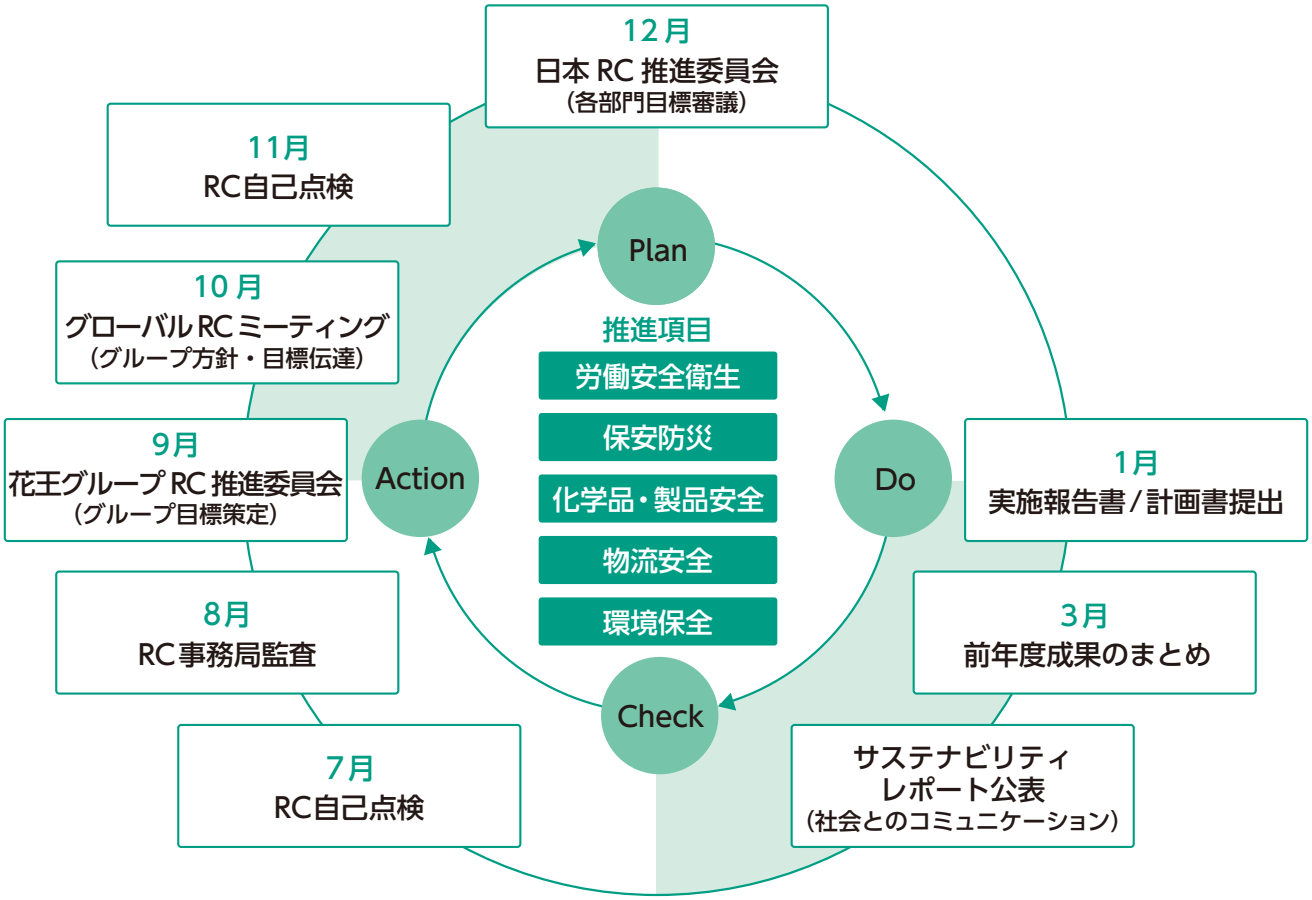
➡詳細は「花王レスポンシブル・ケア方針」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_05_00.html

RC推進体制



レスポンシブル・ケア活動 【14,DMA】

RC活動の年間サイクル



Topics RC世界憲章の改訂版へ社長がサイン

レスポンシブル・ケアは世界の60を超える国で実践されているグローバルな取り組みです。この活動を推進するため国際化学工業協会協議会（ICCA）はレスポンシブル・ケア世界憲章を制定していますが、2014年にその改訂が行なわれました。花王は1995年にレスポンシブル・ケアを採用して以来、グループ全体で環境・安全活動を推進していますが、今般、澤田社長が改訂版にサインすることで、あらためてRC活動の支持と実践を表明しました。今回の改訂では、国際団体やNGOなどを含むさまざまなステークホルダーへもわかりやすく環境・安全の具体的な行動規範を列記することで、企業の社会的な役割、義務、説明責任の重要性が説明されています。

THE INTERNATIONAL COUNCIL OF CHEMICAL ASSOCIATIONS

Responsible Care®
Global Charter

Responsible Care is the global chemical industry's unifying commitment to the safe management of chemicals throughout their life cycle, while promoting their role in improving quality of life and contributing to sustainable development.

As a signatory to the Responsible Care Global Charter my company will actively strengthen the Responsible Care initiative worldwide and is committed to:

1. **A Corporate Leadership Culture** that proactively supports safe chemicals management through the global Responsible Care initiative
2. **Safeguarding People and the Environment** by continuously improving our environmental, health and safety performance the security of our facilities, processes and technologies, and by driving continuous improvement in chemical product safety and stewardship throughout the supply chain
3. **Strengthening Chemicals Management Systems** by participating in the development and implementation of lifecycle-oriented, sound science and risk-based chemical safety legislation and best practices
4. **Influencing Business Partners** to promote the safe management of chemicals within their own operations
5. **Engaging Stakeholders**, understanding and responding to their concerns and expectations for safer operations and products and communicating openly on our performance and products
6. **Contributing to Sustainability** through improved performance, expanded economic opportunities and the development of innovative technologies and other solutions to societal challenges

Kao Corporation
Company

Sept. 19 2014
Date

CEO/President Signature

Responsible Care®

Approved by the ICCA Board of Directors, May 29, 2014

Copyright © ICCA

Only the English language version is the official document

レスポンシブル・ケア活動 【14,DMA】

RC活動の年間サイクル

グローバル

9月に開催する「花王グループRC推進委員会」では、活動方針の徹底やマネジメント体制の強化に関する施策を討議するほか、花王グループの中期目標と8月に行なうRC事務局監査の結果をもとに次年の活動目標を審議します。

12月に開催する「日本RC推進委員会」では、この活動目標をもとに各推進部門のRC推進委員が次年の計画案を発表し、ひとつひとつ審議します。この会議で承認された内容は、RC推進委員が各推進部門に持ち帰り、推進部門ごとにより細かく設けた活動ユニットへ伝えることで、現場に密着した活動の継続的な改善・レベルアップを図っています。

さらに2014年からは、グローバル展開に対応した年間活動スケジュールとするため、12月に「グローバルRCミーティング」を東京で開催、9カ国から13名の環境・安全担当者が参加しました。事務局から、9月に決めた花王グループの中期および2015年目標の説明を行ない、各国に2015年の目標と計画の策定を依頼しました。各国担当者からはRC活動状況を発表してもらい、情報の共有化を図りました。今後は継続的に毎年10月頃に「グローバルRCミーティング」を開催する予定です。

花王グループRC推進委員会

グローバルRCミーティング

環境・安全データベースなどを活用

グローバル

花王は、環境負荷の低減や労働災害・事故発生数の低減を図っていくための環境・安全データベースである「環知安システム」※の海外版を構築して海外子会社を対象に運用を拡大しています。現在は、工場を持つ事業場でデータを入力しており、さらに、オフィスや研究所へも展開しています。

このシステムでは、花王全体の温室効果ガスの排出量や労働災害の発生度数率・強度率などを自動算出することができ、環境負荷低減や労働災害防止に活用しています。

※ 環知安システム
エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、ばい煙排出量、水使用量、排水量、排水濃度測定結果、土壌・地下水測定結果、PRTR法対象化学物質の取り扱い量および排出量・移動量、廃棄物等の発生量・排出量・最終埋立処分量、労働災害統計、交通事故統計など、多様なデータを共有している。

レスポンシブル・ケア活動 【14,DMA】

RC事務局監査を実施

国内花王グループ

花王は、RC活動の進捗状況や課題を把握するために、7月に各推進部門が活動ユニットに対してRC自己点検を、8月にRC推進事務局が各推進部門に対して監査を実施しています。

また、これらの結果を9月の「花王グループRC推進委員会」で委員長である担当役員に報告するとともに、次年の重点活動項目や目標の策定に活かしています。

2014年は、計画の進捗状況や数値目標の達成状況に加え、法的要求事項・基準等の遵守状況などを日本化学工業協会のRCコードに即した細密な新チェックシートに切り替えて監査を行ないました。これまでは各部門とも、満点に近い結果になっていましたが、新チェックシートでの監査により、さまざまな指摘がありました。具体的には、リスクアセスメント、法的要求事項の特定、教育訓練を進める手順や基準、或いは実施記録の不足などが見られました。一部は2015年の改善計画に盛り込まれています。

「グローバルRCミーティング」に参加した海外9カ国にも同じチェックシートを送付し、回答してもらいました。海外グループ会社においては、正式には2015年から同様の監査を実施する予定です。

RC事務局監査実績(2014年)

	生産技術部門	研究開発部門	事業部門	コーポレート部門	関係会社※
設問数	147	130	308	168	342
継続観察が必要な項目	2	5	8	13	19
評価平均点(5点満点)	4.84	4.89	4.11	4.33	4.26

※ 関係会社
(株)カネボウ化粧品、花王カスタマーマーケティング(株)、花王ロジスティクス(株)

RC教育を継続的に実施

国内花王グループ

RC推進事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、ISOや労働安全衛生活動などのRC教育を定期的に実施しています。

2014年にRC推進事務局が社員を対象に実施した教育は21回、のべ289人が参加しました。

RC事務局教育実績(2014年)

	生産技術部門	研究開発部門	事業部門	コーポレート部門	関係会社	合計
開催回数(回)	6	1	2	9	3	21
参加人数(人)	107	13	9	140	20	289

※ 集計範囲:国内花王グループ

➡参考)「ISO等認証取得一覧」
http://www.kao.com/jp/corp_csr/eco_activities_02_11.html

レスポンシブル・ケア活動 【14,DMA】

Topics 日本化学工業協会「安全最優秀賞」「レスポンシブル・ケア優秀賞」「技術特別賞」で受賞

一般社団法人日本化学工業協会（以下、日化協）安全表彰は、化学業界における自主的な保安・安全衛生の推進の一環として、優れた安全活動を実施し業界の規範となる事業所を毎年表彰するものです。栃木事業場は2,261万時間（年数11年）に及ぶ無災害を継続していること、全社員が一体となって安全活動を推進していることなどが評価され、第38回安全表彰にて「安全最優秀賞」を受賞しました。

また、花王カスタマーマーケティングも地域とのコミュニケーション活動が評価され、同協会より「第8回 レスポンシブル・ケア賞」で「レスポンシブル・ケア優秀賞」を受賞しています。

さらに、花王（株）は同協会より、（株）資生堂と共同で開発した「皮膚感作性試験代替法h-CLAT」が評価され「第46回 日化協 技術賞」の「技術特別賞」を受賞しています。

表彰式（2014年5月）

外部評価

SRIインデックスへの組み入れおよび評価

グローバル

SRIインデックス

花王は2014年、世界の代表的なSRIインデックスであるDow Jones Sustainability IndicesのWorld Indexの構成銘柄として選定され、同時に日本企業で唯一、Industry Group Leaderにも選定されました。このほかにも世界の主要なSRIインデックスに継続的に組み入れられています。

➡FTSE4Good 指数シリーズ
http://www.ftse.com/Indices/FTSE4Good_Index_Series/index.jsp
➡MS-SRI モーニングスター社会的責任投資株価指数
http://www.morningstar.co.jp/sri/index.htm

評価

花王は、スイスに拠点を置く、世界の代表的なSRI評価会社RobecoSAM社によってGold Class 2015およびIndustry Mover 2015を同時受賞しました。

外部評価

2014年外部表彰一覧

グローバル

花王グループの2014年の代表的な外部からの表彰をご紹介します。

2014年1月～12月の外部表彰一覧

受賞年月	表彰対象	表彰名／内容	実施団体
2014/03	花王(株)	企業倫理、ガバナンス、社会的責任、市民活動、企業風土の観点から、倫理的に優れた企業を顕彰する「世界で最も倫理的な企業2014」に選定。	Ethisphere Institute
2014/04	花王カスタマーマーケティング(株)	東日本大震災発生時の、日本チェーンドラッグストア協会(JACDS)を通じた被災地への救援物資提供に、厚生労働大臣から感謝状。	厚生労働省
2014/04	花王(株)和歌山工場	工場内のクロマツを中心とした防潮林の良好な保全と、積極的な環境保全の普及啓発により「第2回 みどりの社会貢献賞」を受賞。	公益財団法人都市緑化機構
2014/04	花王(株)	粉末衣料用洗剤「アタック 高活性バイオEXつめかえパック」が、使いやすさ、環境負荷低減、UDに優れている点で「第53回 JPC印刷産業連合会会長賞」を受賞。	一般社団法人日本印刷産業連合会
2014/05	花王(株)	「アタック 高活性バイオEXつめかえパック」が新つめかえシステムの提案、新規材料による使いやすさ、環境負荷低減、UDに優れている点が評価され「第38回 木下賞」を受賞。	公益社団法人日本包装技術協会
2014/05	花王(株)栃木事業場	化学業界において自主的で優れた安全活動を推進し模範となる事業所として、第38回安全表彰「安全最優秀賞」を受賞。	一般社団法人日本化学工業協会
2014/05	花王カスタマーマーケティング(株)	消費者、販売店、自治体とともに行なう、「節水、節電、ごみ削減」の環境コミュニケーション"いっしょにECO"活動が「第8回 レスポンシブル・ケア優秀賞」を受賞。	一般社団法人日本化学工業協会
2014/05	花王(株)	(株)資生堂と共同研究により開発した、細胞を用いた「皮膚感作性試験代替法h-CLAT」が「第46回 技術特別賞」を受賞。	一般社団法人日本化学工業協会
2014/06	花王(株)	家庭科教材『環境のことを考えた快適なくらし』が、教育現場で活用でき、消費者教育推進に貢献する教材として「第9回 消費者教育教材資料優秀賞」を受賞。	公益財団法人消費者教育支援センター
2014/06	花王(株)	字幕付きテレビコマーシャル普及に向けた取り組みが「第64回『電波の日』総務大臣表彰」を受賞。	総務省
2014/06	花王(株)	(地独)東京都健康長寿医療センター研究所および(独)国立長寿医療研究センターとの共同研究論文が、「第21回 日本老年医学会優秀論文賞」を受賞。	社団法人日本老年医学会
2014/08	花王(株)	「2014日本パッケージングコンテスト」で6製品が、環境への配慮と利便性・安全性を両立したモノづくりに高い評価を受け「ジャパンスター賞」などを受賞。	公益社団法人日本包装技術協会
2014/08	花王インダストリアル(タイランド)	廃棄物管理の活動が評価され、IEAT(タイ工業団地公社)廃棄物管理賞のゴールドレベルを受賞。	Industrial Estate Authority of Thailand
2014/10	花王(株)	「クロロゲン酸類を含有するコーヒーの肥満者に対する内臓脂肪低減効果」研究が、第24回日本清涼飲料研究発表会・総会にて「日本清涼飲料研究会賞」を受賞。	一般社団法人全国清涼飲料工業会 日本清涼飲料研究会
2014/10	花王(株)	花王グループ全体の、環境保全活動や、ステークホルダーへの情報開示の姿勢に対し「CDP2014日本報告会」にて「開示優秀企業」に選定。	CDP
2014/11	花王(株)	独創的な発明を知的財産権によって保護し、ビジネスをリードする企業として「Top100グローバル・イノベーター2014(世界の革新的企業トップ100社)」に選定。	Thomson Reuters
2014/11	花王(株)	先進的な「仕事と育児の両立支援」に関する取り組みが、日本の人事部「HRアワード2014」で企業人事部門「優秀賞」を受賞。	日本の人事部((株)アイ・キュー)
2014/12	花王(株)	知的財産(知財)戦略に優れたアジアの企業として、2年連続で「Asia IP Elite(アジア知的財産エリート)」に選出。	Intellectual Asset Management (IAM)
2014/12	花王(株)	「京都環境フェスティバル2014」に参加。環境について楽しく、おもしろく学べた展示・体験ブースの表彰「みんなが選ぶベストブース5」で「最優秀賞」を受賞。	京と地球の共生府民会議

独立保証報告書

独立した第三者保証報告書

2015 年 5 月 26 日

花王株式会社
代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
東京都千代田区大手町 1 丁目 9 番 5 号
代表取締役 斎藤 和彦

当社は、花王株式会社（以下、「会社」という。）からの委嘱に基づき、会社が会社のウェブサイトの http://www.kao.co.jp/corp/sustainability-reports/ja/ディレクトリ以下に作成した花王サステナビリティレポート 2015（以下、「サステナビリティレポート」という。）に記載されている 2014 年 1 月 1 日から 2014 年 12 月 31 日までを対象とした★マークの付されている環境・社会パフォーマンス指標（以下、「指標」という。）に対して限定的保証業務を実施した。

会社の責任

環境省の環境報告ガイドライン 2012 年版及び Global Reporting Initiative のサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第 4 版等を参考にして会社が定めた指標の算定・報告基準（以下、「会社の定める基準」という。）に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

当社の責任

当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準（ISAE）3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」（2003 年 12 月改訂）、ISAE3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」（2012 年 6 月）及びサステナビリティ情報審査協会のサステナビリティ情報審査実務指針（2014 年 12 月改訂）に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主としてサステナビリティレポート上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- サステナビリティレポートの作成・開示方針についての質問及び会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した豊橋工場及び Fatty Chemical (Malaysia) Sdn. Bhd.における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論

上述の保証手続の結果、サステナビリティレポートに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第 1 号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以 上

第三者意見

(株)日本総合研究所 理事
足達 英一郎 氏

1986年一橋大学経済学部卒業。1990年株式会社日本総合研究所入社。経営戦略研究部、技術研究部を経て、現職。主に企業の社会的責任の観点からの産業調査、企業評価を手がける。ISO26000規格化作業部会日本国エクスパート(2005年3月～2009年5月)。
主な共著書に『CSR経営とSRI』(2004年、きんざい)、『地球温暖化で伸びるビジネス』(2007年、東洋経済新報社)、『環境経営入門』(2009年、日本経済新聞出版社)、『環境経営で知るべき10の新知識 「炭素リスク」から「自然資本」まで 世界の潮流』(2015年、日本経済新聞社)など多数。

「利益ある成長」と「社会のサステナビリティへの貢献」との両立を図るとする花王グループ。前者は2014年度業績が5期連続の増収増益になった事実が、それを物語っており、自ずと関心は後者に向きます。昨年度に引き続いて、3つの重点領域を中心に内容がよく整理されたサステナビリティレポートを拝見して、「社会のサステナビリティへの貢献」をめざす取り組みも、さらに充実したものになったことがわかりました。

具体的には①パーム油調達における森林破壊ゼロへの支持表明と「2020年までに花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入する」目標の設定、②サプライチェーンにおける製品含有化学物質管理の拡充、③「贈収賄防止ガイドライン」の導入と「利害の対立の回避に関するガイドライン」の海外グループ会社への拡大、④国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく「花王人権方針」の策定、⑤購買部門の企業倫理データ共有推進団体であるSEDEXへの参加などの記述に特に注目しました。これらはいずれも、ビジネスに直結する重要性の高いイシューに対応し、ネガティブインパクトの緩和という観点から評価される取り組みです。なお、新たな進捗に当たる記述は、従来からの取り組みの記述と並列にするのではなく、メリハリある開示を工夫いただきたいと思います。

他方、Topicsというコラムに掲げられた技術開発、製品開発、製品改善などの事例も、ビジネスの及ぼすポジティブインパクトの発揮という観点から、興味深く拝見しました。今後は、こうした事例が、「利益ある成長」につながっていく戦略や経過もあわせて解説いただくと、より説得力のある開示になるでしょう。

さて、花王グループは2015年度を最終年度とする中期3カ年計画K15において「海外売上高比率30%以上」を目標の一つとして掲げています。また、「社会のサステナビリティへの貢献」として、革新的な商品とサービスを通じ、世界の社会的課題の解決に貢献することをめざしています。昨年度のレポートと比べると、「海外花王グループ」や「グローバル」の開示は、やや増えた印象はありますが、花王グループが世界的視野でどのような社会的課題に危機感を有しているのかは、少々、わかりにくいと感じました。

昨年、国連環境計画が発表した「EMERGING ISSUES IN OUR GLOBAL ENVIRONMENT 2014」と題する報告書では、深刻化する新たな環境問題として「環境中の窒素過多」「感染症の拡大」「破砕プラスチックの海洋汚染」など、花王グループが課題解決に貢献できそうな領域も指摘されています。さらに、本年9月の国連総会では、ポスト2015年開発アジェンダと持続可能な開発目標が議論されると見られ、世界の社会的課題が改めて明確になると考えられます。花王グループには、世界で最もサステナビリティに感度の高い企業をめざして、地球と社会の新たな課題にも先進的に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、カネボウ化粧品のロドデノール配合製品に関する問題については、発症された方への対応、再発防止のための取り組みを開示されたことを是といたします。引き続き、適切な情報開示を要望いたします。

社会的責任投資のための企業情報の提供を金融機関に対して行なっている立場から、本書を通じて理解した花王グループの“社会のサステナビリティへの貢献”に向けた活動ならびにその情報開示に関し、第三者意見を提出したものです。このコメントは、本報告書が、一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算定され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結果を表明するものではありません。

GRI/ISO26000対照表

GRI G4ガイドライン対照表

本報告書には、GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドラインによる標準開示項目の情報が記載されています。

一般標準開示項目

戦略および分析

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
1	組織の持続可能性の関連性と組織の持続性に取り組むための戦略に関して、組織の最高意思決定者(CEO、会長またはそれに相当する上級幹部)の声明	●トップメッセージ	P3
2	主要な影響、リスクと機会	●トップメッセージ ●花王サステナビリティステートメント ●リスクマネジメント	P3 P13 P111

組織のプロフィール

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
3	組織の名称	●花王グループ概要(レポート外)	–
4	主要なブランド、製品およびサービス	●事業紹介	P10
5	組織の本社の所在地	●花王グループ概要(レポート外)	–
6	組織が事業展開している国の数、および組織が重要な事業所を有している国、報告書中に掲載している持続可能性のテーマに特に関連のある国の名称	●主な拠点と事業展開	P12
7	組織の所有形態や法人格の形態	●花王グループ概要(レポート外)	–
8	参入市場(地理的内訳、参入セクター、顧客および受益者の種類を含む)	●グループ会社一覧(レポート外)	–
9	組織の規模 ・総従業員数 ・総事業所数 ・純売上高(民間組織について)、純収入(公的組織について) ・株主資本および負債の内訳を示した総資本(民間組織について) ・提供する製品、サービスの量	●花王グループ概要(レポート外)	–
10	・雇用契約別および男女別の総従業員数 ・雇用の種類別、男女別の総正社員数 ・従業員・派遣労働者別、男女別の総労働力 ・地域別、男女別の総労働力 ・組織の作業の相当部分を担う者が、法的に自営業者と認められる労働者であるか否か、従業員や請負労働者(請負業者の従業員とその派遣労働者を含む)以外の者であるか否かを報告する ・雇用者数の著しい変動(例えば観光業や農業における雇用の季節変動)があれば報告する	●ダイバーシティの推進と人権の尊重	P86
11	団体交渉協定の対象となる全従業員の比率	–	–
12	組織のサプライチェーン	–	–
13	報告期間中に、組織の規模、構造、所有形態またはサプライチェーンに関して重大な変更が発生した場合	–	–
外部のイニシアティブへのコミットメント			
14	組織が予防的アプローチや予防原則に取り組んでいるか否か、およびその取り組み方	●花王サステナビリティステートメント ●情報セキュリティ ●リスクマネジメント ●レスポンシブル・ケア活動	P13 P110 P111 P113
15	外部で作成された経済、環境、社会憲章、原則あるいはその他のイニシアティブで、組織が署名または支持したものを一覧表示	●主な拠点と事業展開 ●外部評価	P12 P118
16	(企業団体など)団体や国内外の提言機関の会員資格を一覧表示	–	–

特定されたマテリアルな側面とバウンダリー

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
17	・組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっているすべての事業体の一覧 ・組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっている事業体のいずれかが報告書の掲載から外れていることはないか	●グループ会社一覧(レポート外)	–
18	・報告書の内容および側面のバウンダリーを確定するためのプロセス ・組織が「報告内容に関する原則」をどのように適用したか	●編集方針 ●花王にとっての重要課題(マテリアリティ)	P2 P13
19	報告書の内容を確定するためのプロセスで特定したすべてのマテリアルな側面の一覧	●3つの重点領域と取り組むべき分野	P14
20	各マテリアルな側面について、組織内の側面のバウンダリー	●編集方針	P2
21	各マテリアルな側面について、組織外の側面のバウンダリー	–	–
22	過去の報告書で提供した情報を修正再記述する場合、その影響および理由	●非財務ハイライト	P9
23	スコープおよび側面のバウンダリーについて、過去の報告期間からの重要な変更	該当なし	該当なし

ステークホルダー・エンゲージメント

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
24	組織がエンゲージメントしたステークホルダー・グループの一覧	●ステークホルダーコミュニケーション	P19
25	組織がエンゲージメントしたステークホルダーの特定および選定基準	●花王サステナビリティステートメント	P13
26	ステークホルダー・エンゲージメントへの組織のアプローチ方法(種類別、ステークホルダー・グループ別のエンゲージメント頻度など)、またエンゲージメントを特に報告書作成プロセスの一環として行ったものか否か	●花王サステナビリティステートメント ●第三者意見	P13 P121
27	ステークホルダー・エンゲージメントにより提起された主なテーマや懸念、およびそれに対して組織がどう対応したか(報告を行って対応したものを含む)。また主なテーマや懸念を提起したステークホルダー・グループ	●花王サステナビリティステートメント	P13

報告書のプロフィール

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
28	提供情報の報告期間(会計年度、暦年など)	●編集方針	P2
29	最新の発行済報告書の日付(該当する場合)	●編集方針	P2
30	報告サイクル(年次、隔年など)	●編集方針	P2
31	報告書またはその内容に関する質問の窓口		裏表紙
GRI内容索引			
32	・組織が選択した「準拠」のオプション ・選択したオプションのGRI内容索引 ・報告書が外部保証を受けている場合、外部保証報告書の参照情報を報告	●編集方針 ●独立保証報告書 ●GRI G4ガイドライン対照表	P2 P120 P122
保証			
33	・報告書の外部保証に関する組織の方針および現在の実務慣行 ・サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基準 ・組織と保証の提供者の関係 ・最高ガバナンス組織や役員が、組織のサステナビリティ報告書の保証に関わっているか否か	●編集方針 ●独立保証報告書	P2 P120

ガバナンス

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
ガバナンスの構造と構成			
34	・組織のガバナンス構造(最高ガバナンス組織の委員会を含む) ・経済、環境、社会影響に関する意思決定の責任を負う委員会があれば特定	●コーポレート・ガバナンス	P101
35	最高ガバナンス組織から役員や他の従業員へ、経済、環境、社会テーマに関して権限委譲を行うプロセス	●花王サステナビリティステートメント	P13
36	組織が、役員レベルの地位にある者を経済、環境、社会テーマの責任者として任命しているか、その地位にある者が最高ガバナンス組織の直属となっているか否か	●花王サステナビリティステートメント	P13

37	ステークホルダーと最高ガバナンス組織の間で、経済、環境、社会テーマについて協議するプロセスを報告する。協議が権限移譲されている場合は、誰に委任されているか、最高ガバナンス組織へのフィードバック・プロセスがある場合は、そのプロセスについて	–	–
38	最高ガバナンス組織およびその委員会の構成	●コーポレート・ガバナンス	P101
39	最高ガバナンス組織の議長が執行役員を兼ねているか否か(兼ねている場合は、組織の経営における役割と、そのような人事の理由)	●コーポレート・ガバナンス	P101
40	・最高ガバナンス組織とその委員会のための指名・選出プロセス ・最高ガバナンス組織のメンバーの指名や選出で用いられる基準	●コーポレート・ガバナンス	P101
41	・最高ガバナンス組織が、利益相反が排除され、マネジメントされていることを確実にするプロセス ・ステークホルダーに対して利益相反に関する情報開示を行っているか ・最低限、次の事項を開示しているか(役員会メンバーの相互就任、サプライヤーその他ステークホルダーとの株式の持ち合い、支配株主の存在、関連当事者の情報)	●コーポレート・ガバナンス ●コンプライアンス	P101 P106
目的、価値、戦略の設定における最高ガバナンス組織の役割			
42	経済、環境、社会影響に関わる組織の目的、価値、ミッション・ステートメント、戦略、方針、および目標、策定、承認、更新における最高ガバナンス組織と役員の役割	●花王サステナビリティステートメント ●コーポレート・ガバナンス	P13 P101
最高ガバナンス組織の能力およびパフォーマンスの評価			
43	経済、環境、社会テーマに関する最高ガバナンス組織の集合的知見を発展・強化するために講じた対策	–	–
44	・最高ガバナンス組織の経済、環境、社会テーマのガバナンスに関わるパフォーマンスを評価するためのプロセス(当該評価の独立性が確保されているか否か、および評価の頻度、当該評価が自己評価であるか否か) ・最高ガバナンス組織の経済、環境、社会テーマのガバナンスに関わるパフォーマンスの評価に対応して講じた措置	–	–
リスク・マネジメントにおける最高ガバナンス組織の役割			
45	・経済、環境、社会影響、リスクと機会の特定、マネジメントにおける最高ガバナンス組織の役割。この報告には、デュー・デリジェンス・プロセスの実施における最高ガバナンス組織の役割も含まれる ・ステークホルダーとの協議が、最高ガバナンス組織による経済、環境、社会影響、リスクと機会の特定、マネジメントをサポートするために活用されているか否か	●コーポレート・ガバナンス ●リスクマネジメント	P101 P111
46	組織の経済、環境、社会的テーマに関わるリスク・マネジメント・プロセスの有効性をレビューする際に最高ガバナンス組織が負う役割	●リスクマネジメント	P111
47	最高ガバナンス組織が実施する経済、環境、社会影響、リスクと機会のレビューを行う頻度	–	–
サステナビリティ報告における最高ガバナンス組織の役割			
48	組織のサステナビリティ報告書の正式なレビューや承認を行い、すべてのマテリアルな側面が取り上げられていることを確認するための最高位の委員会または役職	●花王サステナビリティステートメント	P13
経済、環境、社会パフォーマンスの評価における最高ガバナンス組織の役割			
49	最高ガバナンス組織に対して重大な懸念事項を通知するためのプロセス	●リスクマネジメント	P111
50	最高ガバナンス組織に通知された重大な懸念事項の性質と総数、およびその対応と解決のために実施した手段	–	–
報酬とインセンティブ			
51	最高ガバナンス組織および役員に対する報酬方針	●コーポレート・ガバナンス	P101
52	報酬の決定プロセス	●コーポレート・ガバナンス	P101
53	報酬に関するステークホルダーの意見をどのように求め考慮しているか	●コーポレート・ガバナンス	P101
54	組織の重要事業所があるそれぞれの国における最高給与受給者の年間報酬総額について、同じ国の全従業員の年間報酬総額の中央値(最高給与受給者を除く)に対する比率	–	
55	組織の重要事業所があるそれぞれの国における最高給与受給者の年間報酬総額の増加率について、同じ国の全従業員の年間報酬総額の中央値(最高給与受給者を除く)の増加率に対する比率	–	–

倫理と誠実性

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
56	組織の価値、理念および行動基準・規範(行動規範、倫理規定など)	●花王サステナビリティステートメント ●カルチャー	P13 P76

57	倫理的、法的行為や誠実性に関する事項について助言を与えるため組織内外に設けてある制度(電話相談窓口)	●コンプライアンス	P106
58	非倫理的あるいは違法な行為についての懸念や、組織の誠実性に関する事項の通報のために組織内外に設けてある制度(ライン管理職による上申制度、内部告発制度、ホットラインなど)	●コンプライアンス	P106

特定標準開示項目

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
DMA	(DMA：Disclosures on Management Approach、マネジメント手法の開示項目) a. 側面がマテリアルである理由を報告する。当該側面をマテリアルと判断する要因となる影響を報告する。 b. マテリアルな側面やその影響に関する組織のマネジメント方法を報告する。 c. マネジメント手法の評価を、次の事項を含めて報告する。 ・マネジメント手法の有効性を評価する仕組み ・マネジメント手法の評価結果 ・マネジメント手法に関連して調整を行った場合、その内容 側面一般と側面固有のDMAをすべて含む	●花王サステナビリティステートメント ●エコロジー ●コミュニティ ●カルチャー ●レスポンシブル・ケア活動 ●コンプライアンス	P13 P20 P46 P76 P113 P106

経済

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
側面：経済パフォーマンス			
EC1	創出、分配した直接的経済価値	●有価証券報告書(レポート外) ●財務ハイライト	– P8
EC2	気候変動によって組織の活動が受ける財務上の影響、その他のリスクと機会	●事業活動による環境負荷の低減	P20-39
EC3	確定給付型年金制度の組織負担の範囲	●有価証券報告書(レポート外)	–
EC4	政府から受けた財務援助	–	–
側面：地域での存在感			
EC5	重要事業拠点における地域最低賃金に対する標準最低給与の比率(男女別)	–	–
EC6	重要事業拠点における、地域コミュニティから採用した上級管理職の比率	–	–
側面：間接的な経済影響			
EC7	インフラ投資および支援サービスの展開と影響	●ステークホルダーと連携した環境活動 ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P40-45 P66-75
EC8	著しい間接的な経済影響(影響の程度を含む)	–	–
側面：調達慣行			
EC9	重要事業拠点における地元サプライヤーへの支出の比率	–	–

環境

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
側面：原材料			
EN1	使用原材料の重量または量	●環境に配慮した容器包装 ●製品ライフサイクルと環境負荷	P34 P36
EN2	使用原材料におけるリサイクル材料の割合	●その他の環境負荷 ●製品ライフサイクルと環境負荷	P32 P36
側面：エネルギー			
EN3	組織内のエネルギー消費量	●非財務ハイライト ●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減 ●製品ライフサイクルと環境負荷	P9 P20 P36
EN4	組織外のエネルギー消費量	–	–
EN5	エネルギー原単位	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減	P20

EN6	エネルギー消費の削減量	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減	P20
EN7	製品およびサービスが必要とするエネルギーの削減量	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減	P20
側面：水			
EN8	水源別の総取水量	–	–
EN9	取水によって著しい影響を受ける水源	–	–
EN10	リサイクルおよびリユースした水の総量と比率	–	–
側面：生物多様性			
EN11	保護地域の内部や隣接地域または保護地域外の生物多様性価値の高い地域に所有、賃借、管理している事業サイト	該当なし	該当なし
EN12	保護地域や保護地域外の生物多様性価値の高い地域において、活動、製品、サービスが生物多様性に対して及ぼす著しい影響	●生物多様性への対応	P28
EN13	保護または復元されている生息地	該当なし	該当なし
EN14	事業の影響を受ける地域に生息するIUCN レッドリストおよび国内保全種リスト対象の生物種の総数。これらを絶滅危険性のレベルで分類する	–	–
側面：大気への排出			
EN15	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減	P20
EN16	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減	P20
EN17	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出(スコープ3)	●製品ライフサイクルと環境負荷	P36
EN18	温室効果ガス(GHG)排出原単位	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減	P20
EN19	温室効果ガス(GHG)排出量の削減量	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減	P20
EN20	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	–	–
EN21	NO_x、SO_x、およびその他の重大な大気排出	●その他の環境負荷	P32
側面：排水および廃棄物			
EN22	水質および排出先ごとの総排水量	●<ハイライト>水資源への対応 ●その他の環境負荷	P22 P32
EN23	種類別および処分方法別の廃棄物の総重量	●その他の環境負荷	P32
EN24	重大な漏出の総件数および漏出量	該当なし	該当なし
EN25	バーゼル条約2付属文書I、II、III、VII に定める有害廃棄物の輸送、輸入、輸出、処理重量、および国際輸送した廃棄物の比率	–	–
EN26	組織の排水や流出液により著しい影響を受ける水域ならびに関連生息地の場所、規模、保護状況および生物多様性価値	–	–
側面：製品およびサービス			
EN27	製品およびサービスによる環境影響緩和の程度	●事業活動による環境負荷の低減	P20-39
EN28	使用済み製品や梱包材のリユース、リサイクル比率(区分別)	–	–
側面：コンプライアンス			
EN29	環境法規制の違反に関する高額罰金の額、罰金以外の制裁措置の件数	該当なし	該当なし
側面：輸送・移動			
EN30	製品の輸送、業務に使用するその他の物品や原材料の輸送、従業員の移動から生じる著しい環境影響	●<ハイライト>ライフサイクル全体を通じたCO_2の削減 ●製品ライフサイクルと環境負荷	P20 P36
側面：環境全般			
EN31	環境保護目的の総支出と総投資(種類別)	●環境会計	P38
側面：サプライヤーの環境評価			
EN32	環境クライテリアにより選定した新規サプライヤーの比率	–	–
EN33	サプライチェーンにおける著しいマイナス環境影響(現実的、潜在的なもの)、および行った措置	–	–

側面：環境に関する苦情処理制度			
EN34	環境影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度を通じて申立、対応、解決を行ったものの件数	該当なし	該当なし

社会

労働慣行とディーセント・ワーク

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
側面：雇用			
LA1	従業員の新規雇用者と離職者の総数と比率(年齢、性別、地域による内訳)	●ダイバーシティの推進と人権の尊重	P86
LA2	派遣社員とアルバイト従業員には支給せず、正社員に支給する給付(主要事業拠点ごと)	–	–
LA3	出産・育児休暇後の復職率と定着率(男女別)	●ワーク・ライフ・バランス	P90
側面：労使関係			
LA4	業務上の変更を実施する場合の最低通知期間(労働協約で定めているか否かも含む)	–	–
側面：労働安全衛生			
LA5	労働安全衛生プログラムについてモニタリング、助言を行う労使合同安全衛生委員会に代表を送る母体となっている総労働力の比率	–	–
LA6	傷害の種類と、傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤の比率および業務上の死亡者数(地域別、男女別)	●労働安全衛生・保安防災	P96
LA7	業務関連の事故や疾病発症のリスクが高い労働者数	–	–
LA8	労働組合との正式協定に定められている安全衛生関連のテーマ	–	–
側面：研修および教育			
LA9	従業員一人あたりの年間平均研修時間(男女別、従業員区分別)	–	–
LA10	スキル・マネジメントや生涯学習のプログラムによる従業員の継続雇用と雇用終了計画の支援	●人財開発	P83
LA11	業績とキャリア開発についての定期的評価を受けている従業員の比率(男女別、従業員区分別)	–	–
側面：多様性と機会均等			
LA12	ガバナンス組織の構成と従業員区分別の内訳(性別、年齢、マイノリティーグループその他の多様性指標別)	●ダイバーシティの推進と人権の尊重	P86
側面：男女同一報酬			
LA13	女性の基本給と報酬総額の対男性比(従業員区分別、主要事業拠点別)	–	–
側面：サプライヤーの労働慣行評価			
LA14	労働慣行クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	–	–
LA15	サプライチェーンでの労働慣行に関する著しいマイナス影響(現実のもの、潜在的なもの)と実施した措置	–	–
側面：労働慣行に関する苦情処理制度			
LA16	労働慣行に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったものの件数	該当なし	該当なし

人権

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
側面：投資			
HR1	重要な投資協定や契約で、人権条項を定めているもの、人権スクリーニングを受けたものの総数とその比率	–	–
HR2	業務関連の人権側面についての方針、手順を内容とする従業員研修を行った総時間(研修を受けた従業員の比率を含む)	–	–
側面：被差別			
HR3	差別事例の総件数と実施した是正措置	–	–
側面：結社の自由と団体交渉			
HR4	結社の自由や団体交渉の権利行使が、侵害されたり著しいリスクにさらされているかもしれないと特定された業務やサプライヤー、および当該権利を支援するために実施した対策	–	–

側面：児童労働			
HR5	児童労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、および児童労働の効果的な根絶のために実施した対策	–	–
側面：強制労働			
HR6	強制労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、およびあらゆる形態の強制労働を撲滅するための対策	–	–
側面：保安慣行			
HR7	業務関連の人権方針や手順について研修を受けた保安要員の比率	–	–
側面：先住民の権利			
HR8	先住民族の権利を侵害した事例の総件数と実施した措置	該当なし	該当なし
側面：人権評価			
HR9	人権レビューや影響評価の対象とした業務の総数とその比率	–	–
側面：サプライヤーの人権評価			
HR10	人権クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	–	–
HR11	サプライチェーンにおける人権への著しいマイナスの影響(現実のもの、潜在的なもの)および実施した措置	–	–
側面：人権に関する苦情処理制度			
HR12	人権影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったものの件数	該当なし	該当なし

社会

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
側面：地域コミュニティ			
SO1	事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率	–	–
SO2	地域コミュニティに著しいマイナスの影響(現実のもの、潜在的なもの)を及ぼす事業	該当なし	該当なし
側面：腐敗防止			
SO3	腐敗に関するリスク評価を行っている事業の総数と比率、特定した著しいリスク	–	–
SO4	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	●「正道を歩む」の推進	P76
SO5	確定した腐敗事例、および実施した措置	該当なし	該当なし
側面：公共政策			
SO6	政治献金の総額(国別、受領者・受益者別)	該当なし	該当なし
側面：反競争的行為			
SO7	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により法的措置を受けた事例の総件数およびその結果 ・組織の関与が明らかとなった反競争的行為、反トラスト法違反、独占禁止法違反により、報告期間内に法的措置を受けた事例(終結しているもの、していないもの)の総件数を報告する。 ・法的措置が終結したものについては、結果(決定や判決を含む)の主要点を報告する。	該当なし	該当なし
側面：コンプライアンス			
SO8	法規制への違反に対する相当額以上の罰金金額および罰金以外の制裁措置の件数	該当なし	該当なし
側面：サプライヤーの社会への影響評価			
SO9	社会に及ぼす影響に関するクライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	該当なし	該当なし
SO10	サプライチェーンで社会に及ぼす著しいマイナスの影響(現実のもの、潜在的なもの)および実施した措置	該当なし	該当なし
側面：社会への影響に関する苦情処理制度			
SO11	社会に及ぼす影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度に申立、対応、解決を図ったものの件数	該当なし	該当なし

製品責任

項目	指標	サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
側面：顧客の安全衛生			
PR1	主要な製品やサービスで、安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	●品質保証の取り組み	P48
PR2	製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	–	–
側面：製品およびサービスのラベリング			
PR3	組織が製品およびサービスの情報とラベリングに関して手順を定めている場合、手順が適用される製品およびサービスに関する情報の種類と、このような情報要求事項の対象となる主要な製品およびサービスの比率	●お客さま(消費者)とのコミュニケーション	P57
PR4	製品およびサービスの情報とラベリングに関する規制ならびに自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	該当なし	該当なし
PR5	顧客満足度調査の結果	–	–
側面：マーケティング・コミュニケーション			
PR6	販売禁止製品、係争中の製品の売上	該当なし	該当なし
PR7	マーケティング・コミュニケーション(広告、プロモーション、スポンサー活動を含む)に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	該当なし	該当なし
側面：顧客プライバシー			
PR8	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して実証された不服申立の総件数	該当なし	該当なし
側面：コンプライアンス			
PR9	製品およびサービスの提供、使用に関する法律や規制の違反に対する相当額以上の罰金金額	該当なし	該当なし

ISO26000対照表

中核主題と課題		サステナビリティレポート2015での該当箇所	
		ウェブサイト	PDF
6.2	組織統治	●トップメッセージ ●花王サステナビリティステートメント ●ガバナンス ●環境コミュニケーション ●お客さま(消費者)とのコミュニケーション ●お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション ●サプライヤーとの連携 ●人財開発 ●ダイバーシティの推進と人権の尊重 ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P3 P13 P101 P41 P57 P62 P79 P83 P86 P66-75
6.3	人権	●<ハイライト>人権への取り組み ●花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(レポート外)	P78 –
6.3.3	デューディリジェンス	●花王サステナビリティステートメント ●コンプライアンス ●ダイバーシティの推進と人権の尊重 ●サプライヤーとの連携 ●<ハイライト>人権への取り組み	P13 P106 P86 P79 P78
6.3.4	人権に関する危機的状況	●ダイバーシティの推進と人権の尊重	P86
6.3.5	加担の回避	●ダイバーシティの推進と人権の尊重 ●サプライヤーとの連携	P86 P79
6.3.6	苦情解決	●コンプライアンス ●お客さま(消費者)とのコミュニケーション	P106 P57
6.3.7	差別及び社会的弱者	●ダイバーシティの推進と人権の尊重 ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P86 P66-75
6.3.8	市民的及び政治的権利	●コンプライアンス ●社員との対話の推進	P106 P89
6.3.9	経済的・社会的及び文化的権利	●コンプライアンス ●ダイバーシティの推進と人権の尊重 ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P106 P86 P66-75
6.3.10	労働における基本的原則及び権利	●コンプライアンス ●ダイバーシティの推進と人権の尊重	P106 P86
6.4	労働慣行		
6.4.3	雇用及び雇用関係	●コンプライアンス ●ダイバーシティの推進と人権の尊重	P106 P86
6.4.4	労働条件及び社会的保護	●社員との対話の推進	P89
6.4.5	社会対話	●社員との対話の推進	P89
6.4.6	労働における安全衛生	●労働安全衛生・保安防災 ●レスポンシブル・ケア活動	P96 P113
6.4.7	職場における人材育成及び訓練	●人財開発	P83
6.5	環境		
6.5.3	汚染の予防	●花王サステナビリティステートメント ●その他の環境負荷 ●化学物質の適正管理	P13 P32 P24
6.5.4	持続可能な資源の利用	●花王サステナビリティステートメント ●生物多様性への対応 ●サプライヤーとの連携	P13 P28 P79
6.5.5	気候変動緩和及び適応	●花王サステナビリティステートメント ●事業活動による環境負荷の低減	P13 P20-39
6.5.6	環境保護・生物多様性・及び自然生息地の回復	●花王サステナビリティステートメント ●生物多様性への対応 ●サプライヤーとの連携	P13 P28 P79
6.6	公正な事業慣行		–
6.6.3	汚職防止	●「正道を歩む」の推進 ●コーポレート・ガバナンス ●コンプライアンス	P76 P101 P106

6.6.4	責任ある政治的関与	●コンプライアンス	P106
6.6.5	公正な競争	●「正道を歩む」の推進 ●コーポレート・ガバナンス ●コンプライアンス	P76 P101 P106
6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	●コーポレート・ガバナンス ●コンプライアンス ●お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション ●サプライヤーとの連携	P101 P106 P62 P79
6.6.7	財産権の尊重	●コンプライアンス	P106
6.7	**消費者課題**		
6.7.3	公正なマーケティング・事実に即した偏りのない情報・及び公正な契約慣行	●お客さま(消費者)とのコミュニケーション ●お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション ●サプライヤーとの連携	P57 P62 P79
6.7.4	消費者の安全衛生の保護	●お客さま(消費者)とのコミュニケーション ●品質保証の取り組み	P57 P48
6.7.5	持続可能な消費	●エコロジー ●環境に配慮した容器包装	P20 P34
6.7.6	消費者に対するサービス・支援・並びに苦情及び紛争の解決	●お客さま(消費者)とのコミュニケーション ●品質保証の取り組み	P57 P48
6.7.7	消費者データ保護及びプライバシー	●コンプライアンス	P106
6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	●お客さま(消費者)とのコミュニケーション	P57
6.7.9	教育及び意識向上	●お客さま(消費者)とのコミュニケーション ●品質保証の取り組み ●環境コミュニケーション ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P57 P48 P41 P66-75
6.8	**コミュニティへの参画及びコミュニティの発展**		
6.8.3	コミュニティへの参画	●花王サステナビリティステートメント ●エコロジー ●コミュニティ ●カルチャー ●レスポンシブル・ケア活動 ●環境コミュニケーション ●生物多様性への対応 ●事業を通じたコミュニティへの積極的な関わり ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P13 P20 P46 P76 P113 P41 P28 P46-65 P66-75
6.8.4	教育及び文化	●コミュニティ ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ ●生物多様性への対応	P46 P66-75 P28
6.8.5	雇用創出及び技能開発	●お客さま(法人顧客)とのコミュニケーション	P62
6.8.6	技術の開発及び技術へのアクセス	●事業活動による環境負荷の低減 ●事業を通じたコミュニティへの積極的な関わり ●環境コミュニケーション	P20-39 P46-65 P41
6.8.7	富及び所得の創出	●コミュニティ ●カルチャー ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P46 P76 P66-75
6.8.8	健康	●コミュニティ ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P46 P66-75
6.8.9	社会的投資	●コミュニティ ●カルチャー ●社会的活動を通じたコミュニティとのパートナーシップ	P46 P76 P66-75

自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

花王株式会社

〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10

http://www.kao.com